
令和 7 年度 第 1 回岩手県大規模事業評価専門委員会

日 時 令和 7 年 6 月 16 日（月） 13：30～17：00

場 所 岩手県水産会館 5 階 大会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

狩野専門委員長

3 議 事

（１）令和 7 年度専門委員会の開催スケジュール等について

（２）大規模施設整備事業の事前評価について＜諮問審議＞

- ・中山の園整備事業（滝沢市、一戸町）

（３）大規模公共事業の再評価について＜諮問審議＞

- ・徳田橋地域連携道路整備事業（地域密着型）（盛岡市、矢巾町）

- ・木賊川広域河川改修事業（盛岡市、滝沢市）

- ・北上川（上流）広域河川改修事業（岩手町）

- ・気仙川広域河川改修事業（陸前高田市、住田町）

（４）第 2 回専門委員会（現地調査）について

4 閉 会

岩手県大規模事業評価専門委員会委員名簿(五十音順)

氏 名	職	専門分野	備 考
狩野 徹	佐久大学人間福祉学部 教授	都市計画 建築計画	専門委員長
島田 悦作	岩手県立大学総合政策学部 准教授	財政学 農業経済学 環境経済学	
竹内 貴弘	八戸工業大学大学院工学研究科 教授	海洋工学 水工学	
濱上 邦彦	岩手大学農学部 准教授	農業土木 水工学	
松木 佐和子	岩手大学農学部 准教授	森林 環境	
松山 梨香子	一般財団法人岩手県建築住宅センター 一級建築士	建築	
八重樫 健太郎	北光監査法人 公認会計士	企業会計	
山本 英和	岩手大学理工学部 准教授	地震工学	副専門委員長

(敬称略)

令和 7 年度第 1 回大規模事業評価専門委員会
配付資料一覧

- 資料 No. 1 令和 7 年度大規模事業評価専門委員会の開催スケジュール（案）
- 資料 No. 2 大規模事業評価諮問書（写）
- 資料 No. 3 令和 7 年度大規模事業評価地区 位置図（R 7. 6 諮問）
- 資料 No. 4 大規模事業評価関係資料

【事前評価】

- ・中山の園整備事業（滝沢市、一戸町）

【再評価】

- ・徳田橋地域連携道路整備事業（地域密着型）（盛岡市、矢巾町）
- ・木賊川広域河川改修事業（盛岡市、滝沢市）
- ・北上川（上流）広域河川改修事業（岩手町）
- ・気仙川広域河川改修事業（陸前高田市、住田町）

- 資料 No. 5 令和 7 年度大規模事業評価専門委員会 現地調査行程（案）

令和7年度大規模事業評価専門委員会の開催スケジュール（案）

1. 審議案件（予定）【5件】

【事前評価】

- ① 中山の園整備事業【保健福祉部】
（施設 基本構想後）＜滝沢市、一戸町＞

【再評価】

- ② 徳田橋地域連携道路整備事業（地域密着型）【県土整備部】＜盛岡市、矢巾町＞
③ 木賊川広域河川改修事業【県土整備部】＜盛岡市、滝沢市＞
④ 北上川（上流）広域河川改修事業【県土整備部】＜岩手町＞
⑤ 気仙川広域河川改修事業【県土整備部】＜陸前高田市、住田町＞

※ 新たに事前評価や随時再評価の必要が生じた事業があった場合には、上記案件以外にも審議をお願いすることがあります。

2. 報告案件（予定）【3件】

【事後評価】

- ① 大船渡漁港整備事業【農林水産部】＜大船渡市＞
② 築川ダム建設事業【県土整備部】＜盛岡市＞
③ 岩手県立福岡工業高等学校改築等事業【教育委員会事務局】＜二戸市＞

3. 年間スケジュール（予定）

時 期	専門委員会等の内容	事前評価 （審議）	再評価 （審議）	事後評価等 （報告）	備 考
6/16（月）	第1回専門委員会	○	○	—	諮問審議
7/14（月）	第2回専門委員会	○	○	—	現地調査
8/22（金）	第3回専門委員会	○	○	○	継続審議、答申案審議 事後評価報告
9/8（月）	予備日	○	○	—	継続審議、答申案審議
令和8年 2月上旬	第4回専門委員会	—	—	—	R8年度 スケジュール等

※ 現時点での予定であり、審議等の進捗状況に応じて、審議回数は増減する場合があります。

諮問書（写）



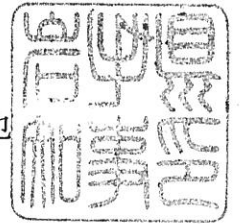
政 第 4 0 号

令和 7 年 6 月 10 日

岩手県政策評価委員会

委員長 吉野 英岐 様

岩手県知事 達 増 拓 也



大規模事業評価について（諮問）

政策等の評価に関する条例（平成 15 年岩手県条例第 60 号）第 10 条第 1 項の規定に基づき、別紙の大規模施設整備事業に係る事前評価及び大規模公共事業に係る再評価について意見を求めます。

(別紙)

大規模施設整備事業事前評価対象事業

番号	担当部名 担当課名	事業名	市町村名	事業計画			事前評価 の要件
				着手 年度	完了 予定 年度	総事業費 (百万円)	
1	保健福祉部 障がい保健 福祉課	中山の園整備事業	滝沢市 一戸町	R7	R10	7,680	基本構想後

大規模公共事業再評価対象事業

番号	担当部名 担当課名	事業名	市町村名	事業計画			再評価 の要件
				着手 年度	完了 予定 年度	総事業費 (百万円)	
2	県土整備部 道路建設課	地域連携道路整備事業（地域密着型） 一般県道大ケ生徳田線 徳田橋	盛岡市 矢巾町	H23	R11	10,400	③
3	県土整備部 河川課	広域河川改修事業 一級河川北上川水系木賊川	盛岡市 滝沢市	S61	R29	15,955	③
4	県土整備部 河川課	広域河川改修事業 一級河川北上川水系北上川（上流） 沼宮内	岩手町	H23	R18	10,991	③
5	県土整備部 河川課	広域河川改修事業 二級河川気仙川水系気仙川 竹駒～向川口	陸前高田市 住田町	H27	R17	7,089	⑤

※再評価の要件：

- ① 事業に着手した年度から起算して5年度内に未着工の事業
- ② 事業に着手した年度から起算して10年度内に完了が見込まれない事業
- ③ 再評価を行った年度の翌年度から起算して5年度又は10年度内に完了する見込みがない事業（再々評価、再々々評価）
- ④ 事業の準備又は実施計画に係る調査に要する費用が予算に計上された年度から起算して5年度内に事業に着手する見込みがない事業（高規格道路及びダム事業に限る）
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、事業計画の重要な変更等により、再評価を実施する必要があると判断した事業（随時再評価）
- ⑥ 国の補助に係る事業の評価に関して国から別に指針等が示された場合で、当該指針等に従って評価を実施する必要があると判断した事業



令和 7 年 6 月 10 日

岩手県大規模事業評価専門委員会

専門委員長 狩野 徹 様

岩手県政策評価委員会

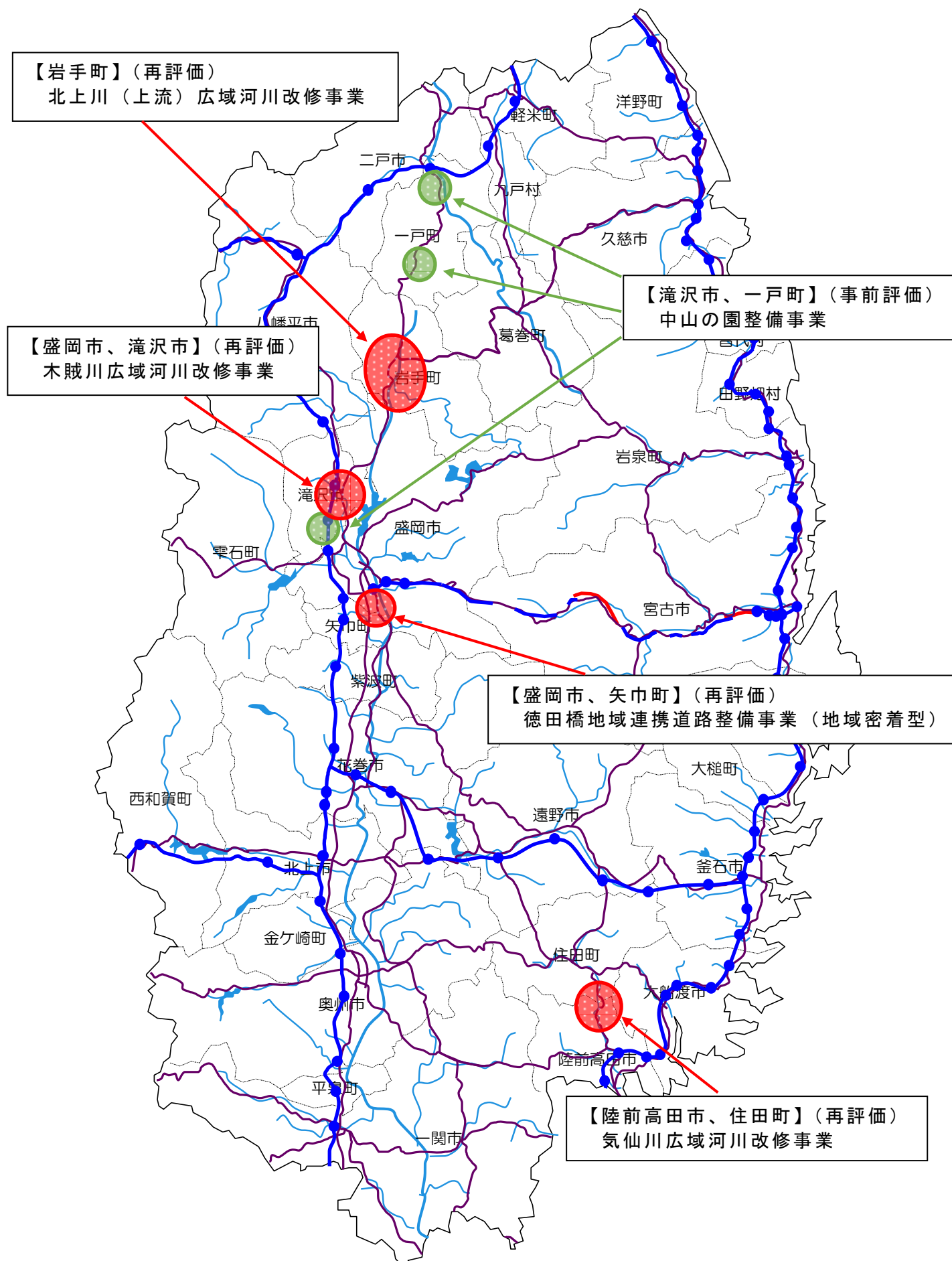
委員長 吉野 英岐



大規模事業評価に係る諮問について

政策等の評価に関する条例（平成 15 年岩手県条例第 60 号）第 10 条第 1 項の規定に基づき、別添のとおり岩手県知事から、大規模施設整備事業に係る事前評価及び大規模公共事業に係る再評価について諮問がありましたので通知します。

令和7年度大規模事業評価地区 位置図 (R7.6 諮問)



大規模事業評価関係資料

大規模施設整備事業 事前評価

番号	担当部局等	事業名	地区名等	ページ
1	保健福祉部 障がい保健福祉課	中山の園整備事業	滝沢市、一戸町	8～42

大規模公共事業 再評価

番号	担当部局等	事業名	地区名等	ページ
2	県土整備部 道路建設課	地域連携道路整備事業 (地域密着型)	一般県道大ケ生徳田線 徳田橋（盛岡市、矢巾町）	43～70
3	県土整備部 河川課	広域河川改修事業	一級河川北上川水系木賊川 (盛岡市、滝沢市)	71～101
4	県土整備部 河川課	広域河川改修事業	一級河川北上川水系北上川 (上流) 沼宮内（岩手町）	102～134
5	県土整備部 河川課	広域河川改修事業	二級河川気仙川水系気仙川 竹駒～向川口 (陸前高田市、住田町)	135～161

大規模施設整備事業事前評価調書の概要

(中山の園整備事業)

担当部課：保健福祉部障がい保健福祉課

1 事業概要 (所在市町村：滝沢市、一戸町)

○事業目的：障害者支援施設等で構成する「中山の園」については、利用者の高齢化や障がいの重度化が進み、身体的介護や医療的ケアのニーズが高まっているほか、開設から40年以上が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいることから、利用者の状態に応じた適切な支援体制や安全性等を確保するため、全面的に改築整備を行おうとするもの。

○事業内容：施設の概要及び規模（施設延床面積、敷地面積等）

整備予定地	所在地	建築方法	定員	施設延床面積	敷地面積
現在地	二戸郡一戸町中山 字軽井沢 139-1	新築・大規模改修	120 人	12,551.2 m ²	395,496 m ²
県立一戸病院建物内 (県有施設)	二戸郡一戸町一戸 砂森 60-1	大規模改修	30 人	1,497.7 m ²	44,868 m ² (病院敷地)
みたけの杜隣接地 (県有地)	滝沢市穴口 203-4	新築	40 人	2,431.1 m ²	10,873 m ²
			190 人	16,480.0 m ²	

○事業期間：令和7年度～令和10年度以降

○総事業費：7,680 百万円（見込み）

○経緯

- ・昭和54年4月 精神薄弱者（知的障がい者）総合援護施設「中山の園」開設
- ・平成18年4月 運営を岩手県から社会福祉法人岩手県社会福祉事業団へ移管
- ・令和元年11月 「中山の園整備基本構想・基本計画検討委員会」を設置し、改築整備の方向性等の検討開始
- ・令和3年6月 「中山の園整備基本構想・基本計画検討委員会ワーキンググループ」を設置し、個別の課題等を検討
- ・令和5年1月 検討委員会及びワーキンググループでの検討結果を踏まえ、施設整備の基本的な方向性を取りまとめた「中山の園整備基本構想」を策定
- ・令和7年2月 中山の園整備概要を公表

2 事業の必要性等

- 施設の老朽化や入所者の高齢化・重度化による状況変化に対応した環境の改善が課題であり、緊急に取り組む必要がある。
- 昭和54年に精神薄弱者（知的障がい者）総合援護施設として県が開設し、平成18年に、運営を社会福祉法人岩手県社会福祉事業団に移管したが、建物は県が所有していることから、建物の改築整備は県が行う必要がある。
- みたけの杜、てしろもりの丘等の類似施設はあるが、各施設ともに定員を満たしており、今後の利用ニーズも見込まれることから、代替の可能性は低い。
- 入所する障がい者が安心して生活できる居住空間を確保するとともに、プライバシーに十分配慮すること。

3 環境保全と景観への配慮

- CO₂ の削減、自然エネルギーの活用など、省エネルギーに配慮した地球環境に優しい施設とするとともに、希少な動植物の生息が確認された場合は、必要に応じて生息環境を保全する取組を実施する。
- 建物の高さや形状、色など周辺環境や景観に配慮する。

4 総合評価

中山の園は、開設以来、県内の知的障がい者支援の中心的役割を果たしてきており、今後も同様の役割が期待されるが、施設・設備の老朽化・狭隘化や入所者の高齢化・重度化による状況変化に対応した環境の改善が課題であることから、早急な事業実施の必要性が認められる。

施設計画については、施設規模は近年建設した障害者支援施設を参考としていること、整備予定地は、障がい者の支援体制基盤が構築されている現在地を中心とし、一部移転改築により医療機関へのアクセス向上を図り、高齢化・重度化に対応する計画となっていることから、内容は妥当である。

さらに、環境や景観への影響についても支障となる要因は認められない。

以上から「事業実施」が適当であるとするものである。

施設の名称	中山の園													
担当部課名	保健福祉部障がい保健福祉課	建設予定地	滝沢市、一戸町											
県の計画との関連	計画：いわて県民計画（2019～2028） （政策）健康・余暇 （政策項目）3 介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境をつくれます。 （具体的な推進方策）⑥ 障がい者が安心して生活できる環境の整備													
事業概要	(1) 事業目的 障害者支援施設等で構成する「中山の園」については、利用者の高齢化や障がいの重度化が進み、身体的介護や医療的ケアのニーズが高まっているほか、開設から 40 年以上が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいることから、利用者の状態に応じた適切な支援体制や安全性等を確保するため、全面的に改築整備を行おうとするもの。													
	(2) 事業の特徴 現在地を中心とした改築整備を行うとともに、施設の一部を医療機関隣接地等へ移転整備することにより、利用者の高齢化・重度化に対応した、障がい特性に応じた施設を整備する。													
	(3) 事業目標 ア 目標 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>指標名</th> <th>基準年次</th> <th>基準値</th> <th>目標年次</th> <th>目標値</th> </tr> <tr> <td>施設入所利用率</td> <td>令和 6 年度</td> <td>92.6%</td> <td>令和 10 年度 (※)</td> <td>97.4%</td> </tr> </table> ※施設利用開始予定初年度				指標名	基準年次	基準値	目標年次	目標値	施設入所利用率	令和 6 年度	92.6%	令和 10 年度 (※)	97.4%
	指標名	基準年次	基準値	目標年次	目標値									
施設入所利用率	令和 6 年度	92.6%	令和 10 年度 (※)	97.4%										
イ 目標の選定理由及び目標値の設定根拠 重度・重複障がいや強度行動障がい等により、地域生活が困難な障がい者への支援を継続するために、障害者支援施設を整備することから、当該施設の入所利用率を指標とするものである。 また、目標値の設定に当たっては、現行施設の居室が相部屋が多いことにより、入所調整が困難となっているが、整備後は原則、個室化により入所利用率の向上を図り、直近 10 年の最高値（平成 30 年度、令和 3 年度）を目標値とする。 【現状値 R6. 4. 1】 176 人（92.6%） 【目標値 R10. 4. 1】 185 人（97.4%）														
(4) 事業実施の背景となる社会経済情勢 - 中山の園は、開設以来、県内各地から他の民間施設では受入れが困難と思われる重度の知的障がい者等を受入れ、長期にわたり施設内においてサービスを提供するとともに、希望者に対しては地域生活への移行支援も積極的に行うなど、県内の知的障がい者支援の中心的役割を果たしてきたところであり、今後も同様の役割を担うことが期待されている。 - 近年では、入所者の高齢化・重度化が進み、心身機能の低下や医療の必要性から、地域生活移行が困難な入所者が増えているが、居室や廊下幅等が狭隘であるほか、段差のある箇所もあり、入所者の高齢化・重度化に対応した環境の改善が必要となっている。														

事業概要

(5) これまでの経緯 ※ 事業決定の経緯、検討委員会での検討状況など

- ・昭和 54 年 4 月 精神薄弱者（知的障がい者）総合援護施設「中山の園」開設
- ・平成 18 年 4 月 運営を岩手県から社会福祉法人岩手県社会福祉事業団へ移管
- ・令和元年 11 月 「中山の園整備基本構想・基本計画検討委員会」を設置し、改築整備の方向性等の検討開始
- ・令和 3 年 6 月 「中山の園整備基本構想・基本計画検討委員会ワーキンググループ」を設置し、個別の課題等を検討
- ・令和 5 年 1 月 検討委員会及びワーキンググループでの検討結果を踏まえ、施設整備の基本的な方向性を取りまとめた「中山の園整備基本構想」を策定
- ・令和 7 年 2 月 中山の園整備概要を公表

(6) 事業の内容

ア 事業主体
岩手県
(施設運営については平成 18 年に、社会福祉法人岩手県社会福祉事業団に移管済)

イ 施設の概要及び規模（施設延べ面積、敷地面積等）
下記は、整備基本計画（案）に記載されている入所施設の規模であり、今後、基本設計等の過程により変更があり得ること（構造、階層は今後検討）。

整備予定地	所在地	建築方法	定員	施設延床面積	敷地面積
現在地	二戸郡一戸町中山 字軽井沢 139-1	新築・大規模改修	120 人	12,551.2 m ²	395,496 m ²
県立一戸病院建物内 (県有施設)	二戸郡一戸町一戸 砂森 60-1	大規模改修	30 人	1,497.7 m ²	44,868 m ² (病院敷地)
みたけの杜隣接地 (県有地)	滝沢市穴口 203-4	新築	40 人	2,431.1 m ²	10,873 m ²
			190 人	16,480.0 m ²	

【施設の機能】

(ア) 障がい特性に応じた居住機能
入所者を、①地域移行を目指す者、②若年の重度障がい者、③強度行動障がい等を有する者、④高齢障がい者等に分類し、それぞれの特性に応じた居住機能を整備する。
(①・②・③は「現在地」、④は「県立一戸病院建物内」及び「みたけの杜隣接地」に入所予定)

(イ) 日中活動支援機能
グループホーム利用者等の地域生活を支援するために、生活介護、就労継続支援等の日中活支援機能を一体的に整備する。

(ウ) 相談支援機能
障がい者や家族への障害福祉サービス利用に関する相談支援を行う。

(エ) 短期入所機能
在宅障がい者の家族の負担を軽減するため、短期入所室を整備する。

(オ) その他の機能

- ・ 医療機関との連携を深化し、通院・入院調整や緊急時の医療対応等を円滑に進める。
- ・ 災害発生時における在宅障がい者等の受入れを推進する。
- ・ 県全体の障がい者に係る専門知識や支援技術の普及・向上を図るため、他の障害者支援施設との連携・協力を推進する。

事業概要

要

ウ スケジュール

下記は、現在想定している整備スケジュールであり、今後情勢等により変更があり得ること。

・ 計画期間 令和 7 年度 ～ 令和 10 年度以降

・ 今後のスケジュール

令和 7 年度～令和 8 年度 設計業者選定、基本設計・実施設計

令和 9 年度以降 施工業者選定、建設工事・解体工事

令和 10 年度以降 順次、供用開始

(7) 整備事業費と収支計画

現時点における整備事業費は、近年整備した類似施設の単価及び延床面積をベースに試算したものであり、今後、検討の過程において変更があり得る。

ア 事業費

(百万円)

総事業費	用地費	本体工事費	設計・地質調査	その他※
7,680	0	6,975	435	270

※ 工事管理等

イ 年度別事業計画

(百万円)

令和 7・8 年度	令和 9 年度以降
435	7,245

ウ 財源

(百万円)

国庫支出金	その他特定財源	一般財源・県債
0	0	7,680

エ コスト縮減への取り組み

(ア) 現在地及び県有地・県有施設の活用のため、新たな用地取得が不要である。

(イ) 計画において、生活介護及び就労継続支援 B 型の事業所を一体的に整備するなど、各施設・機能の共有化、保守の省力化に配慮して汎用性が高く長期間使い続けることのできる構造とする。

(ウ) メンテナンスコストの低減や建物性能の ZEB 化等により、ライフサイクルコストを抑制する。

オ 収支計画

岩手県社会福祉事業団（中山の園）の収支計画（整備後の想定）

項目	区 分	金額（千円）	内 訳
収入見込	障害福祉サービス事業収益等	1,371,039	自立支援給付費、補足給付費等 受入研修費等
	その他	2,448	
	計	1,373,487	
支出見込	人件費	957,047	職員 154 人 事業費、事務費、業務委託費等
	事業費等	330,281	
	計	1,287,328	
収支差額		86,159	

※収支については、現段階で想定しているものであり、利用者の状況、国の制度改正等によって収支の増減があり得ること。

事業の必要性	(1) 事業実施の必要性 ア 県計画との関連 「いわて県民計画（2019～2028）」第2期アクションプランにおいて、 ○ 政策項目No.3「介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境をつくります」では、「障がい者が安心して生活できる環境の整備」を具体的推進方策としており、当該施策を推進するため、老朽化した施設を改築整備することにより、安全・安心で快適な生活環境を提供しようとするもの。 イ 課題や県民のニーズとの関連 近年、障がいの高齢化・重度化、在宅福祉サービス利用者の増加などに対応する必要性が生じていること、及び施設の老朽化により、早期に改築整備するよう強い要望が保護者などの関係者から寄せられている。 ・ 車いすの利用や入浴介助等に適した施設・設備の整備 ・ 心身機能の低下に応じ、適切な支援を行うことができる職員体制の確保 ・ 病状等の急変リスクや通院の頻度が更に高まる可能性を踏まえた、医療機関への搬送・移動時間の短縮
	(2) 県が実施（関与）する必要性 ア 中山の園は、昭和54年に精神薄弱者（知的障がい者）総合援護施設（コロニー）として県が開設し、平成18年に、運営を社会福祉法人岩手県社会福祉事業団（以下、「事業団」という。）に移管し、現在に至っている。 イ 事業団は、昭和46年に県立社会福祉施設の受託運営を行うことを目的に、県の全額出資により設立された団体であり、平成17年度までは県立施設の受託運営、平成18年度からは移管された県の施設を運営している。 ウ 運営は移管したが、建物は県が所有していることから、建物改築整備は県が行う必要がある。 【設置根拠法令】 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（抜粋） 第83条第2項 都道府県は、障害者支援施設を設置することができる。
	(3) 緊急に取り組む必要性 施設の開設から40年以上が経過し、積雪寒冷地という気象条件とも相まって、施設・設備の経年劣化が著しく進行しており、毎年度多額な維持・修繕工事が発生、建物の更なる耐震化への対応も必要となっている。 また、高齢者や身体障がい者を想定した構造・設備となっていないことから、居室や廊下幅等が狭隘であるほか、段差のある箇所もある。 このため、入所者の安全かつ快適な生活環境が十分に確保できないだけでなく、新たな課題や期待される役割に対応するための支援体制の充実に支障が生じかねない状況となっている。 こうしたことから、入所者の生活の質の向上を図るとともに、高齢化や障がいの重度化等の新たな課題にも対応しつつ、これまでと同様に県内の知的障がい者支援の中心的役割を担うために、早急に施設整備を実施する必要がある。

施設 設計 画 の 妥 当 性	(1) 規模の妥当性 入所者の高齢化、精神障がいと知的障がいの重複障がい者や強度行動障がいを有する者等多様な重度障がい者の受入等、利用者の状態に応じた適切な支援体制や安全性等を確保するために必要とされる機能を踏まえ、県内外で新設した類似施設の定員1名当たりの面積等を参考に、諸室の面積を積算して施設規模を見込む。 【参考とした類似施設】 ・ みたけの杜（滝沢市：令和5年2月供用開始） ・ てしろもりの丘（盛岡市：令和2年9月供用開始） ・ 宮城県船形の郷（宮城県大和市：令和2年9月～令和6年4月順次供用開始）
	(2) 代替手段との優位性（既存施設や類似施設、ソフト事業の活用等） みたけの杜、てしろもりの丘等の類似施設はあるが、各施設ともに定員を満たしており、今後の利用ニーズも見込まれることから、代替の可能性は低い。
	(3) 建設予定地選定の妥当性 ア 検討した候補地 ・ 現在地（二戸郡一戸町中山字軽井沢 139-1） ・ 県立一戸病院建物内（二戸郡一戸町一戸砂森 60-1） ・ 障害者支援施設みたけの杜隣接の県有地（滝沢市穴口 203-4） イ 選定理由 ・ 現在地（一戸町中山地区）には、これまでの施設運営面における蓄積のほか、グループホームや就労支援等の地域資源が存在しており、障がい者の支援体制基盤が構築されていることから、現在地を中心に整備を行うこと。 ・ 一方、今後の人口減少の進展等も踏まえ、中長期的な視野に立ち、障がい者のニーズの変化や職員の確保等に柔軟に対応していく必要があること。 ・ 特に、高齢障がい者及び重度障がい者については、高まる医療的ニーズへの対応が必要であり、医療機関近接地への一部移転により医療機関へのアクセス向上を図られるなど、機能分化が可能となること。 ・ 盛岡圏域出身の入所者も多くいることから、盛岡圏域（みたけの杜隣接地）移転により、家族との交流促進が図られること。 ・ 県有施設及び県有地の有効活用により新たな用地取得が不要であり、必要な面積が確保できること。
	(4) 利用者への配慮（ユニバーサルデザイン等） 「中山の園整備基本計画」に次の事項を盛り込み、基本設計、実施設計の段階で具体的に計画することとしている。 ・ 入所する障がい者が安心して生活できる居住空間を確保するとともに、プライバシーに十分配慮する（居室の個室化、高齢障がい者を対象とした施設の居室・廊下幅は介護老人福祉施設の整備基準等に準じて整備、強度行動障がい者専用のユニット整備等）。 ・ 入所する障がい者をはじめとする施設を利用する全ての人々にやさしい施設とするため、建物の内部構造、建物外部、道路から玄関までの交通動線など、ユニバーサルデザインに十分に配慮する。

環境保全と景観への配慮	(1) 環境に対する影響及び保全対策 ア 自然環境の状況や岩手県自然環境保全指針による保全区分 ・ 現在地 岩手県自然環境保全指針では、Dランク（二次的自然環境の中でも、比較的人為性が強いと判断される環境を含む地域）である。 ・ 一戸病院（既存施設の大規模改修のため対象外） ・ みたけの杜隣接地 岩手県自然環境保全指針では、Dランク（二次的自然環境の中でも、比較的人為性が強いと判断される環境を含む地域）及びEランク（自然環境が強度に改変され、あるいはほとんど欠くことにより、概ね人為的環境となっている地域）である。 イ 環境保全対策とそれに要する経費 ・ 「中山の園整備基本計画（案）」では、「CO₂の削減、自然エネルギーの活用など、省エネルギーに配慮した地球環境に優しい施設とする」こととしており、当該施設の整備を検討する基本・実施設計の段階で具体的に計画していくこととしている。 ・ 希少な動植物の生息が確認された場合は、必要に応じて生息環境を保全する取組を実施する。		
	(2) 景観に対する影響及び配慮 「中山の園整備基本計画（案）」では、「建物の高さや形状、色など周辺環境や景観に配慮する」こととしている。 建設予定地の「岩手県景観計画」における景観計画区域は、以下のとおり。 ・ 現在地：一般地域（農山漁村景観地区） ・ 一戸病院：（既存施設の大規模改修のため対象外） ・ みたけの杜隣接地：一般地域（市街地景観地区）		
総合評価	(1) 総合評価 <table border="1" data-bbox="308 1189 1094 1305"> <tr> <td data-bbox="308 1189 536 1305">対応方針案</td> <td data-bbox="536 1189 1094 1305"> 事業実施 ・ 要検討 ・ その他 () () </td> </tr> </table> ○ 総合評価に係るコメント 中山の園は、開設以来、県内の知的障がい者支援の中心的役割を果たしてきており、今後も同様の役割が期待されるが、施設・設備の老朽化・狭隘化や入所者の高齢化・重度化による状況変化に対応した環境の改善が課題であることから、早急な事業実施の必要性が認められる。 施設計画については、施設規模は近年建設した障害者支援施設を参考としていること、整備予定地は、障がい者の支援体制基盤が構築されている現在地を中心とし、一部移転改築により医療機関へのアクセス向上を図り、高齢化・重度化に対応する計画となっていることから、内容は妥当である。 さらに、環境や景観への影響についても支障となる要因は認められない。 以上から「事業実施」が適当であるとするものである。	対応方針案	事業実施 ・ 要検討 ・ その他 () ()
	対応方針案	事業実施 ・ 要検討 ・ その他 () ()	
(2) 要検討、その他の場合対応案			

※ 評価対象事業の位置図、計画平面図等を添付すること。

※ 本様式は、標準的な評価項目を示したものであり、事前評価を行う際には、施設の特性に応じて項目の追加や省略、修正するなど適切な評価項目を検討すること。

中山の園整備事業の概要

事業の目的

障害者支援施設等で構成する「中山の園」については、利用者の高齢化や障がいの重度化が進み、身体的介護や医療的ケアのニーズが高まっているほか、開設から40年以上が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいることから、利用者の状態に応じた適切な支援体制や安全性等を確保するため、全面的に改築整備を行おうとするもの。

事業の特徴

現在地を中心とした改築整備を行うとともに、施設の一部を医療機関隣接地等へ移転整備することにより、利用者の高齢化・重度化に対応した、障がい特性に応じた施設を整備する。

- みたけの杜隣接地（県有地）
- 住所・滝沢市穴口203-4
- 【主な対象】高齢障がい者等（定員40人）
- 【メリット】救急措置の迅速化、

通院・入院可能な病院が複数ある
家族との交流の促進 等



- 県立一戸病院建物内（県有施設）
- 住所・一戸町一戸砂森60-1
- 【主な対象】高齢障がい者等（定員30人）
- 【メリット】医療機関との連携強化
救急措置の迅速化
通院負担の減 等



- 中山の園（現在地）
- 住所・一戸町中山字軽井沢139-1
- 【主な対象】地域移行を目指す者、
若年の重度障がい者、
強度行動障がい等を有する者
等（定員120人）
- 【メリット】住み慣れた施設、
日中活動支援が充実、
地域交流が盛ん 等



○ 中山の園（現在地）

- ・ 現在地の中山の園は、国道4号、I G R銀河鉄道奥中山高原駅まで約1 km、一戸町中心地まで約22 kmの場所に位置している。周辺には奥中山学園、カナンの園等の福祉施設が所在しており当該地域は「福祉の里」と称されている。
- ・ 利用者が慣れ親しんだ施設であり、入所者にとって環境変化による負担が少ない。
- ・ これまで培われてきた地域社会との交流・連携、地域生活の支援を継続して実施することが可能である。
- ・ 現在地での建替えにより、現在の用地や既存インフラの活用、運営体制の継続が可能である。
- ・ 県立一戸病院との連携が継続されるが、病院・消防までの距離が遠いため、医療的ニーズの高い高齢障がい者は一部移転が有効である。



○ 県立一戸病院建物内（県有施設）

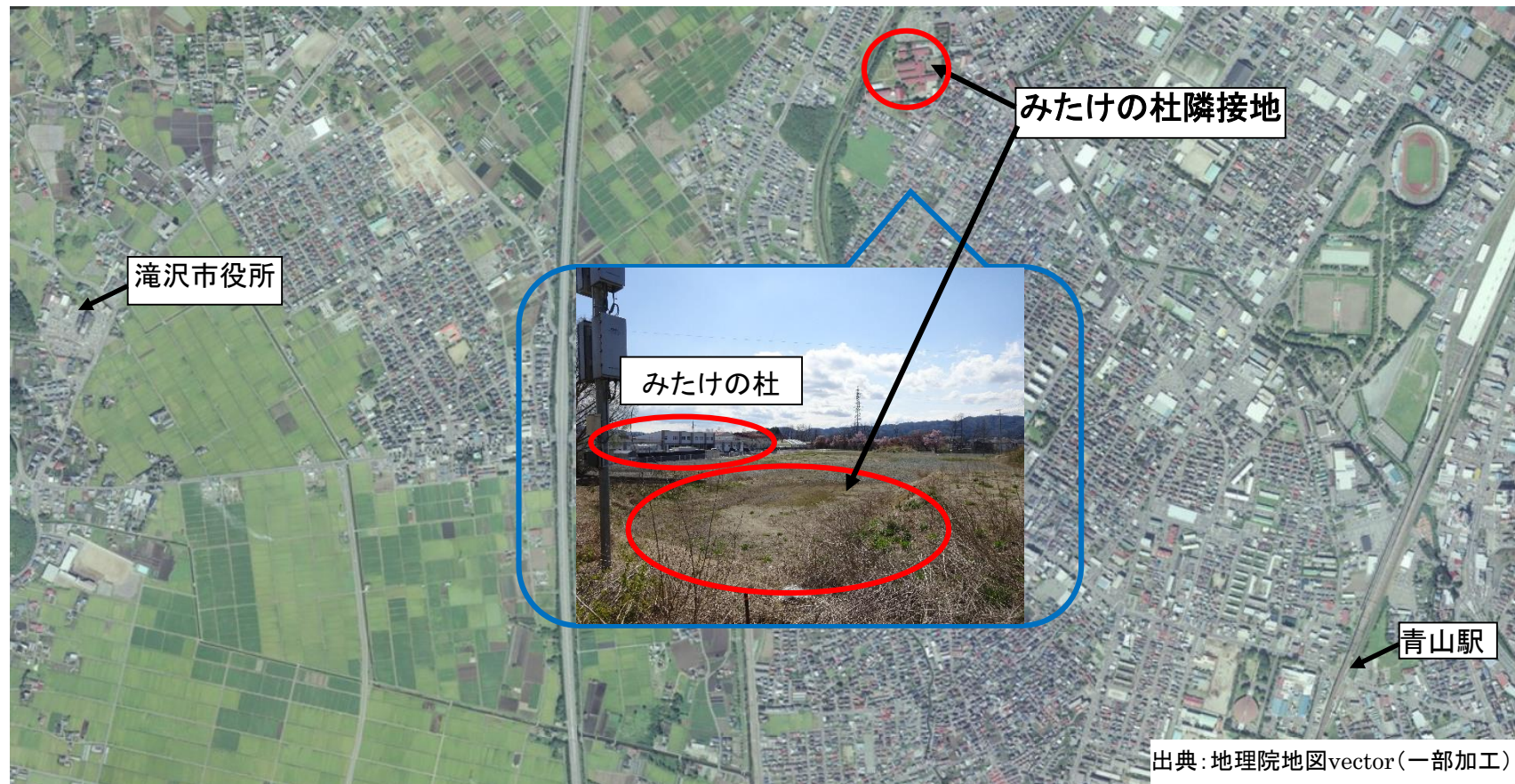
- ・ 県立一戸病院は一戸町の中心部、I G Rいわて銀河鉄道一戸駅から約1.5km、国道4号に至近した場所に位置し、一戸町福祉課、一戸町社会福祉協議会が所在する一戸町総合保健センターに隣接している。
- ・ 当該予定地への移転により県立一戸病院との連携がこれまで以上に密接になり、医療的ケアが必要な重度高齢障がい者への医療支援の向上が見込まれる。
また、救急措置の迅速化、通院負担の軽減が見込まれる。
- ・ 県立一戸病院は築24年のため当面利用可能であること、また、病床の適正化等により生じた空きスペースの活用により、整備費を抑えることができる。



出典：地理院地図vector（一部加工）

○ みたけの杜隣接地（県有地）

- ・ みたけの杜隣接地は、滝沢市南部の盛岡市との境界に位置し、障害者支援施設みたけの杜に隣接する県有地であり、令和2年度まで所在した福祉型障害児入所施設みたけ学園の跡地である。滝沢市役所から約4km、I G Rいわて銀河鉄道青山駅から約3km、青山駅や盛岡駅からは路線バスが発着する等交通の便が良く、医療機関も周辺に複数所在する。
- ・ 当該予定地への移転により、救急措置の迅速化、通院負担の軽減が見込まれるほか、職員確保、家族との交流促進等において有利である。
- ・ また、県有地のため、新たな用地取得が不要である。



中山の園整備事業

（所在市町村：滝沢市、一戸町）

1. 事業概要
2. 事業の必要性
3. 施設計画の妥当性
4. 環境保全と景観への配慮
5. 総合評価

保健福祉部 障がい保健福祉課

1. 事業概要

(1) 事業の目的

障害者支援施設等で構成する「中山の園」については、利用者の高齢化や障がいの重度化が進み、身体的介護や医療的ケアのニーズが高まっているほか、開設から40年以上が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいることから、利用者の状態に応じた適切な支援体制や安全性等を確保するため、全面的に改築整備を行おうとするもの。

(2) 事業の目標

- ・ 施設入所利用率 97.4%（直近10年の最高値）
- ・ 目標年次 令和10年度（施設利用開始初年度）

（参考）施設入所利用率の推移（定員190人、各年4月1日現在）

	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
利用人員(人)	174	174	182	185	184	183	185	183	174	176
施設入所利用率(%)	91.6%	91.6%	95.8%	97.4%	96.8%	96.3%	97.4%	96.3%	91.6%	92.6%

1. 事業概要

(3) これまでの経緯

- ・ 昭和54年 4 月 精神薄弱者（知的障がい者）総合援護施設「中山の園」開設
- ・ 平成18年 4 月 運営を岩手県から社会福祉法人岩手県社会福祉事業団へ移管
- ・ 令和元年11月 「中山の園整備基本構想・基本計画検討委員会」を設置し、
改築整備の方向性等の検討開始
- ・ 令和 3 年 6 月 「中山の園整備基本構想・基本計画検討委員会ワーキンググループ」を設置し、個別の課題等を検討
- ・ 令和 5 年 1 月 「中山の園整備基本構想」を策定
- ・ 令和 7 年 2 月 中山の園整備概要を公表

1. 事業概要

(4) 事業の内容

○ 事業主体
岩手県

○ 施設規模等 下表のとおり（基本設計前であり変更があり得る）

整備予定地	所在地	主な対象者	定員	施設延床面積	敷地面積
現在地	二戸郡一戸町中山字軽井沢 139-1	地域移行を目指す者、若年の重度障がい者、強度行動障がい等を有する者等	120 人	12,551.2 m ²	395,496 m ²
県立一戸病院建物内 (県有施設)	二戸郡一戸町一戸砂森 60-1	高齢障がい者等（医療的ケアが特に必要な者を含む）	30 人	1,497.7 m ²	44,868 m ² (病院敷地)
みたけの杜隣接地 (県有地)	滝沢市穴口 203-4	高齢障がい者等	40 人	2,431.1 m ²	10,873 m ²
			190 人	16,480.0 m ²	

1. 事業概要

事業の特徴

現在地を中心とした改築整備を行うとともに、施設の一部を医療機関隣接地等へ移転整備することにより、利用者の高齢化・重度化に対応した、障がい特性に応じた施設を整備する。



- 県立一戸病院建物内（県有施設）
- 住所・一戸町一戸砂森60-1
- 【主な対象】高齢障がい者等（定員30人）
- 【メリット】医療機関との連携強化
救急措置の迅速化
通院負担の減 等



- みたけの杜隣接地（県有地）
- 住所・滝沢市穴口203-4
- 【主な対象】高齢障がい者等（定員40人）
- 【メリット】救急措置の迅速化、
通院・入院可能な病院が複数ある
家族との交流の促進 等



- 中山の園（現在地）
- 住所・一戸町中山字軽井沢139-1
- 【主な対象】地域移行を目指す者、
若年の重度障がい者、
強度行動障がい者を有する者
等（定員120人）
- 【メリット】住み慣れた施設、
日中活動支援が充実、
地域交流が盛ん 等



1. 事業概要

- 現在地（一戸町中山地区）
 - ・ 現在地の中山の園は、国道4号、I G R銀河鉄道奥中山高原駅まで約1 km、一戸町中心地まで約22 kmの場所に位置している。周辺には奥中山学園、カナンの園等の福祉施設が所在しており当該地域は「福祉の里」と称されている。
 - ・ 利用者が慣れ親しんだ施設であり、入所者にとって環境変化による負担が少ない。
 - ・ これまで培われてきた地域社会との交流・連携、地域生活の支援を継続して実施することが可能である。
 - ・ 現在地での建替えにより、現在の用地や既存インフラの活用、運営体制の継続が可能である。
 - ・ 県立一戸病院との連携が継続されるが、病院・消防までの距離が遠いため、医療的ニーズの高い高齢障がい者は一部移転が有効である。



出典：地理院地図vector(一部加工)

1. 事業概要

○ 県立一戸病院建物内（県有施設）

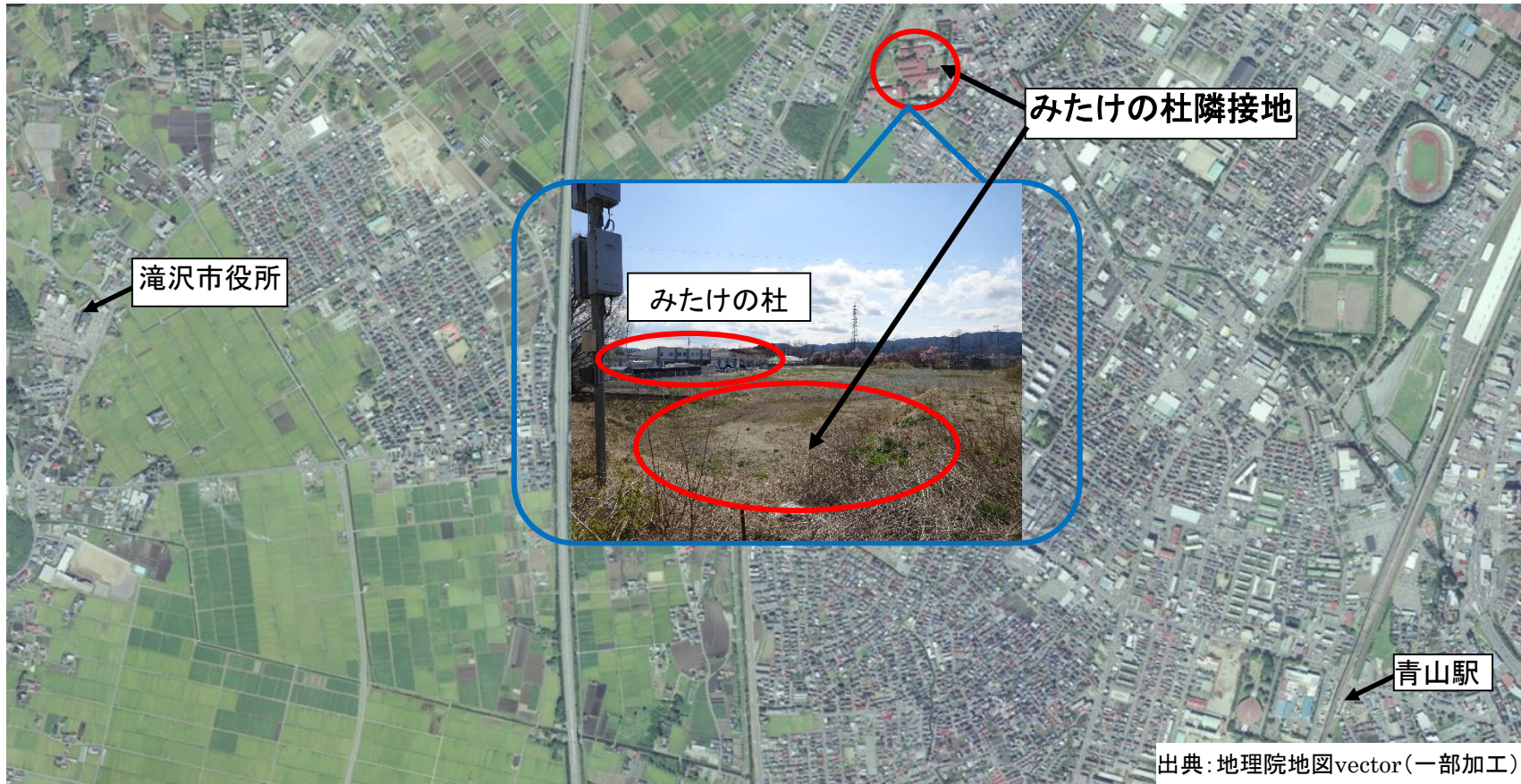
- ・ 県立一戸病院は一戸町の中心部、I G Rいわて銀河鉄道一戸駅から約1.5km、国道4号に至近した場所に位置し、一戸町福祉課、一戸町社会福祉協議会が所在する一戸町総合保健センターに隣接している。
- ・ 当該予定地への移転により県立一戸病院との連携がこれまで以上に密接になり、医療的ケアが必要な重度高齢障がい者への医療支援の向上が見込まれる。
また、救急措置の迅速化、通院負担の軽減が見込まれる。
- ・ 県立一戸病院は築24年のため当面利用可能であること、また、病床の適正化等により生じた空きスペースの活用により、整備費を抑えることができる。



1. 事業概要

○ みたけの杜隣接地（県有地）

- ・ みたけの杜隣接地は、滝沢市南部の盛岡市との境界に位置し、障害者支援施設みたけの杜に隣接する県有地であり、令和2年度まで所在した福祉型障害児入所施設みたけ学園の跡地である。滝沢市役所から約4km、I G Rいわて銀河鉄道青山駅から約3km、青山駅や盛岡駅からは路線バスが発着する等交通の便が良く、医療機関も周辺に複数所在する。
- ・ 当該予定地への移転により、救急措置の迅速化、通院負担の軽減が見込まれるほか、職員確保、家族との交流促進等において有利である。
- ・ また、県有地のため、新たな用地取得が不要である。



出典：地理院地図vector(一部加工)

1. 事業概要

(4) 事業の内容

○ 施設の機能

ア 障がい特性に応じた居住機能

入所者を、①地域移行を目指す者、②若年の重度障がい者、③強度行動障がい等を有する者、④高齢障がい者等に分類し、それぞれの特性に応じた居住機能を整備する。

イ 日中活動支援機能

グループホーム利用者等の地域生活を支援するために、生活介護、就労継続支援等の日中活支援機能を一体的に整備する。

ウ 相談支援機能

障がい者や家族への障害福祉サービス利用に関する相談支援を行う。

エ 短期入所機能

在宅障がい者の家族の負担を軽減するため、短期入所室を整備する。

オ その他の機能

- ・ 医療機関との連携を深化し、通院・入院調整や緊急時の医療対応等を円滑に進める。
- ・ 災害発生時における在宅障がい者等の受入れを推進する。
- ・ 県全体の障がい者に係る専門知識や支援技術の普及・向上を図るため、他の障害者支援施設との連携・協力を推進する。

1. 事業概要

(5) 今後のスケジュール

○ 計画期間 令和7年度～令和10年度以降

○ スケジュール

- ・ 令和7年度～令和8年度
- ・ 令和9年度以降
- ・ 令和10年度以降

設計業者選定、基本設計・実施設計
施工業者選定、建設工事・解体工事
順次、供用開始

1. 事業概要

(6) 整備事業費

総事業費 76億8,000万円（見込み）

現時点における整備事業費は、近年整備したてしろもりの丘（R2年度）及びみたけの杜（R4年度）の単価及び延床面積をベースに試算したものであり、今後、検討の過程において変更があり得る。

（単位：百万円）

総事業費	用地費	本体工事費	設計・地質調査	その他
7,680	0	6,975	435	270

工事監理費等

【コスト縮減への取組】

- 現在地及び県有地・県有施設の活用のため、新たな用地取得が不要である。
- 計画において、生活介護及び就労継続支援B型の事業所を一体的に整備するなど、各施設・機能の共有化、保守の省力化に配慮して汎用性が高く長期間使い続けることのできる構造とする。
- メンテナンスコストの低減や建物性能のZEB化等により、ライフサイクルコストを抑制する。

2. 事業の必要性

(1) 県計画との関連

○政策項目No. 3

「介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境をつくれます」

【具体的推進方策】 障がい者が安心して生活できる環境の整備



老朽化した施設を改築整備することにより、
安全・安心で快適な生活環境を提供

2. 事業の必要性

(2) 課題や県民ニーズとの関連

- ・ 車いすの利用や入浴介助等に適した施設・設備の整備
- ・ 心身機能の低下に応じ、適切な支援を行うことができる職員体制の確保
- ・ 病状等の急変リスクや通院の頻度が更に高まる可能性を踏まえた、医療機関への搬送・移動時間の短縮

早期に改築整備するよう強い要望が保護者などの関係者から寄せられている。

【廊下】 車椅子でのすれ違いが困難



【居室】 4人部屋を2～3人で使用 【浴室】 入浴に介助を必要とする者の割合は9割近い



2. 事業の必要性

(3) 県が実施する必要性

- 中山の園は、昭和54年に精神薄弱者（知的障がい者）総合援護施設として県が開設し、平成18年に、運営を社会福祉法人岩手県社会福祉事業団に移管。
- 事業団は、昭和46年に県立社会福祉施設の受託運営を行うことを目的に、県の全額出資により設立された団体であり、平成17年度までは県立施設の受託運営、平成18年度からは移管された県の施設を運営している。
- 運営は移管したが、建物は県が所有していることから、建物改築整備は県が行う必要がある。

【設置根拠法令】

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（抜粋）
第83条第2項 都道府県は、障害者支援施設を設置することができる。

2. 事業の必要性

(4) 緊急に取り組む必要性

- ・ 施設の開設から40年以上が経過し、積雪寒冷地という気象条件とも相まって、施設・設備の経年劣化が著しく進行しており、毎年度多額な維持・修繕工事が発生、建物の更なる耐震化への対応も必要
- ・ 高齢者や身体障がい者を想定した構造・設備となっていないことから、居室や廊下幅等が狭隘であるほか、段差のある箇所もある。

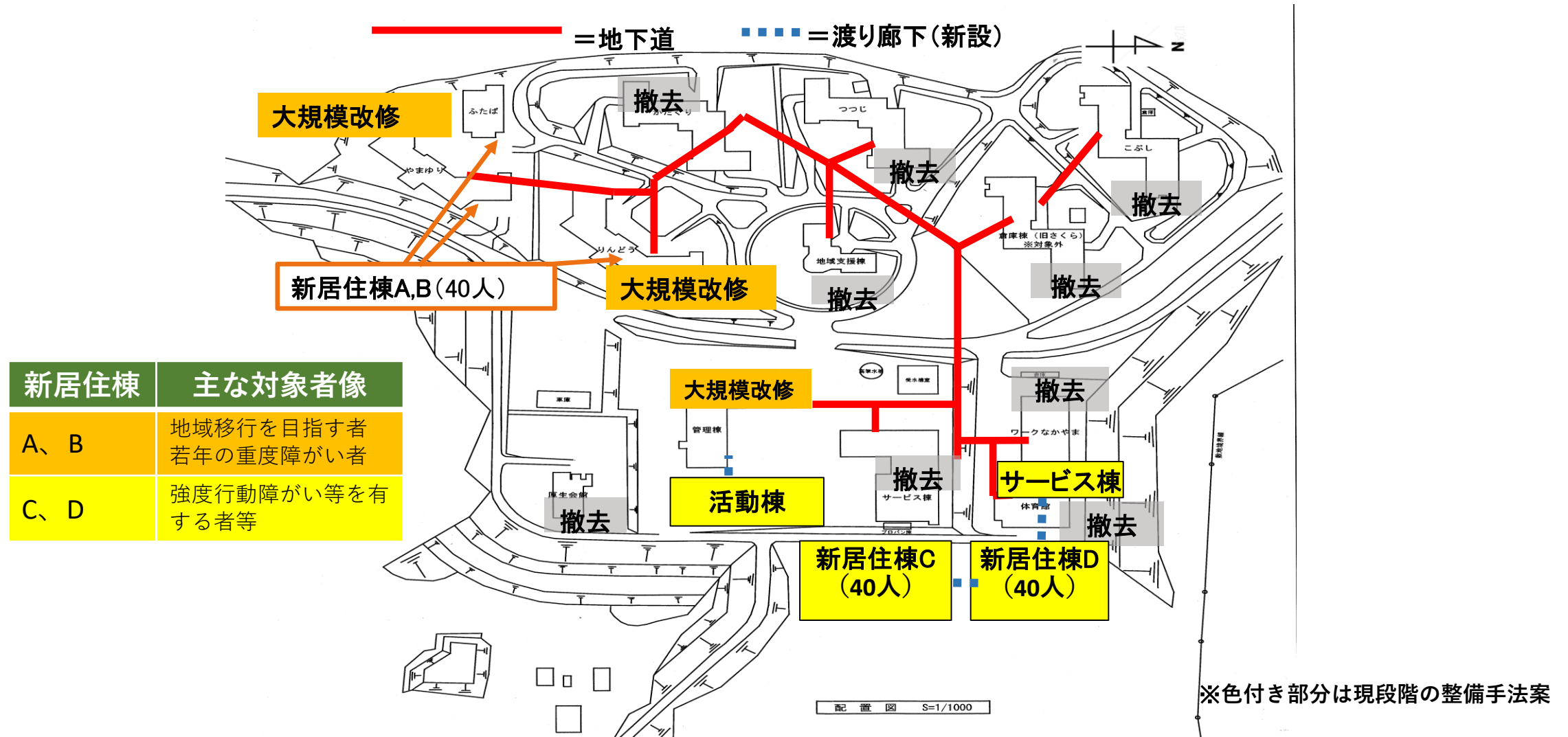


入所者の安全かつ快適な生活環境が十分に確保できないだけでなく、新たな課題や期待される役割に対応するための支援体制の充実にも支障が生じかねない状況

早急に施設整備を実施する必要あり

3. 施設計画の妥当性

現在地 整備位置図(イメージ)



3. 施設計画の妥当性

○各施設の整備内容及び施設規模

(単位: m²)

整備予定地	整備施設名	建築方法	定員	整備内容	現状(A)	整備後(B)	増減(B-A)
現在地	新居住棟A・B★	大規模改修	40人	居室の個室化、老朽化による不具合解消、建物の長寿命化	8,023.0	7,448.7	▲ 574.3
	新居住棟C・D★	新築	80人 (各40人)	居室(個室)、食堂、訓練・作業室、浴室等整備			
	活動棟	新築	(現行程度)	生活介護、就労の利用者のための訓練作業室、食堂、浴室等整備【2施設を1施設に統合】	1,858.0	1,008.4	▲ 849.6
	管理診療棟	大規模改修		施設管理上必要な設備機能を更新、建物の長寿命化	1,478.0	1,478.0	0.0
	サービス棟	新築		厨房、洗濯室整備【ボイラー室廃止】	1,574.3	670.8	▲ 903.5
	体育館	解体			665.0	0.0	▲ 665.0
	厚生会館	解体			719.1	0.0	▲ 719.1
	職員宿舎	大規模改修、解体		老朽化による不具合解消、建物の長寿命化	5,533.0	1,078.5	▲ 4,454.5
	その他施設	継続使用、解体			1,938.5	866.8	▲ 1,071.7
	小計				21,788.9	12,551.2	▲ 9,237.7
県立一戸病院建物内	新居住棟E★	大規模改修	30人	居室の個室化、食堂、訓練・作業室、浴室等整備		1,497.7	1,497.7
みたけの杜隣接地	新居住棟F★	新築	40人	居室(個室)、食堂、訓練・作業室、浴室等整備		2,431.1	2,431.1
計					21,788.9	16,480.0	▲ 5,308.9
うち居住棟★					8,023.0	11,377.5	3,354.5

3. 施設計画の妥当性

(1) 規模の妥当性

利用者の状態に応じた適切な支援体制や安全性等を確保するために必要とされる機能を踏まえ、県内外で新設した類似施設の定員 1 名当たりの面積等を参考に、諸室の面積を積算して施設規模を見込む。

【参考とした類似施設】

- ・ みたけの杜（滝沢市：令和 5 年 2 月供用開始）
- ・ てしろもりの丘（盛岡市：令和 2 年 9 月供用開始）
- ・ 宮城県船形の郷（宮城県大和市：令和 2 年 9 月～令和 6 年 4 月順次供用開始）

3. 施設計画の妥当性

(1) 規模の妥当性【類似施設との比較】

	整備後			現施設		類似施設					
	整備予定地	定員	面積 (定員1人当たり面積)	定員	面積 (定員1人当たり面積)	てしろもりの丘あおば		みたけの杜		船形の郷(宮城県)	
						定員	面積 (定員1人当たり面積)	定員	面積 (定員1人当たり面積)	定員	面積 (定員1人当たり面積)
新居住棟A・B	現在地	40人	3,251.1㎡ (81.3㎡/人)	40人 +40人	2,799.3㎡ (35.0㎡/人)	30+短期2人	2,295.7 ㎡ (71.7 ㎡/人)	30+短期2人	2,092.7 ㎡ (65.4 ㎡/人)	80人	3,652.2 ㎡ (45.6 ㎡/人)
新居住棟C		40+短期2人	2,128.5㎡ (50.6㎡/人)	40人	1,408.6㎡ (35.2㎡/人)	30+短期2人	2,295.7 ㎡ (71.7 ㎡/人)	30+短期2人	2,092.7 ㎡ (65.4 ㎡/人)	80人	3,652.2 ㎡ (45.6 ㎡/人)
新居住棟D		40人	2,069.1㎡ (51.7 ㎡/人)	40人	1,408.6㎡ (35.2㎡/人)	30+短期2人	2,295.7 ㎡ (71.7 ㎡/人)	30+短期2人	2,092.7 ㎡ (65.4 ㎡/人)	80人	3,652.2 ㎡ (45.6 ㎡/人)
活動棟		40人	1008.4㎡ (25.2 ㎡/人)	45人	1,464.9 ㎡ (36.6 ㎡/人)	30人	731.6 ㎡ (24.4 ㎡/人)	40人	738.6 ㎡ (18.5 ㎡/人)	20人	412.4 ㎡ (20.62 ㎡/人)
サービス棟		160人	670.8 ㎡ (4.2 ㎡/人)	230人	1,574.3 ㎡ (6.8 ㎡/人)	70人	206.8 ㎡ (2.9 ㎡/人)	30人	246.79 ㎡ (8.2 ㎡/人)	260人	416.8 ㎡ (1.60 ㎡/人)
新居住棟E	一戸病院建物内	30人	1,497.7 ㎡ (49.9 ㎡/人)	40人	1,408.6㎡ (35.2㎡/人)	30+短期2人	2,295.7 ㎡ (71.7 ㎡/人)	30+短期2人	2,092.7 ㎡ (65.4 ㎡/人)	80人	3,652.2 ㎡ (45.6 ㎡/人)
新居住棟F	みたけの杜隣接地	40+短期2人	2,431.1㎡ (57.8 ㎡/人)	40人	1,408.6㎡ (35.2㎡/人)	30+短期2人	2,295.7 ㎡ (71.7 ㎡/人)	30+短期2人	2,092.7 ㎡ (65.4 ㎡/人)	80人	3,652.2 ㎡ (45.6 ㎡/人)

(2) 代替手段との優位性

みたけの杜、てしろもりの丘等の類似施設はあるが、各施設ともに定員を満たしており、今後の利用ニーズも見込まれることから、代替の可能性は低い。

3. 施設計画の妥当性

(3) 建設予定地選定の妥当性

ア 検討した候補地

- ・ 現在地（二戸郡一戸町中山字軽井沢139-1）
- ・ 県立一戸病院建物内（二戸郡一戸町一戸砂森60-1）
- ・ 障害者支援施設みたけの杜隣接の県有地（滝沢市穴口203-4）

イ 選定理由

- ・ 現在地（一戸町中山地区）には、これまでの施設運営面における蓄積のほか、グループホームや就労支援等の地域資源が存在し、障がい者の支援体制基盤が構築されていることから、現在地を中心に整備を行うこと。
- ・ 一方、今後の人口減少の進展等も踏まえ、中長期的な視野に立ち、障がい者のニーズの変化や職員の確保等に柔軟に対応していく必要があること。
- ・ 特に、高齢障がい者及び重度障がい者については、高まる医療的ニーズへの対応が必要であり、医療機関近接地への一部移転により医療機関へのアクセス向上を図られるなど、機能分化が可能となること。
- ・ 盛岡圏域出身の入所者も多くいることから、盛岡圏域（みたけの杜隣接地）移転により、家族との交流促進が図られること。
- ・ 県有施設及び県有地の有効活用により新たな用地取得が不要であり、必要な面積が確保できること。

3. 施設計画の妥当性

(4) 利用者への配慮

「中山の園整備基本計画」に次の事項を盛り込み、基本設計、実施設計の段階で具体的に計画する。

- 入所する障がい者が安心して生活できる居住空間を確保するとともに、プライバシーに十分配慮する。
 - 居室の個室化
 - 高齢障がい者等を対象とした施設の居室・廊下幅は介護老人福祉施設の整備基準等に準じて整備
 - 強度行動障がい者専用のユニット整備
- 入所する障がい者をはじめとする施設を利用する全ての人々にやさしい施設とするため、建物の内部構造、建物外部、道路から玄関までの交通動線など、ユニバーサルデザインに十分に配慮する。

4. 環境保全と景観への配慮

(1) 環境に対する影響及び保全対策

【建設予定地】

- ・ 現在地（一戸町中山地区）
岩手県自然環境保全指針による環境保全区分は、**Dランク**である。
- ・ みたけの杜隣接地（県有地）
岩手県自然環境保全指針による環境保全区分は、**D及びEランク**である。

区分	内容	保全目標	保全方向
D	二次的自然環境の中でも、比較的人為性が強いと判断される環境を含む地域	自然環境と十分に調和した社会活動が営まれるよう配慮しながら、自然環境の保全を図る。	事業の実施に当たっては、自然環境の保全に配慮する。
E	自然環境が強度に改変され、又はほとんど欠くことにより、おおむね人為的環境となっている地域	残された自然の保全を図るとともに、自然環境と調和した生活空間の創出を図る。	自然環境に留意しながら適正な利用に努めるとともに、緑地などの自然環境の修復、育成に努める。

- ・ CO₂の削減、自然エネルギーの活用など、省エネルギーに配慮した地球環境に優しい施設とする。
- ・ 希少な動植物の生息が確認された場合は、必要に応じて生息環境を保全する取組を実施する。

5. 総合評価

- 中山の園は、開設以来、県内の知的障がい者支援の中心的役割を果たしてきており、今後も同様の役割が期待される。
- 施設・設備の老朽化・狭隘化や入所者の高齢化・重度化による状況変化に対応した環境の改善が課題であることから、早急な事業実施の必要性が認められる。
- 施設計画については、施設規模は近年建設した障害者支援施設を参考としていること、整備予定地は、障がい者の支援体制基盤が構築されている現在地を中心とし、一部移転改築により医療機関へのアクセス向上を図り、高齢化・重度化に対応する計画となっていることから、内容は妥当である。
- さらに、環境や景観への影響についても支障となる要因は認められない。

【対応方針案】 事業実施

大規模公共事業評価再評価調書の概要

(徳田橋 地域連携道路整備事業 (地域密着型))

担当部署：県土整備部 道路建設課

1 事業概要 (路線名：一般県道大ケ生徳田線、所在市町村：盛岡市、矢巾町)

○事業目的：一般県道大ケ生徳田線は、盛岡市大ケ生と矢巾町西徳田を結び、北上川を渡る徳田橋 (S37 架橋) は、盛岡市の住宅地と矢巾町市街地を結ぶ通勤通学ルートであるため、地域住民の生活道路としての役割を担っている。

また、令和元年 9 月には岩手医科大学附属病院が矢巾町西徳田地区へ移転し、救急搬送ルートとしても重要な路線である。

しかし、当該地区に架橋されている徳田橋は、老朽化に伴う床版や伸縮装置の補修のため交通規制が生じていること、幅員狭小のために大型車のすれ違いが困難となっており、近隣工業団地からの生產品の搬出等に支障があることなど、円滑な交通の支障となっている。

このことから、現道の徳田橋を架替え、また前後区間についても道路改良を行うことにより、橋梁の老朽化や大型車すれ違い困難の解消及び歩行者等の安全性、快適性が向上されることにより安全で円滑な交通機能が確保される。

○事業内容：計画延長：L=1,200m 計画幅員：W=6.5(16.0)m 橋梁延長：L=365.0m

○事業期間：平成 23 年度～令和 11 年度 (前回再評価時：平成 23 年度～令和 10 年度)

○総事業費：10,400 百万円 (前回再評価時：9,065 百万円)

令和 7 年度までの投資額 8,351 百万円、進捗率 80.3% (事業費ベース)

2 事業の進捗状況等

○令和 6 年 3 月 23 日に新橋が供用されており、整備効果が発現している。

○旧橋撤去工事は着手済みであることから事業完了の目途が立っている。

3 社会経済情勢等の変化

○新橋の供用により、岩手医科大学附属病院への救急搬送ルートが確保された。

4 コスト縮減対策及び代替案

○コスト縮減対策は、橋梁の主桁規格や桁数の見直しや使用材料の規格変更により、約 94 百万円の縮減を図っている。

○新橋は供用開始しており、今後は旧橋撤去工事を進めるものであり、代替案立案の可能性はない。

5 総合評価

○「事業の進捗状況等」については、総事業費の変更と事業期間の変更はあるものの、令和 6 年 3 月に新橋が供用しており、今後は河川管理者との協議内容に基づき、洪水時の河川の阻害となり河川氾濫の危険性がある旧橋を撤去するものである。

○「社会経済情勢等の変化」については、社会情勢に大きな変化はなく、事業費の増額はあるものの順調に事業を推進している。

○以上のことから、総合評価を「事業継続」とした。

大規模公共事業 再評価調書

令和7年5月21日作成

事業名	地域連携道路整備事業 (地域密着型)		補助	単独	担当部課名	県土整備部道路建設課	
路線名等	おおがゆうとくたせん 一般県道大ケ生徳田線		地区名	とくたはし 徳田橋	市町村	盛岡市、矢巾町	

〔事業根拠法令等：道路法第15条、第56条〕

事業概要

(1) 事業目的

○路線の位置付け

- 一般県道大ケ生徳田線は、盛岡市大ケ生を起点とし、矢巾町西徳田に至る路線であり、北上川を渡り、一般国道4号や盛岡南IC等の交通拠点と一般国道396号を結ぶ重要な幹線道路である。
- 北上川以東の盛岡市の住宅地と矢巾町市街地を結ぶ通勤通学ルートであり、地域住民の生活道路としての役割を担っている。
- 令和元年9月には岩手医科大学附属病院が矢巾町西徳田地区へ移転し、救急搬送ルートとしても重要な路線である。

○事業目的

- 当該地区に架橋されている徳田橋（S37架橋）は老朽化に伴う床版や伸縮装置の補修のため交通規制が生じていること、幅員狭小のために大型車のすれ違いが困難となっており、近隣工業団地からの生産品の搬出等に支障があることなど、円滑な交通の支障となっていた。
- 橋梁の前後区間においても線形不良による見通しが悪く、人身事故が発生しており、安全な通行の支障となっていた。
- このことから、徳田橋を架替え、幅員狭小及び線形不良区間を解消し、大型車、救急車両等の通行確保と生活道路としての機能向上を図るとともに地域の産業の向上を支援するものである。

○整備によって得られる効果

- 橋梁の老朽化や大型車すれ違い困難の解消及び歩行者等の安全性、快適性が向上されることにより安全で円滑な交通機能が確保される。

(2) 事業内容

- 計画延長：L=1,200m、計画幅員：W=6.5(16.0)m、橋梁延長：L=365.0m

(3) 整備目標等

- 大型車すれ違い困難の解消：L=1,200m
- 歩行安全性・快適性の向上（歩道設置延長）：L=1,200m（両側歩道）

事業着手	H23年度	事業計画期間 H23 ～	R11 R10 R5	(今回再評価時全体計画期間) (前回再評価時全体計画期間) (当初全体計画期間)	用地着手	H26年度	工事着手	H29年度
------	-------	--------------	------------------	--	------	-------	------	-------

事業費	当初計画 総事業費 H23年	前回 再評価時 総事業費 R2年	今回 再評価時 総事業費 R7年	事業費の状況 [百万円]				
	(うち用地費)	(うち用地費)	(うち用地費)	H23年～ R5年	R6年	R7年	投資事業費 E=B+C+D	進捗率 F=E/A
	B	C	D	E=B+C+D	財源	F=E/A		
6,500.0 (402.0)	9,065.3 (116.0)	10,400.0 (116.0)	7,591.7 (116.0)	452.0 (0.0)	307.0 (0.0)	8,350.7 (116.0)	国庫 4,903.7 県単 3,447.0	80.3%

事業の進捗状況等

(1) 事業の進捗状況

ア 整備効果の発現状況

- 令和6年3月23日に新橋が供用し、大型車すれ違い困難が解消されるとともに、歩行者の安全性、快適性が向上している。

イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し

【事業期間】

①理由

- 旧橋撤去工事計画の詳細な検討の結果、撤去工法や工程の見直しによる工事期間1年の延伸が必要になったもの。

②解決の見通し

- 事業期間の延伸はあるものの、旧橋撤去工事は着手済みであり、また、県内道路事業の予算配分状況を踏まえた事業費の確保を図っていくことから事業完了の見通しが立っている。

○ 事業期間の延伸はあるものの、旧橋撤去工事に着手済みであり、事業の完了が見込まれることから、中項目評価を「b」とした。

中項目評価 a . b . c

(2) 事業計画の変更の有無及び内容

【事業期間】

(変更前) 令和10年度まで
(変更後) 令和11年度まで(1年延伸)

【事業費】

(変更前) 9,065百万円
(変更後) 10,400百万円(1,335百万円増)

- 旧橋撤去工法等の変更による増額
- 物価高等による増額

項目	変更前(R2)	変更後(R7)	増減	備考
工事費	7,475	8,840	1,365	旧橋撤去工事の工法及び工程の見直しによる増：800 物価高等による増：565
測量試験費	314	309	▲5	事業費精査による減：5
用地補償費	1,276	1,251	▲25	事業費精査による減：25
合計	9,065	10,400	1,335	

○変更内容は施工区間や主要な工事内容の変更ではなく、事業期間及び事業費に関する変更であることから中項目評価を「b」とした。

中項目評価 a . b . c

○中項目評価が「b」、「b」であることから、大項目評価を「BB」とした。

評価 AA . A . BB . B . C

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

- ・ 国の主要施策の基本方針として、「防災・減災、国土強靱化」「予防保全型メンテナンスへの本格転換」「人流・物流を支えるネットワーク・拠点の整備」「GXの推進による脱炭素社会の実現」「道路システムのDX」「道路空間の安全・安心や賑わいの創出」を定め、道路施策に取り組むこととしている。

イ 本県内の状況

- ・ 「いわて県民計画（2019～2028）において、社会基盤分野として『防災対策や産業振興など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手』を政策推進の基本的な考え方としている。
- ・ この中で道路分野では、災害に強い道路ネットワークを構築するため、幹線道路の整備や緊急輸送道路等の防災機能の強化及び日常生活を支える安全・安心な道づくりのため、救急搬送ルートの整備や地域の実情に応じた道路整備、物流の効率化など生産性の向上を図るため、内陸部と港湾を結ぶ道路や工業団地、インターチェンジへのアクセス道路の整備を推進することとしている。

ウ 施工地域における状況

- ・ 令和元年9月、矢巾町西徳田地区に岩手医科大学附属病院が移転。

○ 全国又は本県において、政策や事業のあり方についての議論や見直しの大きな変化が見られないことから、中項目評価は「a」とした。

中項目評価 a . b . c

(2) 事業に関する評価指標の推移

評価指標		配点	事業着手時 評 点 (A) H23	前回再評価時 評 点 (B) R2	今回再評価時 評 点 (C) R7	増 減 (C)-(B)	備 考 (配点基準等)
必要性	車道等幅員	5	5 (現況6.0m)	5 (現況6.0m)	5 (現況6.0m)	0	6.0m<7.5m(既定値9.5m-2m)
	曲線半径	5	3 (現況105m)	3 (現況105m)	3 (現況105m)	0	105m<既定値150m
	縦断勾配	5	0 (現況4.0%)	0 (現況4.0%)	0 (現況4.0%)	0	4%<既定値5%
	歩道設置の必要性	3	3 (必要)	3 (必要)	3 (必要)	0	通園通学路指定 前後区間連続性確保
	混雑度	2	0 (混雑度0.99)	0 (混雑度0.74)	0 (混雑度0.8)	0	
	定時性	2	2 (14.5km/h)	2 (11.6km/h)	2 (11.6km/h)	0	規定値10.0km/h ≤ 11.6km/h
	事故率	3	3 (67.5件/億台 ^{*a})	1 (17.7件/億台 ^{*a})	1 (30.7件/億台 ^{*a})	0	30.7件/億台 ^{*a} <50.0件/億台 ^{*a} (事故件数(R3～R5):4件)
	過疎地域等の振興	5	0 (該当外)	0 (該当外)	0 (該当外)	0	
	計	30	16	14	14	0	
重要性	ネットワークの位置付け	5	2 (該当外)	2 (該当外)	2 (該当外)	0	
	産業振興、生活支援	15	15 (5項目)	15 (5項目)	15 (5項目)		製造業支援、観光支援、 救急医療アクセス 公共施設アクセス 通園通学路の安全性向上
	計	20	17	17	17	0	
緊急性	関連事業の有無	5	5 (岩手医科大学)	5 (岩手医科大学)	5 (岩手医科大学)	0	岩手医科大学附属病院移転事業
	冠水対策、老朽橋 主要渋滞ポイント 通行不能区間、 通行危険箇所等	5	5 (老朽橋)	5 (老朽橋)	5 (老朽橋)	0	老朽橋（徳田橋）
	部分供用の有無	2	0 (無)	0 (無)	0 (無)	0	
	10km以内に迂回道路	3	0 (有)	0 (有)	0 (有)	0	
	計	15	10	10	10	0	
効率性	費用便益比(B/C)	20	20 (B/C=3.0)	18 (B/C=1.9)	15 (B/C=1.4)	-3	1.5 ≤ B/C < 3.0 ⇒ 18点 1.0 ≤ B/C < 1.5 ⇒ 15点
熟度	用地取得の進捗状況	3	2 (50%)	3 (91%)	3 (100%)	0	
	地元要望	12	12 (有)	12 (有)	12 (有)	0	
	計	15	14	15	15	0	
計		100	77	74	71	-3	(今回再評価時/前回再評価時) 96%

○ 費用便益分析

費用便益分析手法：道路建設課所管道路事業費用便益分析の手引き〔令和7年2月〕

(単位:百万円)

区 分		事前評価時 基準年：H22	再評価時 基準年：R2	再々評価時 基準年：R7
費用項目	改築費	4,873.1	8,409.5	11,780.9
	維持費	46.5	58.9	87.4
	総費用(C)	4,919.6	8,468.4	11,868.3
便益項目	3便益 ①	時間短縮便益	8,748.5	6,668.6
		走行経費減少便益	946.1	118.7
		事故減少便益	45.0	37.9
			5,452.1	699.7
	その他便益 ②	環境改善便益	-2.5	1.3
		拡張便益	4,836.4	9,571.7
			11,146.0	11,165.8
	小計(①+②)		14,573.5	16,398.2
	修正便益 ③		5,144.4	6,669.5
	総便益 ①+②+③		19,717.9	23,067.7
費用便益比(B/C) B(①+②)/C		3.0	1.9	1.4
(参考)修正費用便益比 B(①+②+③)/C		4.0	2.7	2.0

将来交通量 9,200台/日(R12) 12,700台/日(R12) 11,200台/日(R22)

- ・端数の四捨五入の関係で、各数値の和が一致しない場合がある。
- ・参考として、地域補正係数による修正便益を考慮したB/Cを算出している。

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

- ・岩手医科大学総合移転整備事業（令和元年移転済み）

○各評価指標の評点の合計が、事業着手時の90%以上であることから、中項目評価を「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・岩手県自然環境保全指針による保全区分 B
- ・希少野生動植物生息の有無 あり
- ・埋蔵文化財包蔵地の有無 なし
- ・その他：景観検討委員会の設立（H22.2.23設立）

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況 付議してる

① 主な助言内容

- ・希少野生動植物調査検討委員会に意見を諮り、有識者から工事实施に係る環境調査等は不要との助言をいただいているが、環境の適切な保全に努めている。

《環境等への配慮に要する経費》

- ・再生AS合材や再生砕石を使用 約57,580千円
- ・道路環境調査の実施 約 5,238千円
- ・切土・盛土の植生緑化 約 650千円
- 合計 約63,468千円

○自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿って積極的な対応をしていることから、中項目評価を「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

○中項目評価が「a」、「a」、「a」であることから、大項目評価を「AA」とした。

評 価 AA . A . B . C

コスト削減対策及び代替案立案の可能性

(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性

(これまでのコスト削減対策実施状況)

・主桁の規格及び桁数の見直しによる削減額

約93,000千円

・使用材料の規格変更による削減額

約 1,200千円

(2) 代替案立案の可能性

令和6年3月23日に新橋が供用済みであり、旧橋撤去工事にも着手しているため代替案立案の可能性はない。

(1) 総合評価

対応方針案

事業継続

・

要検討

・

中止

(事業継続、見直し継続、休止、中止)

(事業名)地域連携道路整備事業(地域密着型) 徳田橋

着手年度	完了予定年度	投資事業費(百万円)	進捗率(%)	(1) 事業進捗状況			(2) 社会経済情勢			参考		
				進捗状況	計画変更		社会経済	評価指標	自然環境	評点	B/C	
H23	R11	8,351	80.3%	BB	b	b	AA	a	a	a	71	1.4

(修正B/C=2.0)

○総合評価に係るコメント

・「事業の進捗状況等」について、新橋が供用されており整備効果は発現している。また、旧橋撤去計画の見直し等により事業期間の延伸と総事業費の増額はあるものの、旧橋撤去工事は順調に進んでおり、今後も県内道路事業の予算配分状況を踏まえた事業費の確保を図っていくことから、事業完了の見通しが立っている。

・「社会経済情勢等の変化」について、本路線は令和元年9月に矢巾町西徳田地区へ移転した岩手医科大学附属病院への救急搬送ルートとしての重要な役割を担っており、新橋の供用によって、今後の救急医療や地域医療の支援に更なる効果が期待される。

・以上のことから「事業継続」と評価したものである。

総合評価

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断面図等を添付のこと。

事業名	地域連携道路整備事業 (地域密着型)		補助・単独	担当部課名	県土整備部道路建設課
路線名等	一般県道 おおがゆうとくたせん 大ケ生徳田線	地区名	とくたはし 徳田橋	市町村	盛岡市、矢巾町

1 現在までの事業の経緯等

- ・ H 9年度 概略設計
- ・ H11年度 沿線の事業者計画説明
- ・ H12年度 橋梁予備設計
- ・ H17年度 都市計画変更決定 (昭和49年都市計画決定)
- ・ H21年度 道路予備設計、景観検討委員会設立
- ・ H23年度 国庫補助事業による事業採択
- ・ H26年度 用地買収開始
- ・ H29年度 工事着手
- ・ R 1年度 下部工 (橋脚全 5 基) 完成
- ・ R 3年度 橋台完成
- ・ R 5年度 上部工完成、供用 (R6. 3. 23)

2 住民意見の状況及びこれに対する対応

- ・ 本工区については、これまでに盛岡市及び矢巾町から整備推進の要望があったことから、平成23年度から国庫補助事業により道路整備を推進し、令和 6 年 3 月 23 日に供用したところ。

3 費用便益分析の詳細 (算定方法、算出根拠等)

費用便益分析手法：道路建設課所管道路事業費用便益分析の手引き [令和 7 年 2 月]

(単位: 百万円)

区 分		事前評価時 基準年：H22	再評価時 基準年：R2	再々評価時 基準年：R7
費用項目	改築費	4,873.1	8,409.5	11,780.9
	維持費	46.5	58.9	87.4
	総費用 (C)	4,919.6	8,468.4	11,868.3
便益項目	時間短縮便益	8,748.5	6,668.6	5,452.1
	走行経費減少便益	946.1	118.7	699.7
	事故減少便益	45.0	37.9	23.3
	3便益 ①	9,739.6	6,825.2	6,175.1
	環境改善便益	-2.5	1.3	19.8
	拡張便益	4,836.4	9,571.7	11,146.0
	その他便益 ②	4,833.9	9,573.0	11,165.8
	小計 (①+②)	14,573.5	16,398.2	17,340.9
修正便益 ③	5,144.4	6,669.5	7,052.9	
総便益 ①+②+③	19,717.9	23,067.7	24,393.8	
費用便益比 (B/C) B(①+②)/C		3.0	1.9	1.4
(参考) 修正費用便益比 B(①+②+③)/C		4.0	2.7	2.0

将来交通量 9,200台/日 (R12) 12,700台/日 (R12) 11,200台/日 (R22)

①改築費：道路建設に要する費用を基準年において現在価値化したもの。

②維持費：道路の供用開始後50年間における維持管理費を基準年において現在価値化したもの。

③時間短縮便益：道路の供用開始後50年間における自動車に乗車していなければ、生産活動を行うことによって産み出されるであろう価値 (資源価値)、または自動車に乗車している時間を他の目的に使用できるなら支払ってもよいと思う金額 (行動価値) を、基準年において現在価値化したもの。

④走行経費減少便益：道路の供用開始後50年間における燃料費、オイル費、タイヤ・チューブ費等の減少効果を、基準年において現在価値化したもの。

⑤事故減少便益：道路の供用開始後50年間における人身事故、物損事故、救急や事故処理などに伴う公的損害、及び事故により発生する交通渋滞による損失の減少効果を、基準年において現在価値化したもの。

⑥環境改善便益：道路の供用開始後50年間における地球温暖化への道路整備による環境改善効果を、基準年において現在価値化したもの。

⑦拡張便益：道路の供用開始後50年間における道路走行時の安全性、救急医療施設等へのアクセス性向上による緊急時の安心感などの効果を、基準年において現在価値化したもの。

⑧修正便益：所得水準や物価基準といった地域間格差を考慮し、東京を基準 (1.0) とした各地域別の地域修正係数を乗じたもの。

4 環境対策の具体的内容

専門家による現地調査の結果により、施工についての指示事項等はない。

費用対効果計算書

48

路線名: 大ヶ生徳田線				地区名: 徳田橋				単位: 百万円	
年度 年度 年度 年度	年次	現在価値 割引率 4%	GDP デフレ率	費用		費用		便益	
				建設費		維持管理費		便益額	現在価値
				費用	現在価値	費用	現在価値		
-13	2011	1.73168	97.2	90	171.7	0	0.0	0.0	0.0
-12	2012	1.66507	96.4	27	49.9	0	0.0	0.0	0.0
-11	2013	1.60103	96.4	50	88.9	0	0.0	0.0	0.0
-10	2014	1.53945	98.7	321	536.2	0	0.0	0.0	0.0
-9	2015	1.48024	100.2	567	897.1	0	0.0	0.0	0.0
-8	2016	1.42331	100.3	203	308.5	0	0.0	0.0	0.0
-7	2017	1.36857	100.5	716	1,044.2	0	0.0	0.0	0.0
-6	2018	1.31593	100.4	1,165	1,635.4	0	0.0	0.0	0.0
-5	2019	1.26532	101.2	742	993.6	0	0.0	0.0	0.0
-4	2020	1.21665	101.9	728	930.9	0	0.0	0.0	0.0
-3	2021	1.16986	101.8	452	556.3	0	0.0	0.0	0.0
-2	2022	1.12486	102.7	1,124	1,318.5	0	0.0	0.0	0.0
-1	2023	1.08160	107.1	786	850.1	0	0.0	0.0	0.0
0	2024	1.04000	107.1	411	427.4	3.756	3.9	229.3	238.5
1	2025	1.00000	107.1	279	279.0	3.756	3.8	231.5	231.5
2	2026	0.96154	107.1	473	454.8	3.756	3.6	233.6	224.6
3	2027	0.92456	107.1	816	754.4	3.756	3.5	235.8	218.0
4	2028	0.88900	107.1	323	287.1	3.756	3.3	238.0	211.6
5	2029	0.85480	107.1	251	214.6	3.756	3.2	240.1	205.2
6	2030	0.82193	107.1	0	0.0	3.756	3.1	242.3	199.2
7	2031	0.79031	107.1	0	0.0	3.756	3.0	244.5	193.2
8	2032	0.75992	107.1	0	0.0	3.756	2.9	246.7	187.5
9	2033	0.73069	107.1	0	0.0	3.756	2.7	248.8	181.8
10	2034	0.70259	107.1	0	0.0	3.756	2.6	251.0	176.3
11	2035	0.67556	107.1	0	0.0	3.756	2.5	253.2	171.1
12	2036	0.64958	107.1	0	0.0	3.756	2.4	255.3	165.8
13	2037	0.62460	107.1	0	0.0	3.756	2.3	257.5	160.8
14	2038	0.60057	107.1	0	0.0	3.756	2.3	259.7	156.0
15	2039	0.57748	107.1	0	0.0	3.756	2.2	261.8	151.2
16	2040	0.55526	107.1	0	0.0	3.756	2.1	264.0	146.6
17	2041	0.53391	107.1	0	0.0	3.756	2.0	266.2	142.1
18	2042	0.51337	107.1	0	0.0	3.756	1.9	268.3	137.7
19	2043	0.49363	107.1	0	0.0	3.756	1.9	270.5	133.5
20	2044	0.47464	107.1	0	0.0	3.756	1.8	272.7	129.4
21	2045	0.45639	107.1	0	0.0	3.756	1.7	274.8	125.4
22	2046	0.43883	107.1	0	0.0	3.756	1.6	277.0	121.6
23	2047	0.42196	107.1	0	0.0	3.756	1.6	279.2	117.8
24	2048	0.40573	107.1	0	0.0	3.756	1.5	281.3	114.1
25	2049	0.39012	107.1	0	0.0	3.756	1.5	283.5	110.6
26	2050	0.37512	107.1	0	0.0	3.756	1.4	285.7	107.2
27	2051	0.36069	107.1	0	0.0	3.756	1.4	287.9	103.8
28	2052	0.34682	107.1	0	0.0	3.756	1.3	290.0	100.6
29	2053	0.33348	107.1	0	0.0	3.756	1.3	292.2	97.4
30	2054	0.32065	107.1	0	0.0	3.756	1.2	294.4	94.4
31	2055	0.30832	107.1	0	0.0	3.756	1.2	296.5	91.4
32	2056	0.29646	107.1	0	0.0	3.756	1.1	298.7	88.6
33	2057	0.28506	107.1	0	0.0	3.756	1.1	300.9	85.8
34	2058	0.27409	107.1	0	0.0	3.756	1.0	303.0	83.1
35	2059	0.26355	107.1	0	0.0	3.756	1.0	305.2	80.4
36	2060	0.25342	107.1	0	0.0	3.756	1.0	307.4	77.9
37	2061	0.24367	107.1	0	0.0	3.756	0.9	309.5	75.4
38	2062	0.23430	107.1	0	0.0	3.756	0.9	311.7	73.0
39	2063	0.22529	107.1	0	0.0	3.756	0.8	313.9	70.7
40	2064	0.21662	107.1	0	0.0	3.756	0.8	316.0	68.5
41	2065	0.20829	107.1	0	0.0	3.756	0.8	318.2	66.3
42	2066	0.20028	107.1	0	0.0	3.756	0.8	320.4	64.2
43	2067	0.19257	107.1	0	0.0	3.756	0.7	322.6	62.1
44	2068	0.18517	107.1	0	0.0	3.756	0.7	324.7	60.1
45	2069	0.17805	107.1	0	0.0	3.756	0.7	326.9	58.2
46	2070	0.17120	107.1	0	0.0	3.756	0.6	329.1	56.3
47	2071	0.16461	107.1	0	0.0	3.756	0.6	331.2	54.5
48	2072	0.15828	107.1	0	0.0	3.756	0.6	333.4	52.8
49	2073	0.15219	107.1	-117	-17.7	3.756	0.6	335.6	51.1
50	2074	0.14634	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
51	2075	0.14071	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
52	2076	0.13530	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
53	2077	0.13010	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
54	2078	0.12509	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
55	2079	0.12028	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
56	2080	0.11566	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
57	2081	0.11121	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
58	2082	0.10693	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
59	2083	0.10282	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
60	2084	0.09886	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
61	2085	0.09506	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
62	2086	0.09140	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
				9,407	11,781	188	87	14,122	6,175 ①
						拡張便益		11,166 ②	
						総便益		17,341 ①+②	

(参考)

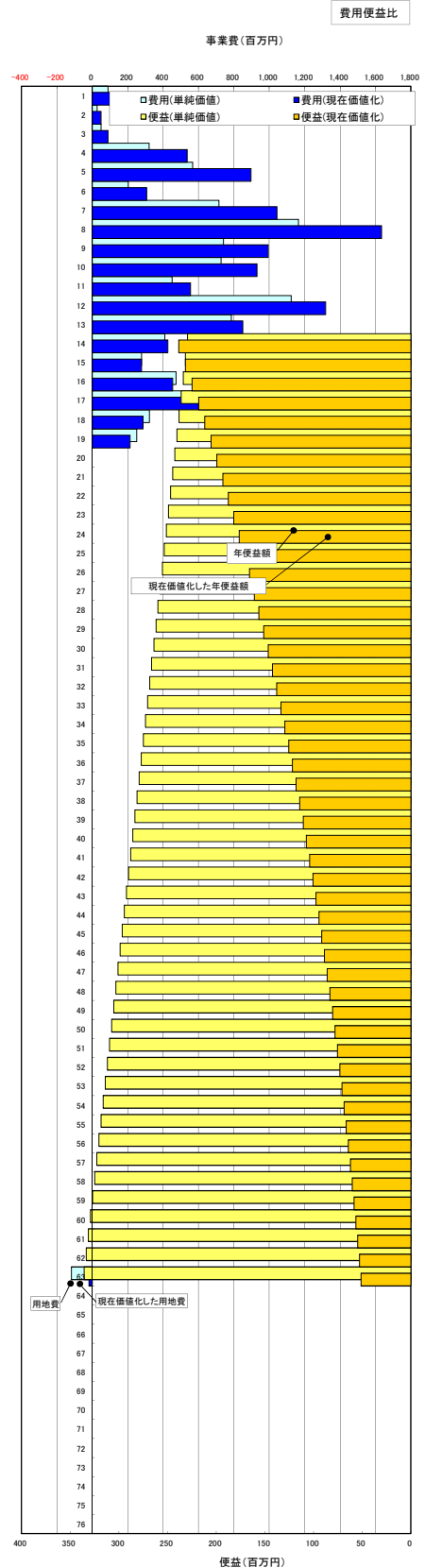
修正便益	7,053 ③
総便益	24,394

総便益B(①+②) 17,341 百万円

総事業費C 11,868 百万円

B/C= 1.4

(参考) 修正費用便益比
修正B/C=(①+②+③)/C= 2.0



費用対効果計算書

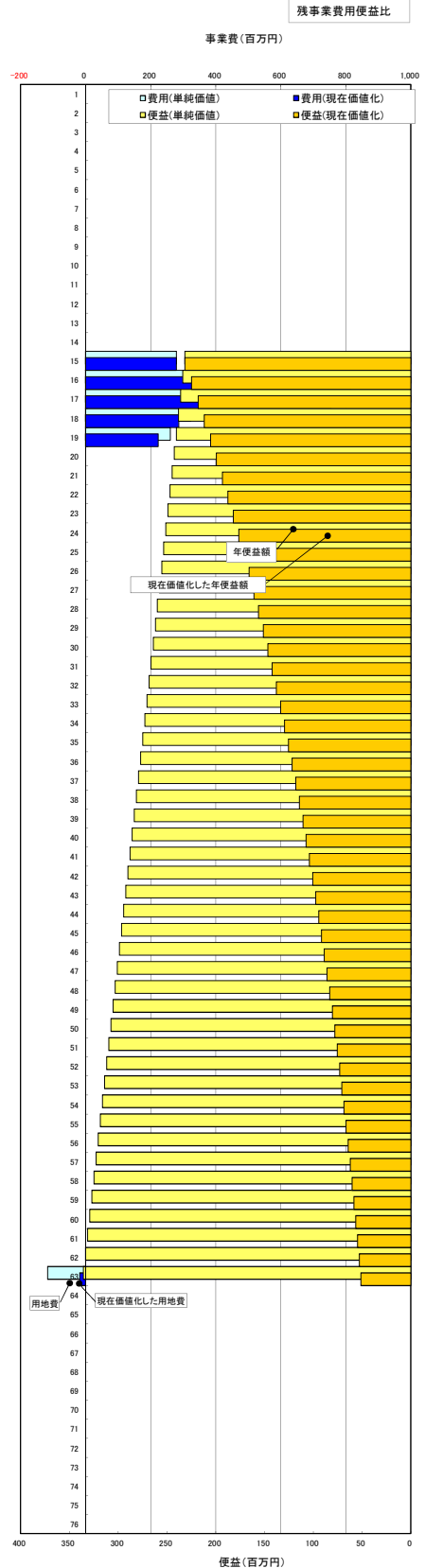
48

路線名: 大ヶ生徳田線		地区名: 徳田橋						単位: 百万円	
年度 事業年度 次年度の	年次	現在価値 割引率 4%	GDP デフレーター	費用				便益	
				建設費		維持管理費		便益額	現在価値
				費用	現在価値	費用	現在価値		
-13	2011	1.73168	97.2	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
-12	2012	1.66507	96.4	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
-11	2013	1.60103	96.4	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
-10	2014	1.53945	98.7	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
-9	2015	1.48024	100.2	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
-8	2016	1.42331	100.3	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
-7	2017	1.36857	100.5	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
-6	2018	1.31593	100.4	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
-5	2019	1.26532	101.2	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
-4	2020	1.21665	101.9	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
-3	2021	1.16986	101.8	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
-2	2022	1.12486	102.7	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
-1	2023	1.08160	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
0	2024	1.04000	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
1	2025	1.00000	107.1	279	279.0	3.756	3.8	231.5	231.5
2	2026	0.96154	107.1	473	454.8	3.756	3.6	233.6	224.6
3	2027	0.92456	107.1	816	754.4	3.756	3.5	235.8	218.0
4	2028	0.88900	107.1	323	287.1	3.756	3.3	238.0	211.6
5	2029	0.85480	107.1	261	223.1	3.756	3.2	240.1	205.2
6	2030	0.82193	107.1	0	0.0	3.756	3.1	242.3	199.2
7	2031	0.79031	107.1	0	0.0	3.756	3.0	244.5	193.2
8	2032	0.75992	107.1	0	0.0	3.756	2.9	246.7	187.5
9	2033	0.73069	107.1	0	0.0	3.756	2.7	248.8	181.8
10	2034	0.70259	107.1	0	0.0	3.756	2.6	251.0	176.3
11	2035	0.67556	107.1	0	0.0	3.756	2.5	253.2	171.1
12	2036	0.64958	107.1	0	0.0	3.756	2.4	255.3	165.8
13	2037	0.62460	107.1	0	0.0	3.756	2.3	257.5	160.8
14	2038	0.60057	107.1	0	0.0	3.756	2.3	259.7	156.0
15	2039	0.57748	107.1	0	0.0	3.756	2.2	261.8	151.2
16	2040	0.55526	107.1	0	0.0	3.756	2.1	264.0	146.6
17	2041	0.53391	107.1	0	0.0	3.756	2.0	266.2	142.1
18	2042	0.51337	107.1	0	0.0	3.756	1.9	268.3	137.7
19	2043	0.49363	107.1	0	0.0	3.756	1.9	270.5	133.5
20	2044	0.47464	107.1	0	0.0	3.756	1.8	272.7	129.4
21	2045	0.45639	107.1	0	0.0	3.756	1.7	274.8	125.4
22	2046	0.43883	107.1	0	0.0	3.756	1.6	277.0	121.6
23	2047	0.42196	107.1	0	0.0	3.756	1.6	279.2	117.8
24	2048	0.40573	107.1	0	0.0	3.756	1.5	281.3	114.1
25	2049	0.39012	107.1	0	0.0	3.756	1.5	283.5	110.6
26	2050	0.37512	107.1	0	0.0	3.756	1.4	285.7	107.2
27	2051	0.36069	107.1	0	0.0	3.756	1.4	287.9	103.8
28	2052	0.34682	107.1	0	0.0	3.756	1.3	290.0	100.6
29	2053	0.33348	107.1	0	0.0	3.756	1.3	292.2	97.4
30	2054	0.32065	107.1	0	0.0	3.756	1.2	294.4	94.4
31	2055	0.30832	107.1	0	0.0	3.756	1.2	296.5	91.4
32	2056	0.29646	107.1	0	0.0	3.756	1.1	298.7	88.6
33	2057	0.28506	107.1	0	0.0	3.756	1.1	300.9	85.8
34	2058	0.27409	107.1	0	0.0	3.756	1.0	303.0	83.1
35	2059	0.26355	107.1	0	0.0	3.756	1.0	305.2	80.4
36	2060	0.25342	107.1	0	0.0	3.756	1.0	307.4	77.9
37	2061	0.24367	107.1	0	0.0	3.756	0.9	309.5	75.4
38	2062	0.23430	107.1	0	0.0	3.756	0.9	311.7	73.0
39	2063	0.22529	107.1	0	0.0	3.756	0.8	313.9	70.7
40	2064	0.21662	107.1	0	0.0	3.756	0.8	316.0	68.5
41	2065	0.20829	107.1	0	0.0	3.756	0.8	318.2	66.3
42	2066	0.20028	107.1	0	0.0	3.756	0.8	320.4	64.2
43	2067	0.19257	107.1	0	0.0	3.756	0.7	322.6	62.1
44	2068	0.18517	107.1	0	0.0	3.756	0.7	324.7	60.1
45	2069	0.17805	107.1	0	0.0	3.756	0.7	326.9	58.2
46	2070	0.17120	107.1	0	0.0	3.756	0.6	329.1	56.3
47	2071	0.16461	107.1	0	0.0	3.756	0.6	331.2	54.5
48	2072	0.15828	107.1	0	0.0	3.756	0.6	333.4	52.8
49	2073	0.15219	107.1	-117	-117.7	3.756	0.6	335.6	51.1
50	2074	0.14634	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
51	2075	0.14071	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
52	2076	0.13530	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
53	2077	0.13010	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
54	2078	0.12509	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
55	2079	0.12028	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
56	2080	0.11566	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
57	2081	0.11121	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
58	2082	0.10693	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
59	2083	0.10282	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
60	2084	0.09886	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
61	2085	0.09506	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
62	2086	0.09140	107.1	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
				2,035	1,981	184	84	13,892	5,936 ①
								拡張便益	10,681 ②
								総便益	16,617 ①+②
								(参考) 修正便益	6,856 ③
								総便益	23,473

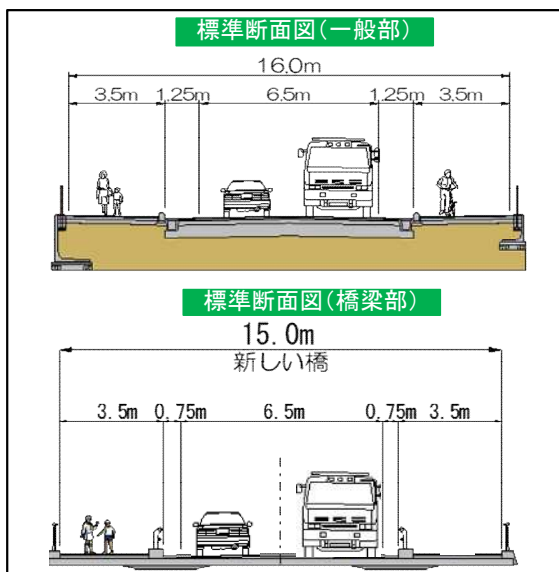
総便益B(①+②) 16,617 百万円
 残事業費C 2,064 百万円

残事業
 B/C= 8.0

(参考) 修正費用便益比
 残事業修正B/C=(①+②+③)/C= 11.4



地域連携道路整備事業(地域密着型) (一)大ヶ生徳田線 徳田橋 実施状況図



大規模事業再評価の概要

地域連携道路整備事業（地域密着型）

一般県道大ヶ生徳田線 徳田橋

令和7年6月16日
県土整備部 道路建設課

1 事業概要(事業目的)

○路線の位置付け

- 一般国道4号、盛岡南IC等の交通拠点と一般国道396号を結ぶ幹線道路
- 盛岡市大ヶ生地区と矢巾町西徳田地区を結ぶ生活道路
- 矢巾町西徳田地区に岩手医科大学附属病院が移転(R元.9月)

位置図



平面図



国土地理院タイルを加工して作成

1 事業概要(事業目的)

○当該地区の課題

徳田橋(橋長L=361m)

- ・ 昭和37年に架橋した老朽橋
- ・ 幅員狭小による大型車すれ違い困難

徳田橋前後の道路部

- ・ 線形不良、事故発生



徳田橋の老朽化

- ・ 徳田橋は昭和37年に架設され、事業化時点で架設後49年が経過している老朽橋であり、これまで床版打換や伸縮装置交換、塗装塗替等の補修を数多く実施
- ・ 補修工事の際には、長期間の通行規制が発生



幅員狭小・線形不良

- ・ 徳田橋は車道幅員5.5mと幅員狭小で、大型車の円滑なすれ違いが困難な状況
- ・ 橋梁前後の道路部における線形が悪いため、見通しが悪く交通事故が多発



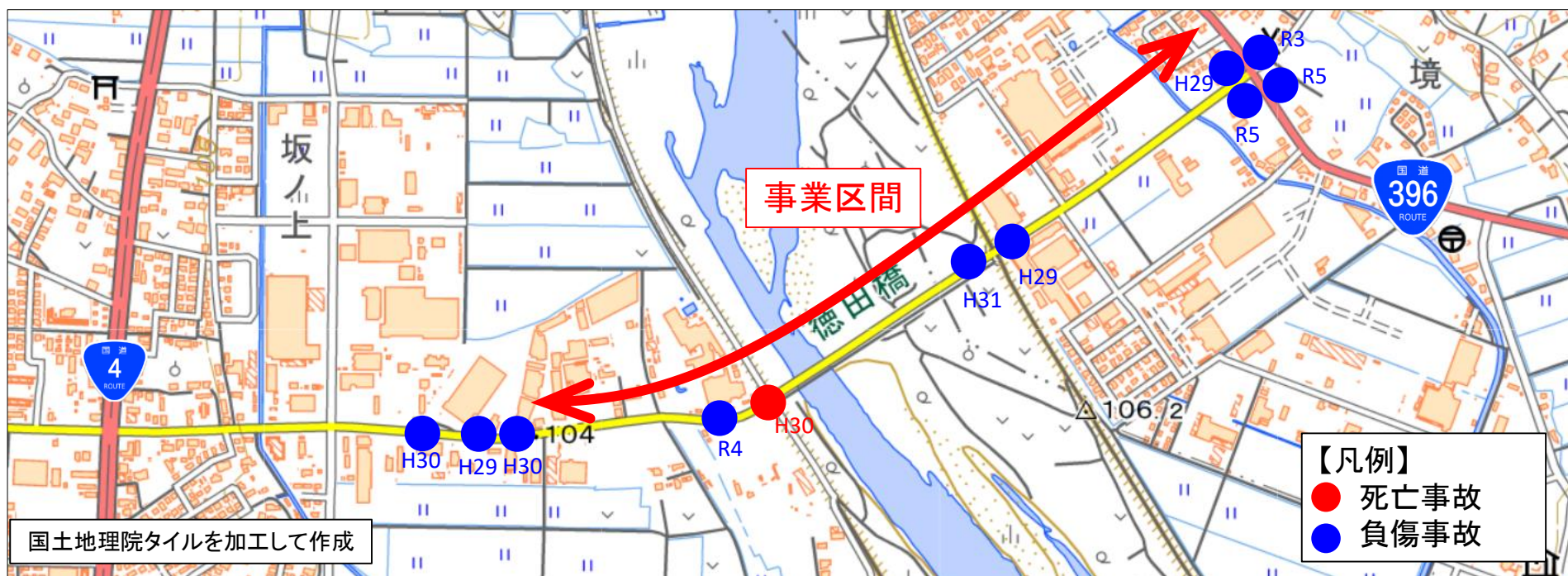
1 事業概要(事業目的)

(参考)事故発生状況

・線形不良による見通しの悪さなど

⇒ **交通事故が多発**

(H27～R5:11件 うち死亡事故1件)



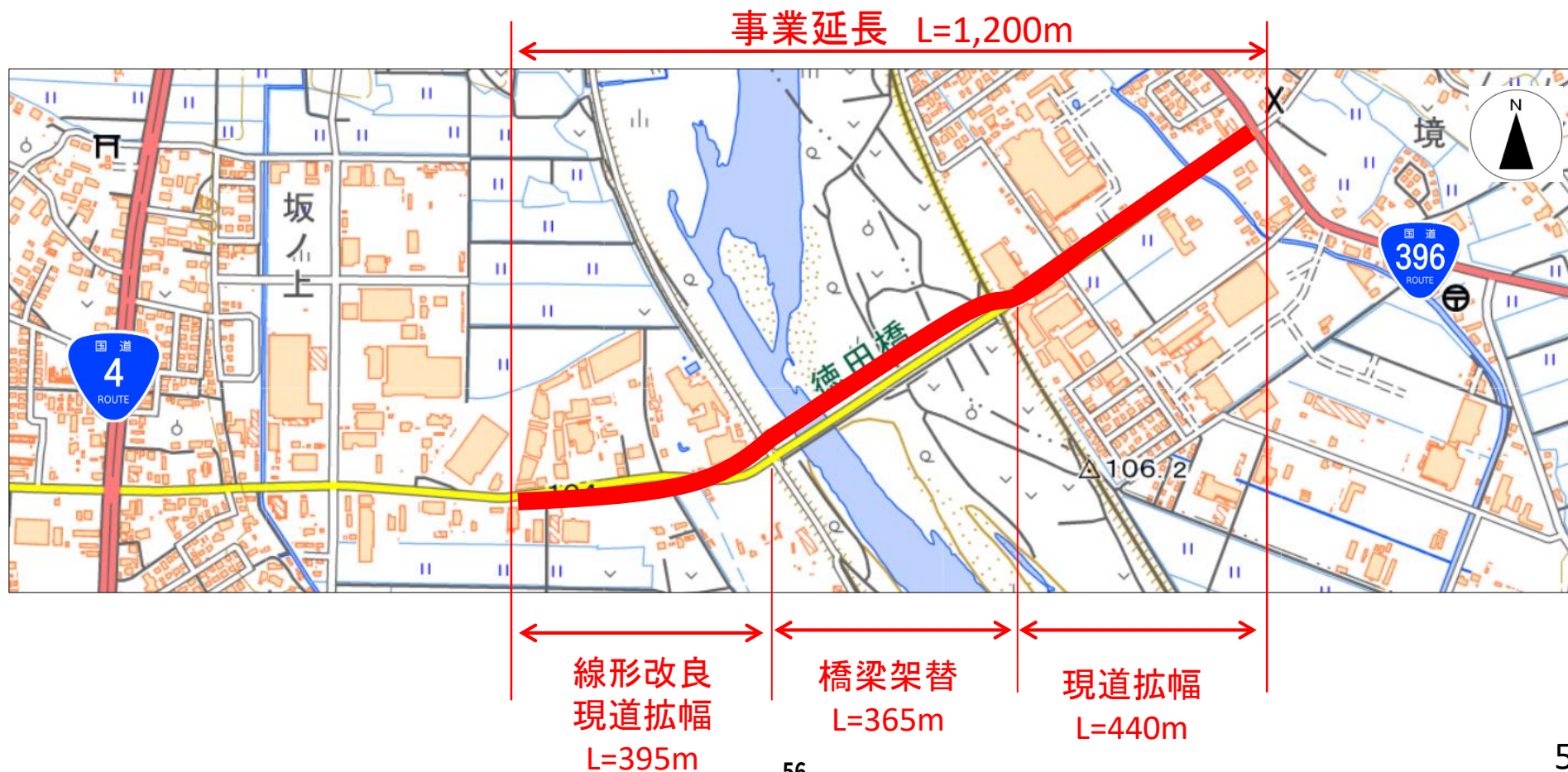
【死亡事故について】

平成30年8月17日の午後6時ころ、盛岡方面へ直進中の軽自動車が徳田橋の高欄に衝突した死亡事故。

1 事業概要(事業目的)

○整備によって得られる効果

- ・ 橋梁の老朽化の解消
- ・ 大型車すれ違い困難箇所の解消、歩行者の安全確保
⇒ 安全で円滑な交通機能の確保



1 事業概要(事業内容①)

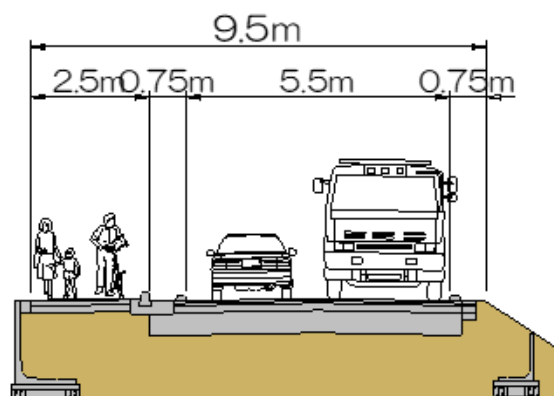
計画概要

- 計画延長：L=1,200m（うち徳田橋 L=365m）
- 計画幅員：【一般部】W=6.5 (16.0)m 両側歩道
【橋梁部】W=6.5 (15.0)m 両側歩道
- 事業期間：事前評価時 2011(H23) ～ 2023(R5)
R2再評価時 2011(H23) ～ 2028(R10)
今回再評価 2011(H23) ～ 2029(R11) [+1年]
- 全体事業費：事前評価時 6,500百万円
R2再評価時 9,065百万円
今回再評価 10,400百万円
[+1,335百万円 (1.14倍)]
- 進捗率（事業費ベース）
80.3%（R7年度までの見込み）

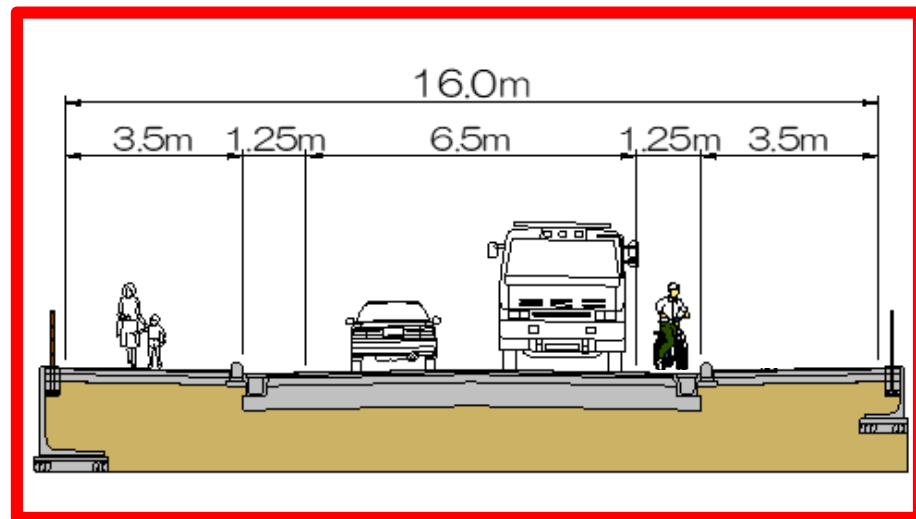
1 事業概要(事業内容②)

標準断面図

標準横断面図(一般部)

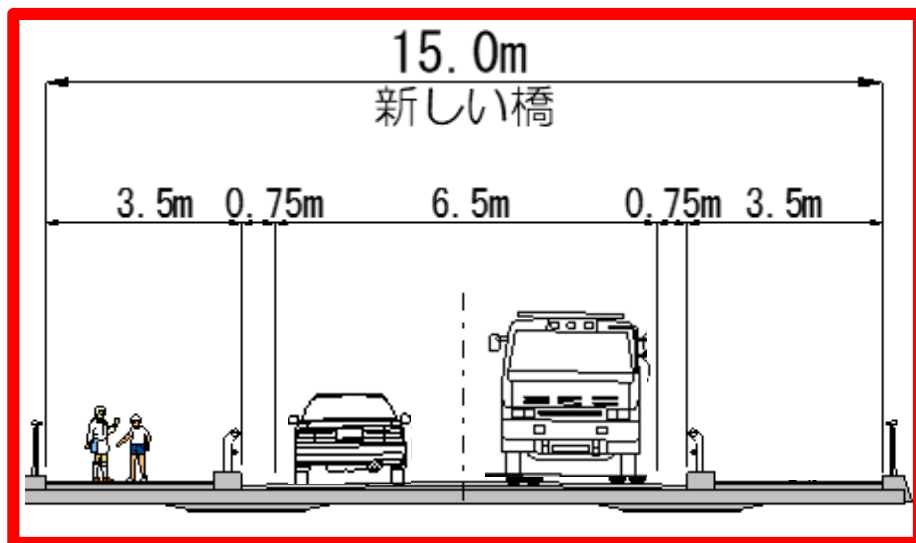
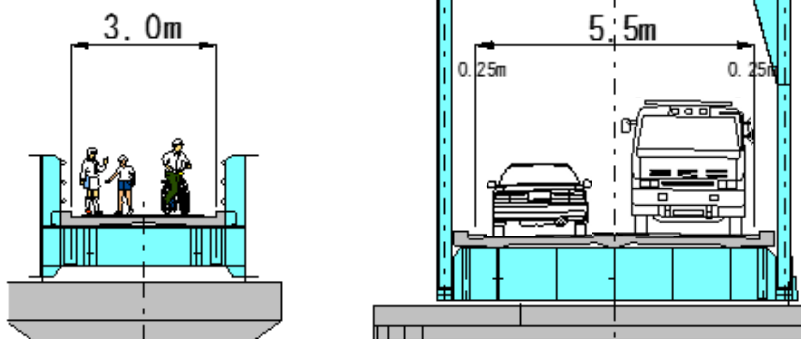


整備後



標準横断面図(橋梁部)

整備前の橋



2 事業の進捗状況等

(1) 事業の進捗状況（中項目評価）

ア 整備効果の発現状況

令和6年3月23日に新橋が供用開始されており、整備効果が発現している。

- ・ 新橋の架け替えにより、老朽化が解消
- ・ 線形改良・拡幅により、大型車すれ違い困難が解消
- ・ 両側歩道整備により、歩行者の安全性、快適性が向上



完成後の徳田橋（盛岡市から矢巾町方向を望む）



供用後の徳田橋（矢巾町から盛岡市方向を望む）

2 事業の進捗状況等

(1) 事業の進捗状況(中項目評価)

イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し

①事業期間延伸の理由(1年延伸)

旧橋撤去工事計画の詳細な検討の結果、撤去工法や工程の見直しによる工事期間1年の延伸が必要になったもの。

②解決の見通し

事業期間の延伸はあるものの、旧橋撤去工事がすでに着手済みであり、また、県内道路事業の予算配分状況を踏まえた事業費の確保を図っていくことから事業完了の見通しが立っている。



床版撤去後の徳田橋(全景)



床版撤去後の徳田橋(近景)

○事業期間の延伸はあるものの、事業の完了が見込まれるため ⇒ 「b」

「事業の進捗状況」の中項目評価 60

a ・ **b** ・ c

2 事業の進捗状況等

(2) 事業計画の変更の有無及び内容(中項目評価)

- 【事業期間】令和10年度まで ⇒ 令和11年度まで(1年延伸)
【総事業費】9,065百万円 ⇒ 10,400百万円 (1,335百万円増額)
- ・ 旧橋撤去工の変更による増 : 800百万円
 - ・ 物価高等による増 : 565百万円
 - ・ 測量設計等の事業費精査による減 : 30百万円

(単位: 百万円)

項目	変更前(R2)	変更後(R7)	増減	備考
工事費	7,475	8,840	1,365	旧橋撤去工事の工法及び工程の見直しによる増: 800 物価高等による増: 565
測量試験費	314	309	▲ 5	事業費精査による減: 5
用地補償費	1,276	1,251	▲ 25	事業費精査による減: 25
合計	9,065	10,400	1,335	

○変更内容は施工区間や主要な工事内容の変更ではないため ⇒ 「b」

「事業計画の変更の有無及び内容」の中項目評価	a ・ b ・ c
------------------------	------------------

事業の進捗状況等の変化(大項目評価)

・中項目評価が「b」、「b」であることから、大項目評価を「BB」とした。

「事業の進捗状況等」の大項目評価	AA ₆₁ ・ A ・ BB ・ B ・ C	10
------------------	--	----

3 社会経済情勢等の変化

(1) 事業に関する社会経済情勢(中項目評価)

- 政策や事業のあり方についての議論や見直しの大きな変化がみられない⇒「a」

「事業に関する社会経済情勢」の中項目評価	a · b · c
----------------------	-----------

(2) 事業に関する評価指標の推移(中項目評価)

評価指標		配点	事業着手 (H23)時点	前回再評価 (R2)時点(A)	今回再評価 (R7)時点(B)	増減 (B-A)	備考
必要性	道路構造等の問題点、過疎地域等の振興	30点	16点	14点	14点	0点	
重要性	ネットワークの位置付け、産業振興、生活支援	20点	17点	17点	17点	0点	
緊急性	関連事業、通行危険箇所等、迂回路	15点	10点	10点	10点	0点	
効率性	費用便益比 (B / C)	20点	20点 (3.0)	18点 (1.9)	15点 (1.4)	-3点	1.5≦B/C<3.0⇒18点 1.0≦B/C<1.5⇒15点
熟度	用地取得の進捗状況、地元要望	15点	14点	15点	15点	0点	用地進捗率 100%
計		100点	77点	74点	71点	-3点	今回/前回 96%

- 各評価指標の評点の合計が、前回再評価時の90%以上 ⇒「a」

「事業に関する評価指標の推移」の中項目評価	a · b · c
-----------------------	-----------

3 社会経済情勢等の変化

(3) 自然環境の状況及び環境配慮事項(中項目評価)

状況	・ 岩手県自然環境保全指針による保全区分：B ・ 希少野生動植物生息の有無：あり ・ 埋蔵文化財包蔵地の有無：なし
対応	振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況 付議している 希少野生動植物調査検討委員会に意見を諮り、有識者からは工事实施に係る環境調査等は不要との助言をいただいているが、環境の適切な保全に努めている。

・ 自然環境保全指針に沿って積極的に対応 ⇒ 「a」

「自然環境等の状況及び環境配慮事項」の中項目評価 **a** ・ b ・ c

社会経済情勢等の変化(大項目評価)

・ 中項目評価が「a」、「a」、「a」であることから、**大項目評価を「AA」**とした。

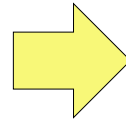
「社会経済情勢等の変化」の大項目評価 **AA** ・ A ・ B ・ C

4 コスト縮減対策及び代替案立案の可能性

(1)コスト縮減対策の実施状況及び今後の可能性

(これまでのコスト縮減対策)

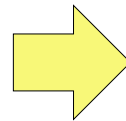
- ・主桁の規格及び桁数の見直し
- ・使用材料の規格変更



約94,200千円の縮減

(2)代替案立案の可能性

- ・新橋が供用済み
- ・旧橋撤去工事が進んでいる



代替案立案の可能性は無い

5 総合評価

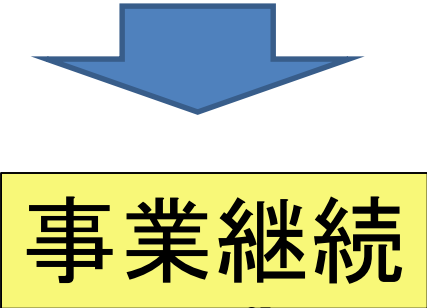
着手 年度	完了 予定年度	全体 事業費	投資済 事業費	進捗率	(1)事業進捗状況			(2)社会経済情勢			参考		
H23	R11	10,400百万円	8,350百万円	80.3%	BB	進捗 状況	計画 変更	AA	社会 経済	評価 指標	自然 環境	評点	B/C
						b	b		a	a	a	71	1.4 (2.0)

○「事業の進捗状況等」 大項目評価: BB

新橋が供用されており整備効果は発現している。また、旧橋撤去計画の見直し等により事業期間の延伸と総事業費の増額はあるものの、旧橋撤去工事は順調に進んでおり、今後も県内道路事業の予算配分状況を踏まえた事業費の確保を図っていくことから、事業完了の見通しが立っている。

○「社会経済情勢等の変化」 大項目評価: AA

岩手医科大学付属病院への救急搬送ルートとしての重要な役割
社会経済情勢、評価指標、自然環境等の状況に大きな変化は見られない。



◎ 旧橋撤去の工法の見直しについて

【旧橋撤去の工法の見直し】

・旧橋の床版の撤去状況

【車道部】鋼6径間単純鈑桁＋3径間トラス橋

【歩道部】鋼6径間連続鈑桁橋(下路式)

【全景】

至 国道4号

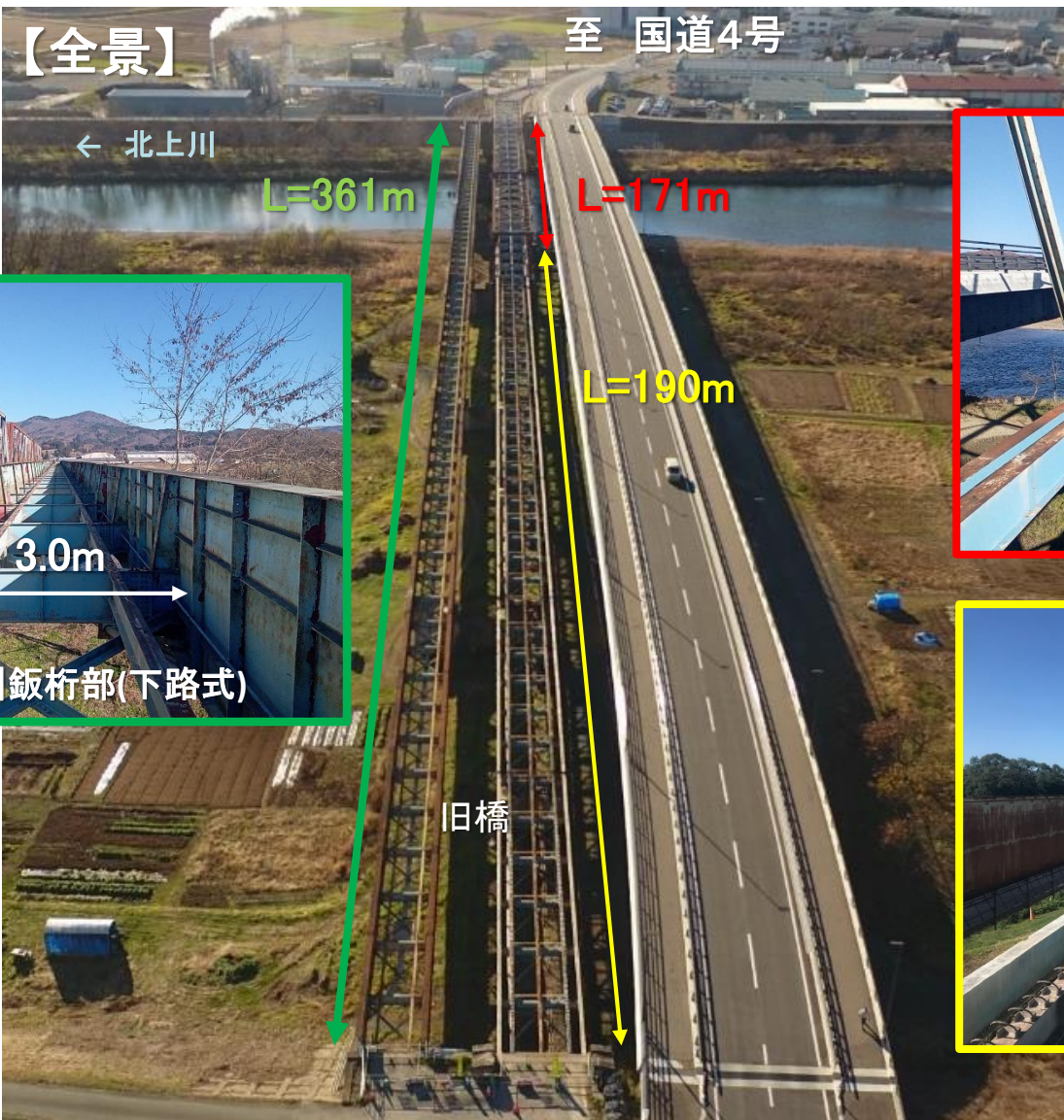
← 北上川

L=361m

L=171m

L=190m

旧橋

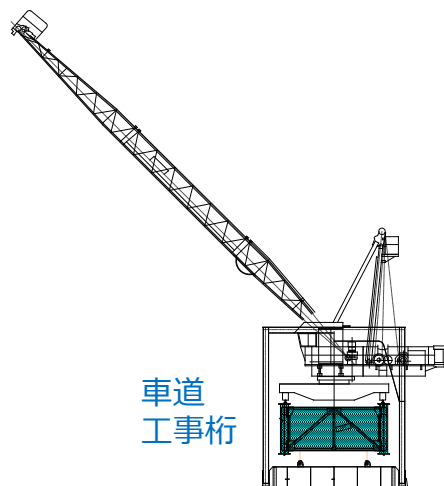


◎ 旧橋撤去の工法の見直しについて

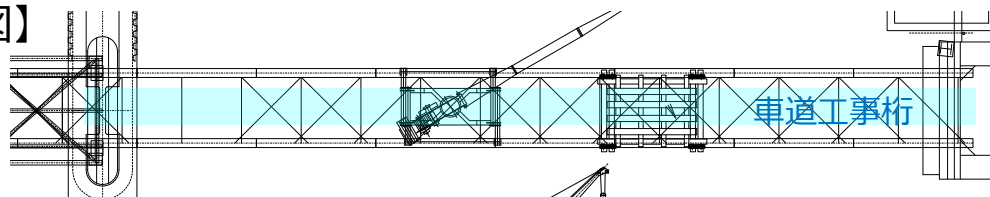
・車道部の撤去計画について(計画変更なし)

車道橋上に工事桁を設置し、その上をクレーンが移動しながら橋梁を撤去

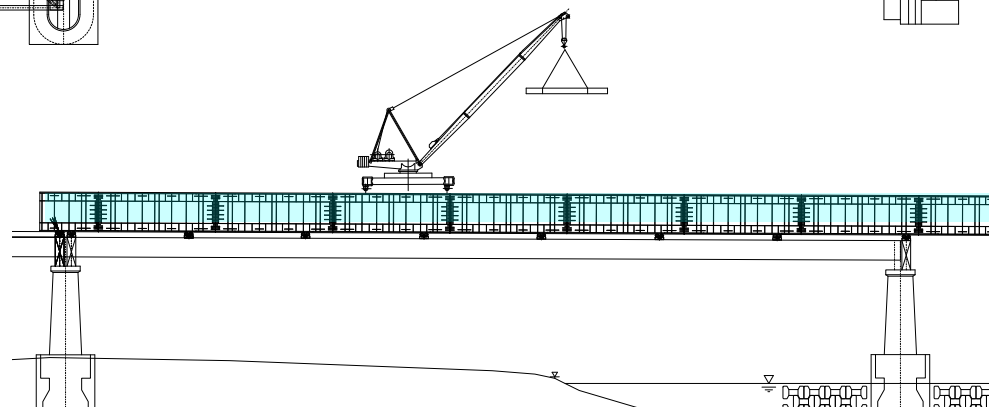
【断面図】



【平面図】



【側面図】



(参考) 県内で同じ工法により撤去した橋梁 (主要地方道一関北上線 柵の瀬橋)



◎ 旧橋撤去の工法の見直しについて

・歩道部の撤去計画について(今回変更)

【当初計画】

〔高水敷部〕 陸上作業が可能のため、ベント+陸上クレーン(150t)で撤去。

〔低水敷部〕 架設時の工法を参考に**鋸桁に手延べ機***を取付け、高水敷部まで歩道橋を引き戻し、陸上クレーンで撤去



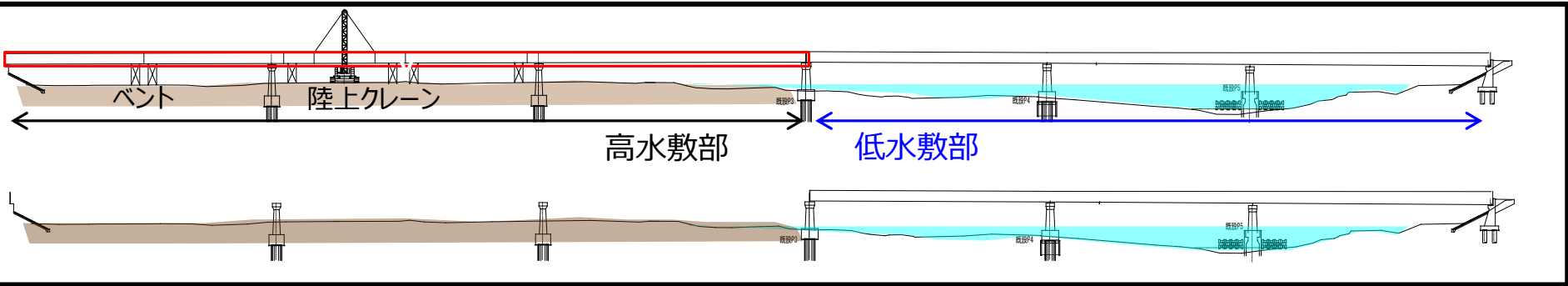
床版を撤去したところ、桁の劣化による損傷が著しく、架設当時と同等の強度が確保されているとは言えない状況が確認された。



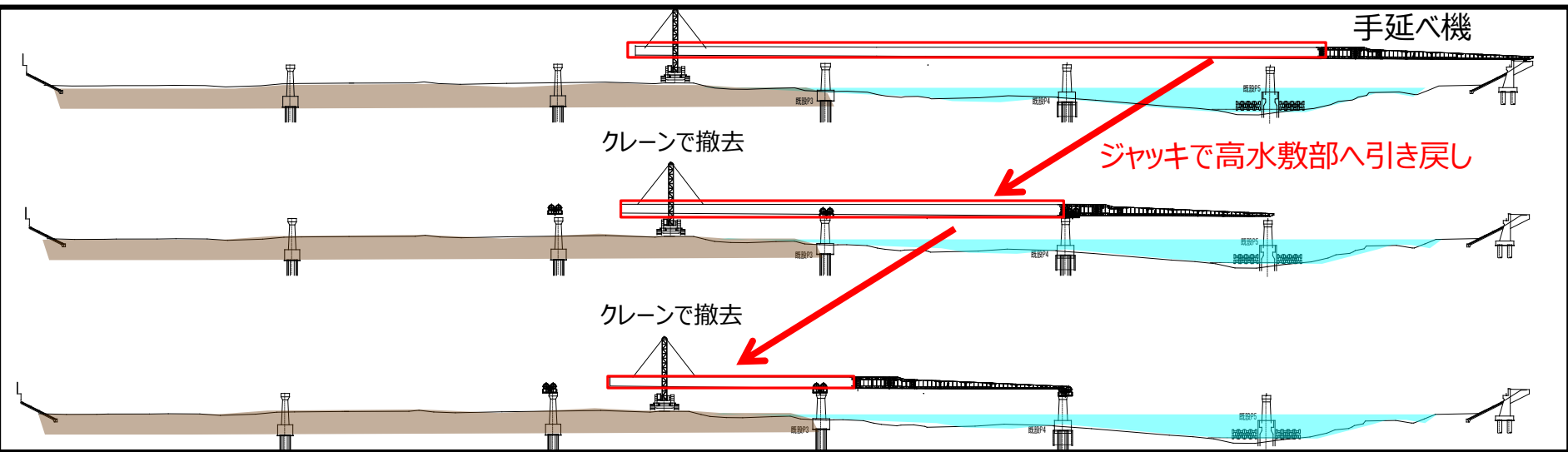
◎ 旧橋撤去の工法の見直しについて

【当初計画】

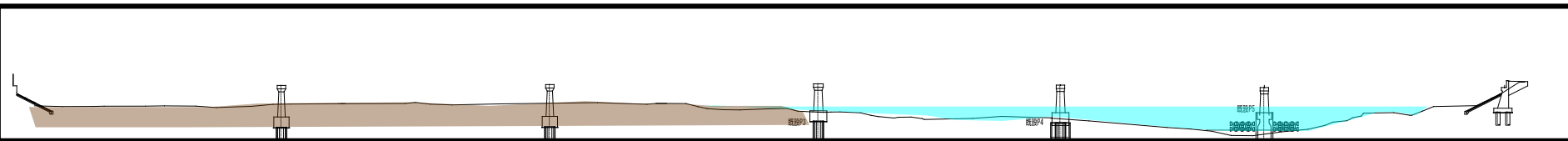
① 高水敷部の歩道橋を陸上のクレーンで撤去



② 手延べ機で低水敷部の歩道橋を高水敷部まで引き戻して陸上クレーンで撤去



③ 撤去完了



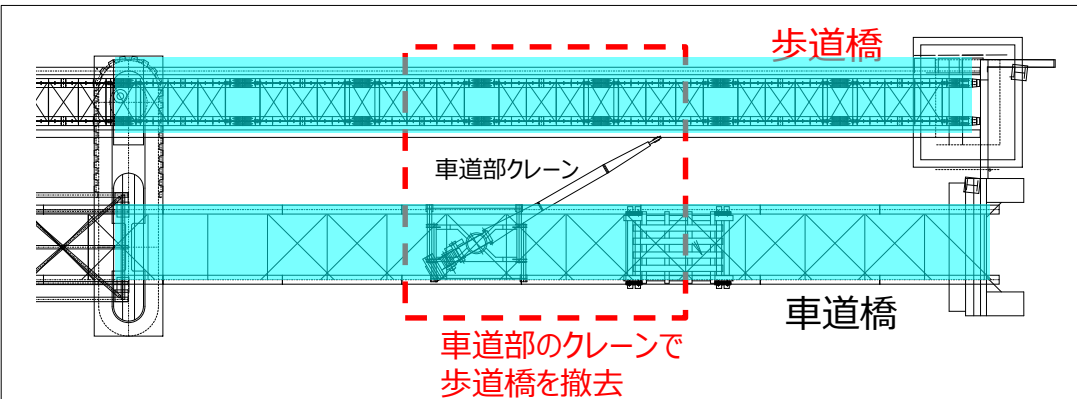
◎ 旧橋撤去の工法の見直しについて

【変更計画】

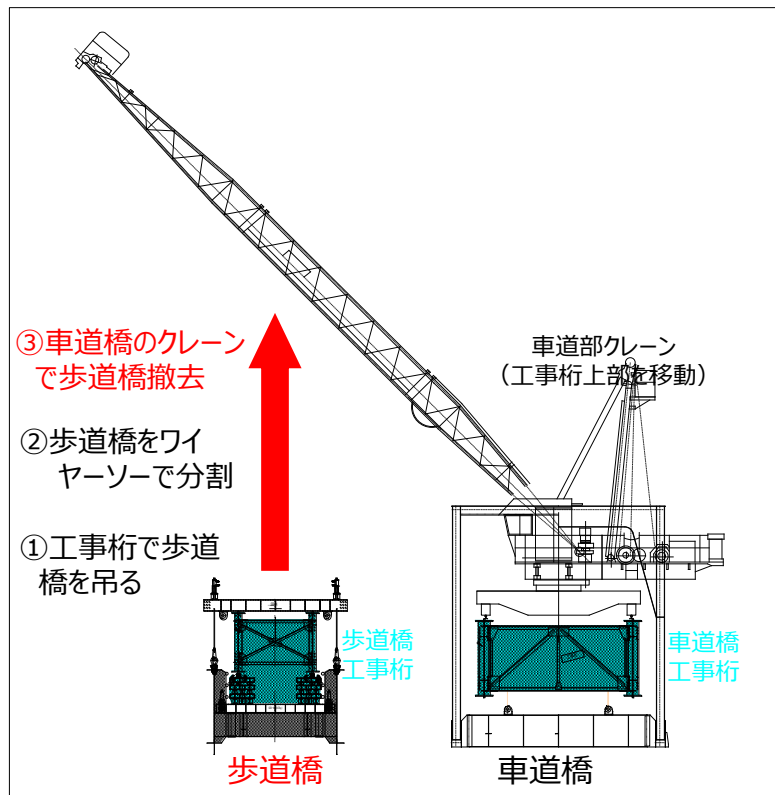
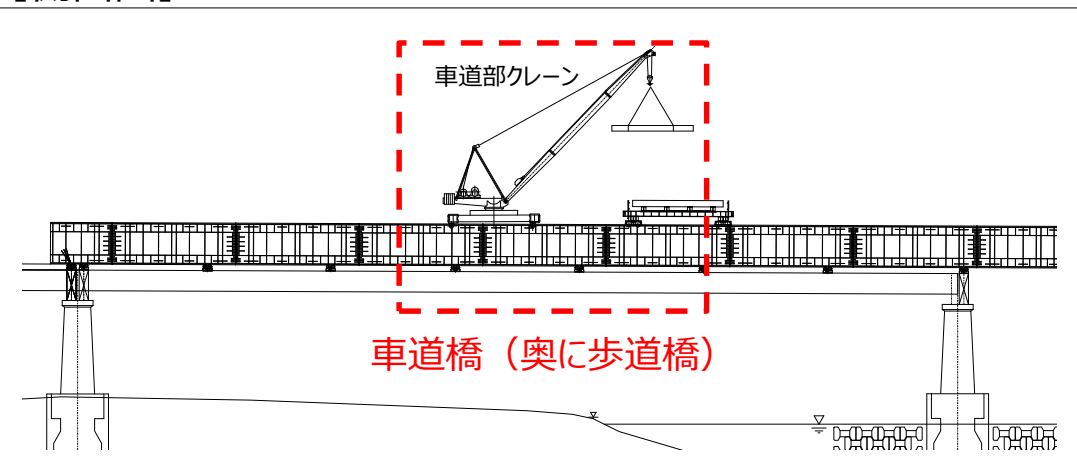
歩道橋に工事桁を設置し、歩道橋を工事桁で吊った状態で、車道部上の工事桁に設置したクレーンで撤去

【横断面図】

【平面図】



【側面図】



橋梁の上に工事桁を設置し、上部をクレーンが移動（主要地方道一関北上線 柵の瀬橋）

大規模公共事業再評価調書の概要

(一級河川^{とくさ}木賊川広域河川改修事業)

担当部課：県土整備部河川課

1 事業概要 (河川名：一級河川北上川水系木賊川、所在市町村：盛岡市、滝沢市)

- 事業目的：木賊川は、岩手山の麓に源を発し、北上川に流下する流域面積 20.9 k m²、流路延長 9.2km の河川である。本河川は、元々農業用水路であったことから、断面が狭小で流下能力が小さく、また、流域では宅地開発による都市化が進んでいるため、大雨の都度、家屋への浸水被害等が発生している。このため、河積の拡大を図るとともに、沿川の状況や土地利用等を考慮し、上流部の遊水地及び諸葛川への分水路により、洪水被害を軽減することを目的としている。
- 事業内容：計画延長 L=6,000m[河川改修 L=4,400m、分水路 L=1,600m (分水路工 L=1,300m、諸葛川改修 L=300m)、遊水地 A=31.0ha]
築堤 V=6,810 m³、掘削 V=173,380 m³、護岸 A=31,270 m²
- 事業期間：昭和 61 年度～令和 29 年度 (前回評価時：昭和 61 年度～令和 19 年度)
- 総事業費：15,955 百万円 (令和 7 年度までの投資額 6,524.0 百万円、進捗率 40.9%)

2 事業の進捗状況等

- 治水手法は、流域特性や土地利用状況等を考慮し「河川改修＋遊水地＋分水路」とし、分水路の整備にあたっては、平成 19 年度に「緊急対策特定区間」に設定して重点的に予算配分を図り整備を進めた結果、平成 24 年度に分水路が完成し、盛岡市みたち地区及び滝沢市穴口地区において平成 14 年度と同規模の洪水による被害を解消できる整備効果の発現がなされた。
- 今後、遊水地の建設、本川の河川改修と順次実施し、段階的に治水安全度の向上を図ることとしている。

3 社会経済情勢等の変化

- 本県では、令和 6 年 8 月の米内川 (盛岡市)、令和 4 年 8 月の馬淵川 (一戸町) や、令和元年 10 月の小屋畑川・沢川 (久慈市)、平成 28 年 8 月の小本川 (岩泉町)、平成 25 年 7 月の砂鉄川 (一関市)、8 月の岩崎川 (矢巾町) 及び雫石川 (雫石町) など、近年大規模な浸水被害が各地で発生しており、治水対策事業に対する関心は依然として高く、効率的・効果的な事業の推進を図る必要がある。
- 当該事業区間では、平成 14 年、17 年、19 年、22 年に洪水被害を受けており、地元自治会や盛岡市、滝沢市から事業の推進についての要望が出されている。
- ソフト対策として、県では令和 2 年度に危機管理型水位計、令和 5 年度に簡易型監視カメラを整備し、ホームページで公開しているほか、令和 4 年 3 月には当該河川の想定最大規模の洪水浸水想定区域図を公表することで、地域住民の円滑な避難を促している。

4 コスト縮減対策及び代替案

- 遊水地計画において、遊水地部の掘削土約 20 万 m³を減らす計画へ見直し、残土運搬処理費用等のコスト縮減を図った (縮減額：C=600 百万円)。
今後行う工事においても、コスト縮減のための取組みを推進していく。
- 代替案の「河川改修」案のみでは約 130 戸の家屋移転が生じることになり、地域社会へ与える影響が大きく、また、経済性でも劣るため、現計画の「河川改修＋遊水地＋分水路」が適当であると判断している。

5 総合評価

- 木賊川沿川には、家屋や資産が集中しており洪水氾濫が起きた際には甚大な被害が発生することから、引き続き未整備となっている遊水地、河川改修を進め、治水対策の着実な推進を図っていく必要がある。
- 「事業の進捗状況等」については、事業期間や事業費を変更するものの、施工区間や主要な工事内容に変更はないことから、今後も事業を推進し、治水安全度の向上を図っていく。
- 「社会経済情勢等の変化」については、近年も県内各地で大規模な浸水被害が発生しており、治水事業に対する関心度は依然として高いこと。また、「評価指標」、「自然環境等の状況」に関しては、特に大きな変化は見られないところである。
- 以上のことから、「事業継続」と評価したものである。

大規模公共事業 再評価調査

令和 7 年 5 月 29 日作成

事業名	広域河川改修事業		補助・単独		担当部課名		県土整備部河川課																																									
路線名等	一級河川北上川水系木賊川 とくさがわ		地区名				市町村	盛岡市、滝沢市																																								
事業概要	〔事業根拠法令等： 河川法第 9 条 〕																																															
	(1) 事業目的 ○解決すべき課題 ・木賊川は、岩手山の麓に源を発し、北上川に流下する流域面積20.9 k m ² 、流路延長9.2 k mの河川である。本河川は、元々農業用水路であり、断面が狭小で流下能力が不足している。 ・近年も洪水被害が発生しており、地元自治会や地元盛岡市、滝沢市からも事業の推進についての強い要望がある。 ・県内に多発する洪水被害への対応等のため、他河川との予算調整配分を行いながら、早期に事業効果を発現させるため、段階的に整備を進め、当面の目標を近年最大洪水である平成14年度と同程度の洪水による被害の解消を図ることとして分水路に着手し、平成24年度に完成・供用を開始している。 ・今後、遊水地の建設、本川の河川改修と順次実施し、段階的に治水安全度の向上を図ることとしている。 ・流域住民の生命財産を守るため、河川改修工事が必要である。 ○整備によって得られる効果 本事業により、50年に1度の確率による降雨で発生すると考えられる洪水被害からの解消が図られる。																																															
	(2) 事業内容 全体計画延長 L=6,000m 〔河川改修 L=4,400m、分水路 L=1,600m（分水路工 L=1,300m、諸葛川改修 L=300m）、遊水地 A=31.0ha〕 築堤 V=6,810m ³ 、掘削 V=173,380m ³ 、護岸 A=31,270m ²																																															
	(3) 整備目標等 治水安全度： 1/ 50 〔治水基準点： 北上川合流点 〕																																															
	事業着手	S61年度	事業計画期間	S61	～	R29 今回再評価時全体計画期間 R19 前回再評価時全体計画期間 H13 当初全体計画期間	用地着手	H9年度	工事着手	H17年度																																						
	事業費	当初計画総事業費 (S61年) (うち用地費)	前回再評価時総事業費 (R2年) (うち用地費)	今回再評価時総事業費 (R7年) A (うち用地費)	事業費の状況 [百万円]																																											
					S61年～ B R5年	R6年 C	R7年 D	投資事業費 E=B+C+D	財源	進捗率 F=E/A																																						
		16,530.0 (5,108.0)	13,748.0 (1,899.5)	15,955.0 (2,090.4)	6,212.0 (1,899.5)	262.0 (0.0)	50.0 (0.0)	6,524.0 (1,899.5)	国庫 3,262.0 県 3,262.0	40.9%																																						
	事業の進捗状況等	(1) 事業の進捗状況 ア 整備効果の発現状況 ・治水手法は、流域特性や土地利用状況等を考慮し「河川改修+遊水地+分水路」とし、分水路の整備にあたっては、平成19年度に「緊急対策特定区間」に設定して重点的に予算配分を図り整備を進めた結果、平成24年度に分水路が完成し、盛岡市みたち地区及び滝沢市穴口地区において平成14年度と同規模の洪水による被害を解消できる整備効果の発現がなされた。 ・平成27年から遊水地に着手しており、今後第1遊水地、第2遊水地及び木賊川本川の河川改修と順次概成させながら、段階的に治水安全度の向上を図ることとしている。 イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し ①理由：事業期間の延伸は、県内に多発する洪水被害への対応等のため、他河川との予算調整配分が必要となり、事業期間の見直しを行ったもの。 ②解決の見通し（難易度）：他河川との予算調整配分など、本事業の進捗を阻害する要因はあるが、整備目標である50年に1度の確率による降雨対応を段階的に推進し、早期の整備効果の実現を図っていく。 ③解決までの対応及び期間：「遊水地+分水路+本川改修」を柱とする本事業は、H24年5月の分水路完成により現況流下能力が1/1程度から1/5程度に向上しており、第1遊水地の完成により1/10程度、第2遊水地完成後には1/30程度と段階的に治水効果を上げる計画であり、事業完了（令和29年度）までに50年に1度の確率による降雨規模に対する改修を推進する。また、事業推進が図られるまでの洪水に備え、盛岡市や滝沢市、地域住民に対し、河川の水位観測情報や市長へのホットラインの伝達などのソフト対策を行っていく。 ○中項目評価は、県内に多発する洪水被害への対応など、本事業の進捗を阻害する要因はあるものの、一定の期間等を要することにより解決できる見込みであり、竣工の見通しがあることから「b」とした。																																														
		中項目評価 a . (b) . c																																														
(2) 事業計画の変更の有無及び内容 ①事業期間の延伸（S61～R19 → S61～R29） ②事業費（13,748百万円 → 15,955百万円）																																																
<table><tr><th>項目</th><th>変更前(R2)</th><th colspan="2">変更後(R7)</th><th>理由</th></tr><tr><td>木賊川河道改修</td><td>5,148百万円</td><td>6,178百万円</td><td>+1,030百万円</td><td>労務費、物価上昇による増</td></tr><tr><td>第1遊水地</td><td>2,416百万円</td><td>2,629百万円</td><td>+213百万円</td><td>労務費、物価上昇による増</td></tr><tr><td>第2遊水地</td><td>3,106百万円</td><td>3,380百万円</td><td>+274百万円</td><td>労務費、物価上昇による増</td></tr><tr><td>分水路</td><td>2,406百万円</td><td>2,406百万円</td><td>0百万円</td><td></td></tr><tr><td>諸葛川改修</td><td>672百万円</td><td>672百万円</td><td>0百万円</td><td></td></tr><tr><td>環境調査</td><td>0百万円</td><td>690百万円</td><td>+690百万円</td><td>追加による増</td></tr><tr><td>計</td><td>13,748百万円</td><td>15,955百万円</td><td>+2,207百万円</td><td></td></tr></table>								項目	変更前(R2)	変更後(R7)		理由	木賊川河道改修	5,148百万円	6,178百万円	+1,030百万円	労務費、物価上昇による増	第1遊水地	2,416百万円	2,629百万円	+213百万円	労務費、物価上昇による増	第2遊水地	3,106百万円	3,380百万円	+274百万円	労務費、物価上昇による増	分水路	2,406百万円	2,406百万円	0百万円		諸葛川改修	672百万円	672百万円	0百万円		環境調査	0百万円	690百万円	+690百万円	追加による増	計	13,748百万円	15,955百万円	+2,207百万円		
項目		変更前(R2)	変更後(R7)		理由																																											
木賊川河道改修		5,148百万円	6,178百万円	+1,030百万円	労務費、物価上昇による増																																											
第1遊水地		2,416百万円	2,629百万円	+213百万円	労務費、物価上昇による増																																											
第2遊水地		3,106百万円	3,380百万円	+274百万円	労務費、物価上昇による増																																											
分水路		2,406百万円	2,406百万円	0百万円																																												
諸葛川改修		672百万円	672百万円	0百万円																																												
環境調査	0百万円	690百万円	+690百万円	追加による増																																												
計	13,748百万円	15,955百万円	+2,207百万円																																													
○中項目評価は、変更の内容が施工区間や主要な工事内容の変更ではなく、主に社会的要因（労務費、物価上昇による増）に伴う事業期間及び事業費に関する変更であることから、「b」とした。																																																
中項目評価 a . (b) . c																																																
○中項目評価が「b」、「b」であることから、大項目評価は「BB」とした。																																																
評 価				AA ・ A ・ (BB) ・ B ・ C																																												

社会経済情勢等の変化

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

岩手県を含む東日本、北日本に被害をもたらした令和元年10月の台風第19号、九州地方に大きな被害をもたらした令和2年7月豪雨、九州、中国地方を中心に被害をもたらした令和3年7月、8月の豪雨、東北、北陸を中心に被害をもたらした令和4年8月3日からの豪雨、九州南部を中心に被害をもたらした令和4年9月の台風第14号、東海地方を中心に被害をもたらした台風第15号、東北地方日本海側を中心に被害をもたらした令和6年7月の豪雨など、毎年、自然災害により尊い人命や家屋等の財産が甚大な被害を受けていることから、今後も着実にハード対策を進めるとともに、安全な避難等のための洪水情報等の提供の充実などソフト施策の充実を図り、災害時に避難が行われるよう住民の意識啓発に努めていく必要がある。

イ 本県内の状況

・近年、本県では、令和6年8月の米内川(盛岡市)、令和4年8月の馬淵川(一戸町)や、令和元年10月の小屋畑川・沢川(久慈市)、平成28年8月の小本川(岩泉町)、平成25年7月の砂鉄川(一関市)、8月の岩崎川(矢巾町)及び雫石川(雫石町)など、各地で大規模な浸水被害が発生しており、治水事業に対する関心度は依然として高く、効率的・効果的な事業の進捗に努める必要がある。

・県では、近年洪水被害が発生した河川や背後地に資産の集中している河川について重点的に整備を進めることとしており、過去の被災流量相当の洪水被害から地域を守ることを当面の目標として、段階的な整備により治水安全度の向上を図ることとしている。

・河川改修などのハード対策を進めているとともに、住民の迅速かつ円滑な避難を促すため、ソフト施策として水位計や河川監視カメラを設置のうえ、ホームページやメール等により洪水情報を提供しているほか、洪水浸水想定区域図の作成、市町村への洪水ハザードマップの作成支援を行っている。

ウ 施工地区における状況

・当事業区間は、平成14年、17年、19年、22年と洪水被害を受けており、地域住民の治水事業に対する関心も非常に高く、地元自治会や盛岡市、滝沢市などからも早期改修について知事への要望が出されている。ソフト対策として、県では令和2年度に危機管理型水位計、令和5年度に簡易型監視カメラを整備し、ホームページで公開しているほか、令和4年3月には当該河川の想定最大規模の洪水浸水想定区域図を公表することで、地域住民の円滑な避難を促している。

○中項目評価は、全国または本県において、河川改修事業のあり方についての議論や見直しの検討がないことから「a」とした。

中項目評価a . b . c

(2) 事業に関する評価指標の推移

評価指標		配点	事業着手時 (S61) 評 点	前回再評価時 (R2) 評 点 (A)	今回再評価時 (R7) 評 点 (B)	増減 (B)-(A)	備 考
必要性	想定氾濫被害額	15	15 (6,708百万円)	15 (23,198百万円)	15 (27,646百万円)	0	
	防護人口	5	5 (2.7千人)	5 (4.9千人)	5 (5.1千人)	0	
	公共施設・弱者施設	5	5 (有)	5 (有)	5 (有)	0	病院、高校、中学校、小学校
	輸送施設	5	5 (有)	5 (有)	5 (有)	0	鉄道、市道
重要性	総合計画上の位置付け	5	5 (有)	5 (有)	5 (有)	0	指標：河川整備率
緊急性	過去10年間の水害被害実績	5	1 (19百万円)	1 (1百万円)	0 (0百万円)	-1	※
	過去10年間の被災回数	3	2 (2回)	1 (1回)	0 (0回)	-1	※
	他事業関連の有無	5	0 (無)	5 (有)	5 (有)	0	民間宅地開発、公共下水道事業
	流下能力比	2	2 (14%)	2 (14%)	2 (14%)	0	
効率性	費用便益比 (B/C)	40	25 (2.7)	40 (16.5)	40 (14.9)	0	
熟度	地元の要望	5	5 (あり)	5 (あり)	5 (あり)	0	
	地元の協力	5	0 (なし)	0 (なし)	0 (なし)	0	
計		100	70	89	87	-2	(今回評価時/前回評価時) 98%

※：H22洪水被害が対象から外れたことによるもの。

○ 費用便益分析

費用便益分析手法： 治水経済調査マニュアル（案） 令和6年4月 国土交通省水管理・国土保全局

（単位：百万円）

区 分		事業着手時 (基準年：昭和61年度)	前回 再評価時 (基準年：令和2年度)	今回 再評価時 (基準年：令和6年度)	備考
費用項目	①建設費	12,520	14,032	19,796	※1
	②維持管理費	1,466	1,689	2,184	※1
	③総費用 (C) ①+②	13,986	15,721	21,980	
便益項目	④被害軽減の便益	37,422	258,313	326,250	※2
	⑤残存価値	656	392	340	
	⑥総便益 (B) ④+⑤	38,078	258,705	326,590	
費用便益比 (B/C) ⑥/③		2.7	16.5	14.9	

※1：「建設費」及び「維持管理費」の増は、全体事業費の増と基準年の変更による現在価値化に伴うもの。

※2：「被害軽減の便益」の増は、治水経済調査マニュアル（案）（令和6年4月）に基づき算出した結果によるもの。

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

- ・ 牧野林・穴口地区宅地開発事業(民間、平成16年度～平成21年度完了、開発面積29.8ha)
- ・ 盛岡市公共下水道事業（盛岡市、昭和62年度～平成20年度完了、木賊川関連地区）

○中項目評価は、各評価指標の合計が、前回再評価時の90%以上であることから「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- ・ 岩手県自然環境保全指針による保全区分
- ・ 希少野生動植物生息の有無
- ・ 埋蔵文化財包蔵地の有無

あり
なし

A、C、E

- ・ その他特記事項（岩手県自然保護指針による保全区分では一部Aであるが、区分Aの区域では環境調査も実施しており、希少動植物が確認されている。その他の区間では、区分C、Eとなっている。）

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

- ・ 振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況

付議している

①主な助言内容

- ・ 動植物の生育基盤となる生態系を保全するため、可能な限り現況環境との保全・復元を図ること。
- ・ 遊水地計画地内で確認された希少動植物種を保護すること。
- ・ 希少野生動物の生育環境との共生を図り、生殖生育活動への影響を低減・回避すること。

②対応状況

- ・ 環境検討委員会の意見を踏まえ、事業実施における周辺環境への影響は可能な限り低減させることとしている。
- ・ 令和2年度に木賊川希少野生動植物検討会を設置し、令和7年3月までに検討会を6回、現地調査を2回開催し、保全対策等について有識者から意見いただきながら事業の進捗を図っている。

○中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全方向に沿って積極的な対応をしていることから「a」とした。

中項目評価 (a) . b . c

○中項目評価が「a」、「a」、「a」であることから、大項目評価を「AA」とした。

評 価

AA . A . B . C

コスト削減対策及び代替案立案の可能性

(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性

・遊水地計画において、遊水地部の掘削土約20万㎡を減らす計画へ見直し、残土運搬処理費用等のコスト削減を図った。 削減額：C=600百万円

・今後行う工事においても、コスト削減のための取組みを推進していく。

(2) 代替案立案の可能性

①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果

・「河川改修」案のみでは約130戸の家屋移転が生じることになり、地域社会へ与える影響が大きく、また、経済性でも劣るため、現計画の「河川改修＋遊水地＋分水路」が適当であると判断している。

②今後における代替案立案の可能性

・現時点で予想される社会・自然環境等の大きな変化はないため、代替案立案の可能性はない。

(1) 総合評価

総合評価
(対応方針案)

事業継続

要 検 討

中 止

(事業継続、見直し継続、休止、中止)

(事業名) 広域河川改修事業 木賊川

着手 年度	完了予 定年度	事業費 (百万円)	投資 事業費 (百万円)	進捗率 (%)	(1) 事業進捗状況		(2) 社会経済情勢			参考			
					進捗状況	計画変更	社会経済	評価指標	自然環境	評点	B/C		
H61	R29	15,955	6,524.0	40.9%	BB	b	b	AA	a	a	a	87	14.9

○総合評価に係るコメント

・木賊川沿川には、家屋や資産が集中しており洪水氾濫が起きた際には甚大な被害が発生することから、引き続き遊水地の整備を継続し、未着手の木賊川の河川改修を進め、治水対策の着実な推進を図っていく必要がある。

・「事業の進捗状況等」については、事業期間や事業費を変更するものの、施工区間や主要な工事内容に変更はないことから、今後も事業を推進し、治水安全度の向上を図っていく。

・「社会経済情勢等の変化」については、近年も県内各地で大規模な浸水被害が発生しており、治水事業に対する関心度は依然として高いこと。また「評価指標」、「自然環境等の状況」に関しては、特に大きな変化は見られないこと。

・以上のことから、「事業継続」と評価したものである。

総合評価

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断面図等を添付のこと。

大規模公共事業 再評価調書 (付表)

事業名	広域河川改修事業	補助・単独	担当部課名	県土整備部河川課
路線名等	一級河川北上川水系木賊川 ^{とくさがわ}	地区名	市町村	盛岡市、滝沢市

1 現在までの事業の経緯等

昭和61年度 国庫補助による事業採択
平成9年度 工事全体計画の認可
平成15年度 公共事業評価 (再評価)
平成16年度 河川整備計画の認可
平成16年度、平成22年度、平成27年度、令和2年度 大規模事業評価 (再評価)

2 事業を取り巻く社会経済情勢等の変化の具体的説明

木賊川沿いは宅地化が進行しているが、事業区間では近年、平成14年、17年、22年と浸水被害が発生しており、地元からは事業の推進についての強い要望が出されている。

(近年の浸水被害)

平成14年7月11日 床下浸水 99戸、床上浸水 14戸
平成17年8月15日 床下浸水 6戸、床上浸水 1戸
平成22年8月12日 床下浸水 1戸

(要望の状況) ※期日は近年のものを記載している。

○木賊川・菓子川の抜本的な早期改修を求める会 (平成14年11月21日)
○盛岡市 (令和5年7月28日)
○滝沢市 (令和5年8月4日)
○盛岡市 (令和6年7月22日)
○滝沢市 (令和6年7月12日)

3 住民意見の状況とこれに対する対応

本計画については、木賊川を含む「盛岡西圏域河川整備計画」の策定に伴い実施した、次の懇談会等の場で説明を行っており、それに対して住民より意見をいただいている。

◇諸葛川・木賊川流域懇談会 3回 (平成15年11月6日、12月12日、平成16年2月28日)
懇談会における意見交換等を経て、委員より次のような意見書がまとめられている。

○早期に治水効果が現れる河川整備をするべき。
○流れを阻害している構造物は早期に対策を行うべき。
○できる限り自然環境の保全・創出に努めるべき。
○生態系を考慮した河川環境整備が望ましい。
○河川利用に適した親水空間の創出に努めるべき。
○川づくりは、今後も住民意見を取り上げながら検討していくべき。
○河川清掃等の活動は、地域住民に周知する方法を検討するべき。
○ホームページなどにより情報を提供し、地域との連携に努めるべき。

◇盛岡西圏域河川整備計画公聴会 1回 (平成16年7月28日)
出席した住民より、木賊川については次のような質問・意見があった。

○木賊川の改修の見通しについて
(質問・意見)
木賊川の改修は、どのような事業計画で進めていく予定か。
(回答)
分水路、遊水地、河道の整備により段階的に事業を進め、治水安全度の向上を図っていく。

これら懇談会等でいただいた意見には、事業計画に対する反対意見はなかった。

4 費用便益分析の詳細（算定方法、算出根拠等）

算出方法：別添

算出根拠：治水経済調査マニュアル(案)令和6年4月 国土交通省水管理・国土保全局（単位:百万円）

区 分		事業着手時 (基準年：昭和61年度)	前回再評価時 (基準年：令和2年度)	今回再評価時 (基準年：令和6年度)	
				残事業B/C	
費用項目	①建設費	12,520	14,032	19,796	5,439
	②維持管理費	1,466	1,689	2,184	589
	③総費用 (C) ①+②	13,986	15,721	21,980	6,028
便益項目	④被害軽減の便益	37,422	258,313	326,250	94,331
	⑤残存価値	656	392	340	193
	⑥総便益 (B) ④+⑤	38,078	258,705	326,590	94,524
費用便益比 (B/C) ⑥／③		2.7	16.5	14.9	15.7

① 建設費:施設整備に要する費用(河川改修費)を整備期間、評価期間で現在価値化して合計したものである。基準年以前の費用は、物価変動を考慮した実質価値に換算した後に現在価値化している。

② 維持管理費:毎年定常的に支出される除草等の費用で、完成した施設に要した事業費の0.5%を現在価値化して計上している。

④ 被害軽減の便益:施設整備によって想定される年平均被害軽減額を現在価値化して合計したものである。

⑤ 残存価値:評価対象期間終了時点における施設等の価値。構造物は価値を10%とし、構造物以外(堤防・用地など)は減価しないものとしている。

5 環境対策の具体的内容

(環境検討委員会からの提言)

◇諸葛川・木賊川流域懇談会 3回(平成15年11月6日、12月12日、平成16年2月28日)

委員長 小野泰正(岩手大学名誉教授)他8名

提言内容

- 生態系、自然環境、既存樹木の保全
- 自然環境、水湿地性環境、魚類等の生息環境の復元・創造
- 希少動植物の保護
- 水質汚濁防止等の対策

◇大規模事業評価委員会 答申への対応(令和2年10月8日)

[意見] [対応]

希少野生生物の保全 継続的な環境調査の実施。検討委員会の設置および有識者意見を踏まえた保全対策の実施。
遊水地の利活用・管理 地域住民、滝沢市との連携により、より良い利活用の検討。

◇木賊川希少動植物検討会

(令和3年2月18日、令和3年4月26日(現地)、令和4年1月7日、令和5年3月23日、令和5年7月10日、令和5年8月2、8日(現地)、令和6年1月23日、令和7年1月24日)

構成委員:岩手県立大学 渋谷晃太郎名誉教授 他会員6名 オブザーバー2名

意見概要

- 各希少野生動植物の調査方法について
- 希少種の保全及び移植方法と工事の施工時期について
- 木賊川全川を見通した希少種の保全について 等

6 代替案(見直し案)の検討内容

「河川改修」案のみでは、約130戸の家屋移転が生じることになり、地域社会へ与える影響が大きく、また、経済性でも劣るため、現計画を選定している。

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準断面図等を添付のこと。

様式-7 費用対効果 計算書 (令和7年度評価)

水系名: 北上川水系

河川名: 本蔵川

施設名: 本蔵川遊水地

単位: 百万円

年次	年度	t	現在 価値化 割引率	デフ レータ	便 益 (百万円)				残存価値 ⑤	計 ④+③
					治水	事業費③	現在価値 ①	維持管理費④		
					便益	事業費	現在価値 ①	費用	現在価値	
整備 期間 (S)	S61	-38	4.4388	1.4648	8	36	10	65	0.05	0.3
	S62	-37	4.2681	1.4294	11	47	5	31	0.08	0.5
	S63	-36	4.1039	1.3908	16	66	5	29	0.11	0.6
	H01	-35	3.9461	1.3211	19	75	5	26	0.14	0.7
	H02	-34	3.7943	1.2701	42	159	28	135	0.28	1.3
	H03	-33	3.6484	1.2382	94	343	65	294	0.60	2.7
	H04	-32	3.5081	1.2280	147	516	68	293	0.94	4.0
	H05	-31	3.3731	1.2318	243	820	122	507	1.55	6.4
	H06	-30	3.2434	1.2305	306	992	79	315	1.94	7.7
	H07	-29	3.1187	1.2344	368	1,148	79	304	2.33	9.0
	H08	-28	2.9987	1.2395	408	1,223	50	186	2.58	9.6
	H09	-27	2.8834	1.2331	423	1,220	19	68	2.68	9.5
	H10	-26	2.7725	1.2593	688	1,907	336	1,173	4.35	15.2
	H11	-25	2.6658	1.2728	794	2,117	134	455	5.02	17.0
	H12	-24	2.5633	1.2756	907	2,325	144	471	5.73	18.7
	H13	-23	2.4647	1.3079	947	2,334	49	158	5.97	19.2
	H14	-22	2.3699	1.3255	977	2,315	39	123	6.16	19.4
	H15	-21	2.2788	1.3255	1,028	2,343	64	193	6.47	19.5
	H16	-20	2.1911	1.3211	1,066	2,336	49	142	6.71	19.4
	H17	-19	2.1068	1.3137	1,199	2,526	167	462	7.54	20.9
	H18	-18	2.0258	1.2993	1,411	2,858	269	708	8.87	23.3
	H19	-17	1.9479	1.2797	1,795	3,496	486	1,211	11.28	28.1
	H20	-16	1.8730	1.2421	2,281	4,272	616	1,433	14.34	33.4
	H21	-15	1.8009	1.2825	2,705	4,872	536	1,238	17.00	39.3
	H22	-14	1.7317	1.2811	2,959	5,124	322	714	18.60	41.3
	H23	-13	1.6651	1.2500	3,202	5,332	307	639	20.12	41.9
	H24	-12	1.6010	1.2540	3,412	5,463	266	534	21.44	43.0
	H25	-11	1.5395	1.2280	3,528	5,431	148	280	22.17	41.9
	H26	-10	1.4802	1.1886	3,608	5,341	101	178	22.67	39.9
	H27	-9	1.4233	1.1850	3,623	5,157	19	32	22.76	38.4
	H28	-8	1.3686	1.1779	3,705	5,071	104	168	23.28	37.5
	H29	-7	1.3159	1.1516	3,800	5,001	120	182	23.87	36.2
	H30	-6	1.2653	1.1127	3,870	4,897	89	125	24.31	34.2
施設 完成後 の評価 期間 (50年)	R1	-5	1.2167	1.0882	4,003	4,870	167	221	25.14	33.3
	R2	-4	1.1699	1.0872	4,171	4,879	213	271	26.19	33.3
	R3	-3	1.1249	1.0487	4,440	4,994	341	402	27.86	32.9
	R4	-2	1.0816	1.0000	4,687	5,069	313	339	29.40	31.8
	R5	-1	1.0400	1.0000	4,878	5,073	242	252	30.59	31.8
	R6	0	1.0000	1.0000	4,914	4,914	46	46	30.82	30.8
	R7	1	0.9615	1.0000	5,046	4,852	193	186	31.64	30.4
	R8	2	0.9246	1.0000	5,214	4,821	240	222	32.69	30.2
	R9	3	0.8890	1.0000	5,382	4,785	240	213	33.74	30.0
	R10	4	0.8548	1.0000	5,550	4,744	240	205	34.79	29.7
	R11	5	0.8219	1.0000	5,742	4,720	269	221	35.98	29.6
	R12	6	0.7903	1.0000	6,051	4,782	418	330	37.91	30.0
	R13	7	0.7599	1.0000	6,359	4,832	418	318	39.84	30.3
	R14	8	0.7307	1.0000	6,669	4,873	418	305	41.77	30.5
	R15	9	0.7026	1.0000	6,977	4,902	418	294	43.70	30.7
	R16	10	0.6756	1.0000	7,285	4,921	418	282	45.63	30.8
	R17	11	0.6496	1.0000	7,595	4,934	418	272	47.56	30.9
	R18	12	0.6246	1.0000	7,903	4,936	418	261	49.49	30.9
	R19	13	0.6006	1.0000	8,213	4,933	418	251	51.42	30.9
	R20	14	0.5775	1.0000	8,521	4,921	418	241	53.35	30.8
	R21	15	0.5553	1.0000	8,830	4,903	418	232	55.28	30.7
	R22	16	0.5339	1.0000	9,139	4,879	418	223	57.21	30.5
	R23	17	0.5134	1.0000	9,448	4,850	418	215	59.14	30.4
	R24	18	0.4936	1.0000	9,757	4,816	418	206	61.07	30.1
	R25	19	0.4746	1.0000	10,064	4,777	417	198	62.99	29.9
	R26	20	0.4564	1.0000	10,373	4,734	417	190	64.91	29.6
	R27	21	0.4388	1.0000	10,681	4,687	417	183	66.83	29.3
	R28	22	0.4220	1.0000	10,989	4,637	417	176	68.75	29.0
	R29	23	0.4057	1.0000	11,297	4,583	417	169	70.67	28.7
	R30	24	0.3901	1.0000	11,297	4,407			70.67	27.6
	R31	25	0.3751	1.0000	11,297	4,238			70.67	26.5
	R32	26	0.3607	1.0000	11,297	4,075			70.67	25.5
	R33	27	0.3468	1.0000	11,297	3,918			70.67	24.5
	R34	28	0.3335	1.0000	11,297	3,767			70.67	23.6
	R35	29	0.3207	1.0000	11,297	3,622			70.67	22.7
	R36	30	0.3083	1.0000	11,297	3,483			70.67	21.8
	R37	31	0.2965	1.0000	11,297	3,349			70.67	21.0
	R38	32	0.2851	1.0000	11,297	3,220			70.67	20.1
	R39	33	0.2741	1.0000	11,297	3,096			70.67	19.4
	R40	34	0.2636	1.0000	11,297	2,977			70.67	18.6
	R41	35	0.2534	1.0000	11,297	2,863			70.67	17.9
	R42	36	0.2437	1.0000	11,297	2,753			70.67	17.2
	R43	37	0.2343	1.0000	11,297	2,647			70.67	16.6
	R44	38	0.2253	1.0000	11,297	2,545			70.67	15.9
	R45	39	0.2166	1.0000	11,297	2,447			70.67	15.3
	R46	40	0.2083	1.0000	11,297	2,353			70.67	14.7
	R47	41	0.2003	1.0000	11,297	2,263			70.67	14.2
	R48	42	0.1926	1.0000	11,297	2,176			70.67	13.6
	R49	43	0.1852	1.0000	11,297	2,092			70.67	13.1
	R50	44	0.1780	1.0000	11,297	2,011			70.67	12.6
	R51	45	0.1712	1.0000	11,297	1,934			70.67	12.1
	R52	46	0.1646	1.0000	11,297	1,860			70.67	11.6
	R53	47	0.1583	1.0000	11,297	1,788			70.67	11.2
	R54	48	0.1522	1.0000	11,297	1,719			70.67	10.8
	R55	49	0.1463	1.0000	11,297	1,653			70.67	10.3
	R56	50	0.1407	1.0000	11,297	1,590			70.67	9.9
	R57	51	0.1353	1.0000	11,297	1,528			70.67	9.6
	R58	52	0.1301	1.0000	11,297	1,470			70.67	9.2
	R59	53	0.1251	1.0000	11,297	1,413			70.67	8.8
	R60	54	0.1203	1.0000	11,297	1,359			70.67	8.5
	R61	55	0.1157	1.0000	11,297	1,307			70.67	8.2
	R62	56	0.1112	1.0000	11,297	1,256			70.67	7.9
	R63	57	0.1069	1.0000	11,297	1,208			70.67	7.6
	R64	58	0.1028	1.0000	11,297	1,162			70.67	7.3
	R65	59	0.0989	1.0000	11,297	1,117			70.67	7.0
	R66	60	0.0951	1.0000	11,297	1,074			70.67	6.7
	R67	61	0.0914	1.0000	11,297	1,033			70.67	6.5
	R68	62	0.0879	1.0000	11,297	993			70.67	6.2
	R69	63	0.0845	1.0000	11,297	955			70.67	6.0
	R70	64	0.0813	1.0000	11,297	918			70.67	5.7
	R71	65	0.0781	1.0000	11,297	883			70.67	5.5
	R72	66	0.0751	1.0000	11,297	849			70.67	5.3
	R73	67	0.0722	1.0000	11,297	816			70.67	5.1
	R74	68	0.0695	1.0000	11,297	785			70.67	4.9
	R75	69	0.0668	1.0000	11,297	755			70.67	4.7
	R76	70	0.0642	1.0000	11,297	725			70.67	4.5
	R77	71	0.0617	1.0000	11,297	698			70.67	4.4
	R78	72	0.0594	1.0000	11,297	671			70.67	4.2
	R79	73	0.0571	1.0000	11,297	645			70.67	4.0
合計					326,250	14,923	19,796	2,184	340	21,980

年平均被害軽減期待値

年便益の総和

残存価値

築堤・掘削

護岸等構造物

用地費

総便益B

総費用C

B/C

11,297

326,250

340

211

25

104

326,590

21,980

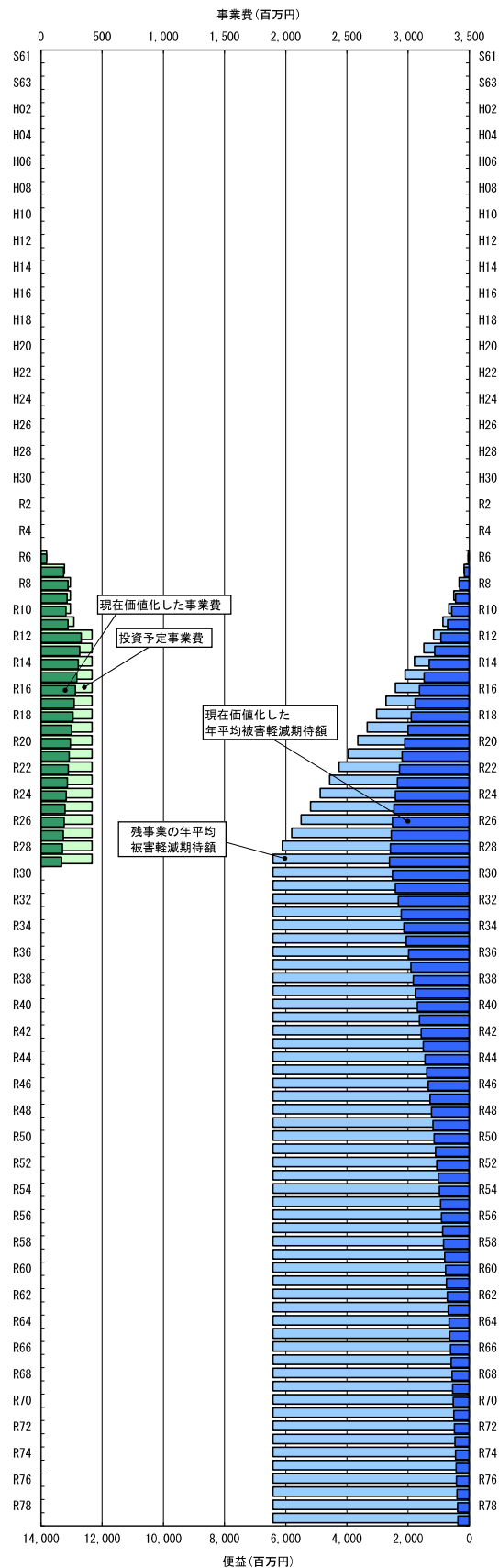
14.9

(築堤・掘削の総費用) / (1+0.04)^{S=50}

様式ー7 費用対効果（残事業） 計算書 （令和7年度評価）
 水系名：北上川水系 河川名：木賊川 施設名：木賊川遊水地 単位：百万円

年次	年度	t	現在 価値化 割引率	デフ レータ	便 益 (百万円)					残存価値 ⑤	計 ④+③
					治水 便益	現在価値 ①	事業費 現在価値	維持管理費④ 費用 現在価値			
整備区間（S）	S61	-38	4.4388	1.4648							
	S62	-37	4.2681	1.4294							
	S63	-36	4.1039	1.3908							
	H01	-35	3.9461	1.3211							
	H02	-34	3.7943	1.2701							
	H03	-33	3.6484	1.2382							
	H04	-32	3.5081	1.2280							
	H05	-31	3.3731	1.2318							
	H06	-30	3.2434	1.2305							
	H07	-29	3.1187	1.2344							
	H08	-28	2.9987	1.2395							
	H09	-27	2.8834	1.2331							
	H10	-26	2.7725	1.2593							
	H11	-25	2.6658	1.2728							
	H12	-24	2.5633	1.2756							
	H13	-23	2.4647	1.3079							
	H14	-22	2.3699	1.3255							
	H15	-21	2.2788	1.3255							
	H16	-20	2.1911	1.3211							
	H17	-19	2.1068	1.3137							
	H18	-18	2.0258	1.2993							
	H19	-17	1.9479	1.2797							
	H20	-16	1.8730	1.2421							
	H21	-15	1.8009	1.2825							
	H22	-14	1.7317	1.2811							
	H23	-13	1.6651	1.2500							
	H24	-12	1.6010	1.2540							
	H25	-11	1.5395	1.2280							
	H26	-10	1.4802	1.1886							
	H27	-9	1.4233	1.1850							
	H28	-8	1.3686	1.1779							
	H29	-7	1.3159	1.1516							
	H30	-6	1.2653	1.1127							
施設完成後の評価期間（S O 年）	R1	-5	1.2167	1.0882							
	R2	-4	1.1699	1.0872							
	R3	-3	1.1249	1.0487							
	R4	-2	1.0816	1.0000							
	R5	-1	1.0400	1.0000							
	R6	0	1.0000	1.0000	37	37	46	46	0.23	0.2	
	R7	1	0.9615	1.0000	168	162	193	186	1.05	1.0	
	R8	2	0.9246	1.0000	336	311	240	222	2.10	1.9	
	R9	3	0.8890	1.0000	504	448	240	213	3.15	2.8	
	R10	4	0.8548	1.0000	672	574	240	205	4.20	3.6	
	R11	5	0.8219	1.0000	863	709	269	221	5.39	4.4	
	R12	6	0.7903	1.0000	1,172	926	418	330	7.32	5.8	
	R13	7	0.7599	1.0000	1,481	1,125	418	318	9.25	7.0	
	R14	8	0.7307	1.0000	1,790	1,308	418	305	11.18	8.2	
	R15	9	0.7026	1.0000	2,099	1,475	418	294	13.11	9.2	
	R16	10	0.6756	1.0000	2,408	1,627	418	282	15.04	10.2	
	R17	11	0.6496	1.0000	2,717	1,765	418	272	16.97	11.0	
	R18	12	0.6246	1.0000	3,025	1,889	418	261	18.90	11.8	
	R19	13	0.6006	1.0000	3,334	2,002	418	251	20.83	12.5	
	R20	14	0.5775	1.0000	3,643	2,104	418	241	22.76	13.1	
	R21	15	0.5553	1.0000	3,952	2,194	418	232	24.69	13.7	
	R22	16	0.5339	1.0000	4,261	2,275	418	223	26.62	14.2	
	R23	17	0.5134	1.0000	4,570	2,346	418	215	28.55	14.7	
	R24	18	0.4936	1.0000	4,878	2,408	418	206	30.48	15.0	
	R25	19	0.4746	1.0000	5,187	2,462	417	198	32.40	15.4	
	R26	20	0.4564	1.0000	5,495	2,508	417	190	34.32	15.7	
	R27	21	0.4388	1.0000	5,803	2,547	417	183	36.24	15.9	
	R28	22	0.4220	1.0000	6,111	2,579	417	176	38.16	16.1	
	R29	23	0.4057	1.0000	6,419	2,604	417	169	40.08	16.3	
	R30	24	0.3901	1.0000	6,419	2,504			40.08	15.6	
	R31	25	0.3751	1.0000	6,419	2,408			40.08	15.0	
	R32	26	0.3607	1.0000	6,419	2,315			40.08	14.5	
	R33	27	0.3468	1.0000	6,419	2,226			40.08	13.9	
	R34	28	0.3335	1.0000	6,419	2,141			40.08	13.4	
	R35	29	0.3207	1.0000	6,419	2,058			40.08	12.9	
	R36	30	0.3083	1.0000	6,419	1,979			40.08	12.4	
	R37	31	0.2965	1.0000	6,419	1,903			40.08	11.9	
	R38	32	0.2851	1.0000	6,419	1,830			40.08	11.4	
	R39	33	0.2741	1.0000	6,419	1,759			40.08	11.0	
	R40	34	0.2636	1.0000	6,419	1,692			40.08	10.6	
	R41	35	0.2534	1.0000	6,419	1,627			40.08	10.2	
	R42	36	0.2437	1.0000	6,419	1,564			40.08	9.8	
	R43	37	0.2343	1.0000	6,419	1,504			40.08	9.4	
	R44	38	0.2253	1.0000	6,419	1,446			40.08	9.0	
	R45	39	0.2166	1.0000	6,419	1,390			40.08	8.7	
	R46	40	0.2083	1.0000	6,419	1,337			40.08	8.3	
	R47	41	0.2003	1.0000	6,419	1,286			40.08	8.0	
	R48	42	0.1926	1.0000	6,419	1,236			40.08	7.7	
	R49	43	0.1852	1.0000	6,419	1,189			40.08	7.4	
	R50	44	0.1780	1.0000	6,419	1,143			40.08	7.1	
	R51	45	0.1712	1.0000	6,419	1,099			40.08	6.9	
	R52	46	0.1646	1.0000	6,419	1,057			40.08	6.6	
	R53	47	0.1583	1.0000	6,419	1,016			40.08	6.3	
	R54	48	0.1522	1.0000	6,419	977			40.08	6.1	
	R55	49	0.1463	1.0000	6,419	939			40.08	5.9	
	R56	50	0.1407	1.0000	6,419	903			40.08	5.6	
	R57	51	0.1353	1.0000	6,419	868			40.08	5.4	
	R58	52	0.1301	1.0000	6,419	835			40.08	5.2	
	R59	53	0.1251	1.0000	6,419	803			40.08	5.0	
	R60	54	0.1203	1.0000	6,419	772			40.08	4.8	
	R61	55	0.1157	1.0000	6,419	742			40.08	4.6	
	R62	56	0.1112	1.0000	6,419	714			40.08	4.5	
	R63	57	0.1069	1.0000	6,419	686			40.08	4.3	
	R64	58	0.1028	1.0000	6,419	660			40.08	4.1	
	R65	59	0.0989	1.0000	6,419	635			40.08	4.0	
	R66	60	0.0951	1.0000	6,419	610			40.08	3.8	
	R67	61	0.0914	1.0000	6,419	587			40.08	3.7	
	R68	62	0.0879	1.0000	6,419	564			40.08	3.5	
	R69	63	0.0845	1.0000	6,419	542			40.08	3.4	
	R70	64	0.0813	1.0000	6,419	522			40.08	3.3	
	R71	65	0.0781	1.0000	6,419	502			40.08	3.1	
	R72	66	0.0751	1.0000	6,419	482			40.08	3.0	
	R73	67	0.0722	1.0000	6,419	464			40.08	2.9	
	R74	68	0.0695	1.0000	6,419	446			40.08	2.8	
	R75	69	0.0668	1.0000	6,419	429			40.08	2.7	
	R76	70	0.0642	1.0000	6,419	412			40.08	2.6	
	R77	71	0.0617	1.0000	6,419	396			40.08	2.5	
	R78	72	0.0594	1.0000	6,419	381			40.08	2.4	
	R79	73	0.0571	1.0000	6,419	366			40.08	2.3	
合計					94,331	8,747	5,439	589	193	6,028	
年平均被害軽減期待値					6,419		事業費		5,439		
年便益の総和					94,331		維持管理費		589		
残存価値					193						
築堤・掘削					119		(築堤・掘削の総費用) / (1+0.04) S=50				
護岸等構造物					14		(護岸等構造物の総費用) ÷0.1/ (1+0.04) S=50				
用地費					60		(用地費の総費用) / (1+0.04) S=50				
総便益B					94,524		(年便益+残存価値)				
総費用C					6,028		(事業費+維持管理費)				
B/C					15.7						

注）・毎年の維持管理費は、河川分の事業費の 0.5% とした。



大規模公共事業 再評価の概要

一級河川木賊川広域河川改修事業

令和7年6月16日
岩手県県土整備部 河川課

本日の説明内容

大規模公共事業 再評価調書への記載内容について説明

I 事業概要

II 事業目的

III 事業の進捗状況等

⇒ 大項目評価①

IV 事業に関する社会経済情勢等の変化

⇒ 大項目評価②

V コスト縮減対策及び代替案立案の可能性

VI 総合評価

I 事業概要①

事業内容

○河川名：一級河川 木賊川
一級河川 巢子川、一級河川諸葛川
(盛岡市、滝沢市)

○計画延長：L=6,000m
うち 河川改修 L=4,400m
分水路 L=1,600m
遊水地 A=31.0ha

○整備目標等
治水安全度 1/50

○事業計画期間
当初計画(S61) S61～H13
前回再評価時(R2) S61～R19
今回再評価時(R7) S61～R29

○総事業費
当初計画(S61) C=16,530百万円
前回再評価時(R2) C=13,748百万円
今回再評価時(R7) C=15,955百万円

○事業費の状況
投資事業費(S61～R7) C=6,524百万円
進捗率 F=40.9%

位置図



I 事業概要②

平面図

〈計画の基本方針〉

○平面計画

・木賊川沿川は、家屋等の資産が集中しており、河道拡幅による河川改修は社会的影響が大きい
ため、上流部で「遊水地」、諸葛川への「分水路」、木賊川本川の拡幅を伴わない最小限の「河川改修」
の計画とし、極力家屋移転を少なくした。

○横断計画

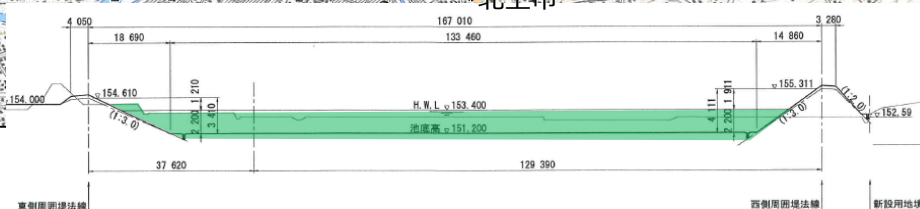
・河川改修計画については沿川沿いに住宅が密集していることから、築堤はせずに掘込河道とする。

凡 例

R6
R7
R8以降



標準横断面図



第二遊水地標準断面図

標準断面図（北稜中学校付近）

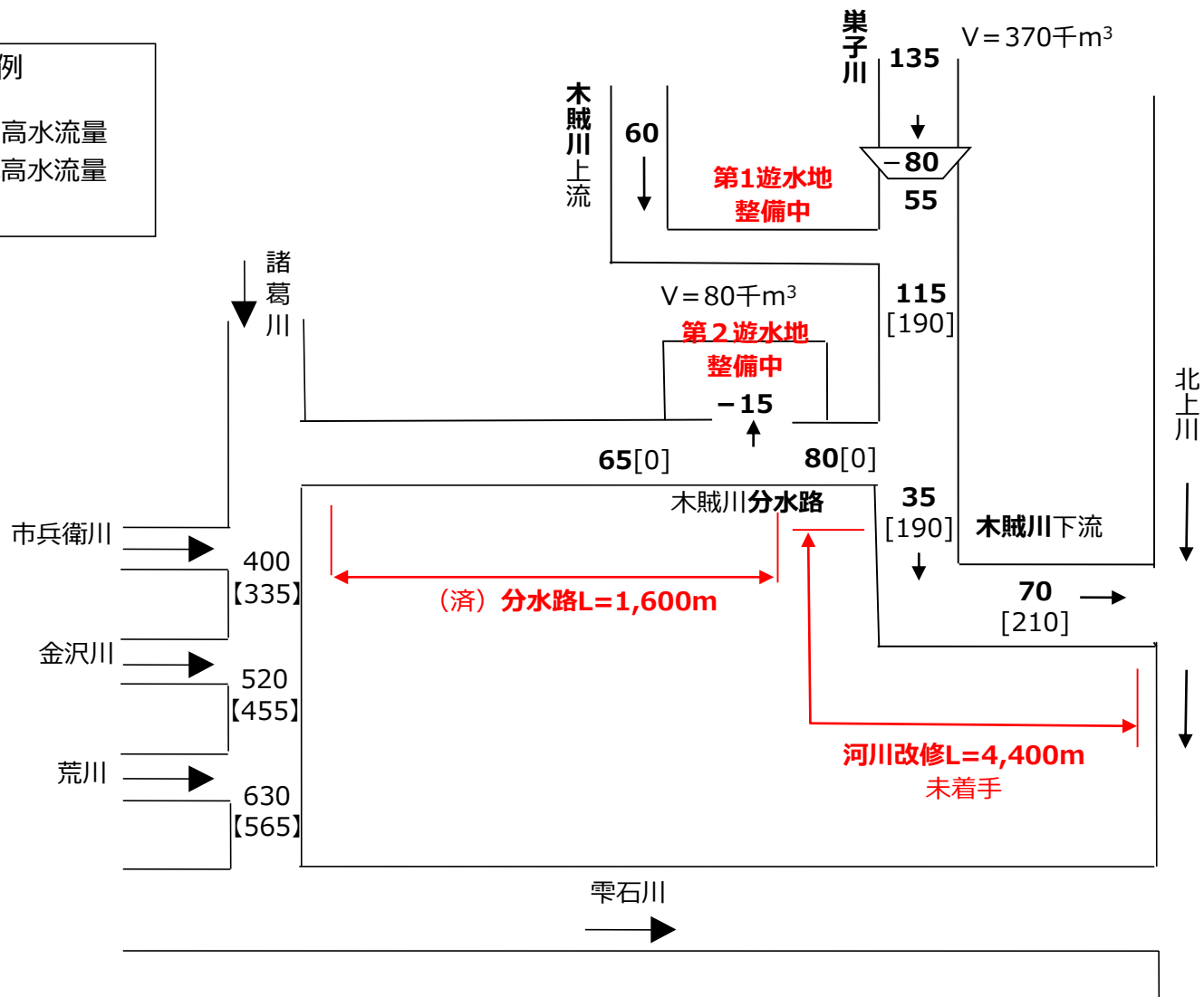
I 事業概要③

流量配分図

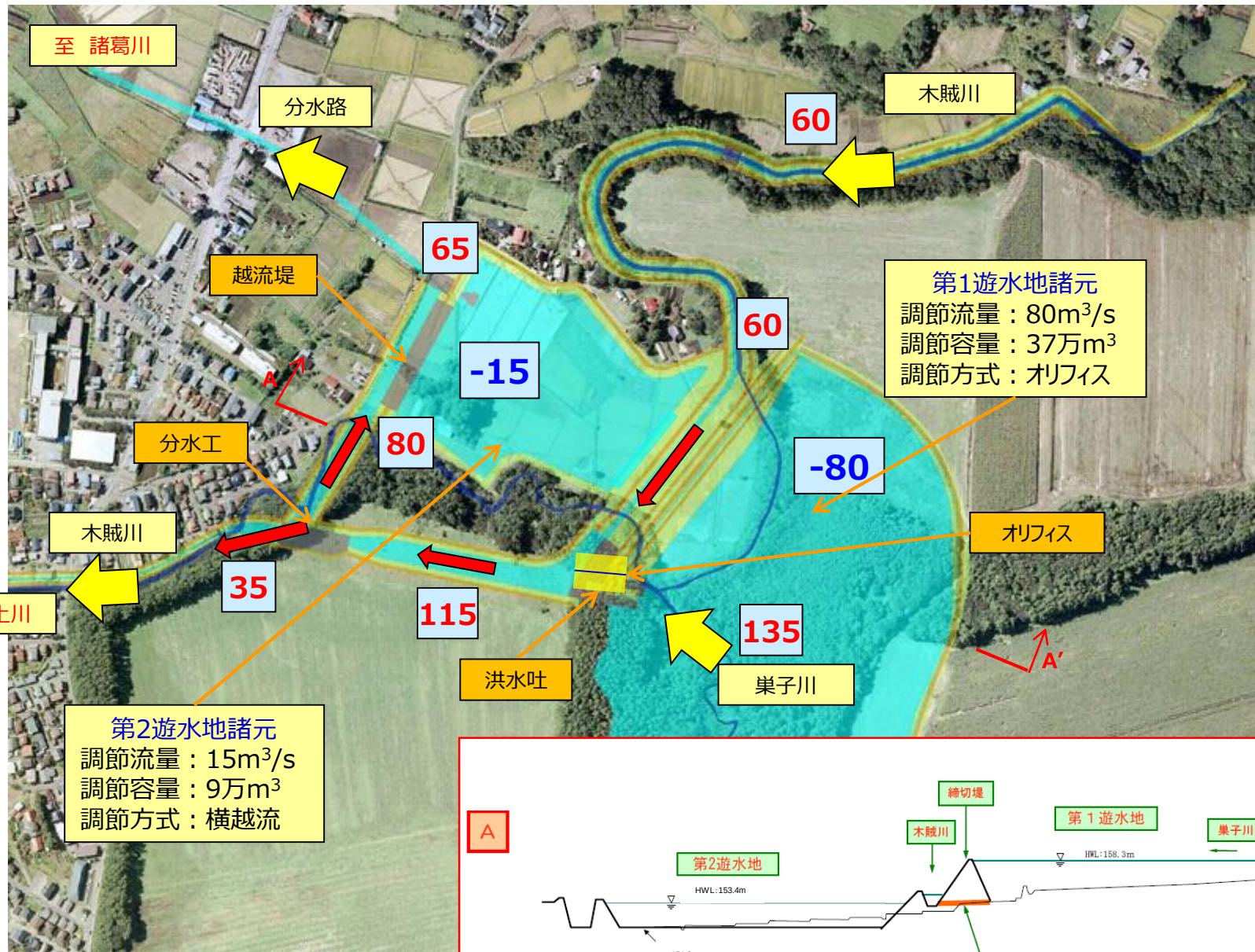
凡 例

裸数字：計画高水流量

【】数字：基本高水流量



I 事業概要④



Ⅱ 事業目的①

○木賊川の現状

木賊川は、もともとは農業用水路であり、断面が狭小で流下能力が不足している。
近年では平成14年、平成17年、平成19年及び平成22年に大規模な浸水被害が発生しており、平成14年7月の台風6号では、床上14戸、床下99戸にのぼる既往最大の被害が発生している。

⇒ 治水安全度の向上が課題である。

【洪水被害の状況 H14.7洪水】



盛岡市上堂付近(平時)



盛岡市上堂付近(洪水時)

Ⅱ 事業目的②

【洪水被害の状況 H14.7 台風6号】



盛岡市青山付近(平時)



盛岡市青山付近(洪水時)

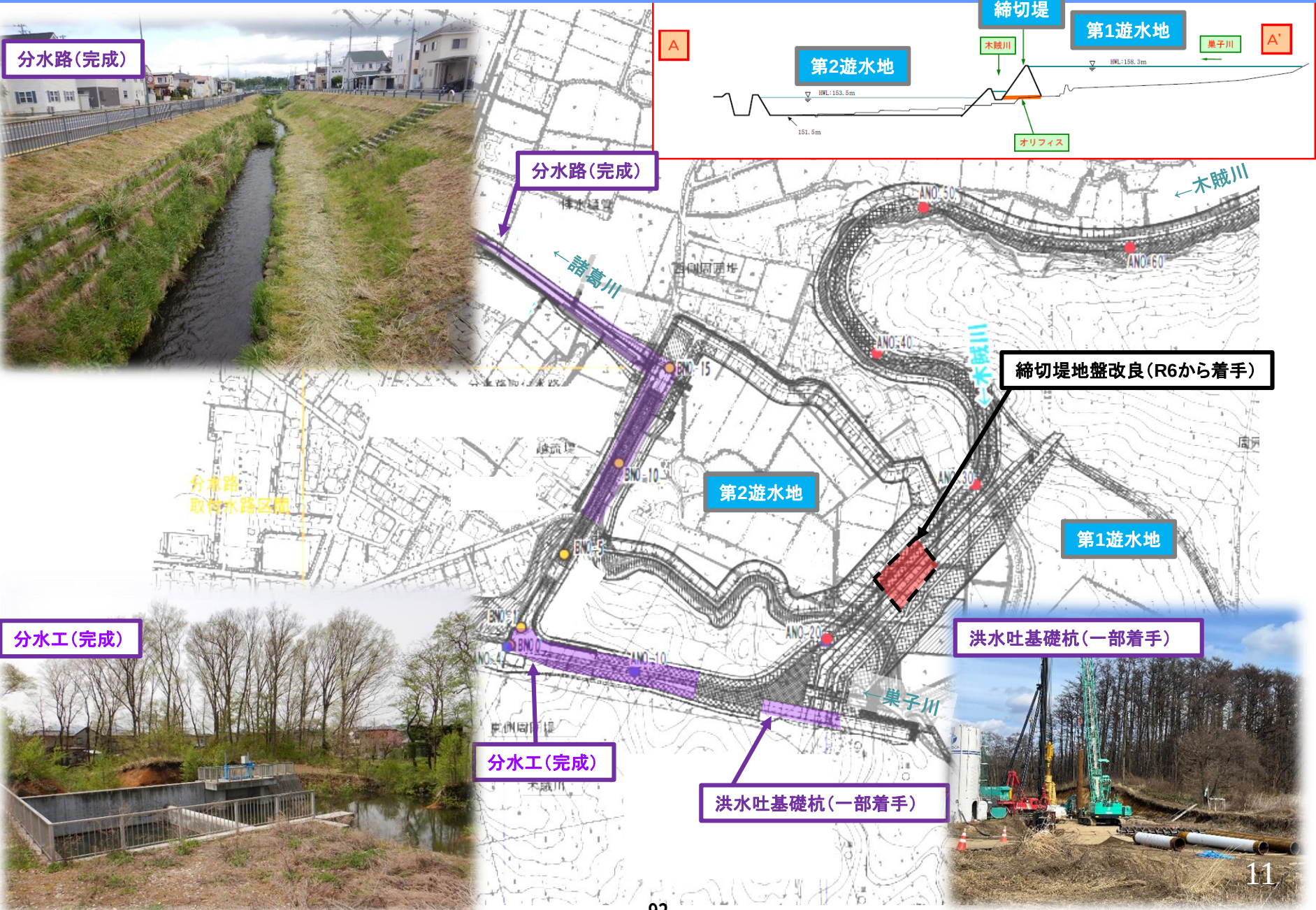
○整備によって得られる効果

概ね50年に1回程度の確率で発生する降雨による洪水被害を防止することが可能

○事業の経緯

昭和61年	国庫補助による事業採択
平成9年	工事全体計画の認可
平成14年7月	大規模な浸水被害が発生
平成15年	公共事業評価(事業期間の変更)
平成16年	河川整備計画の認可
平成16年	大規模事業評価 (事業計画、事業期間、総事業費の変更)
平成22年	大規模事業評価 (事業期間の変更)
平成27年	大規模事業評価 (事業計画の変更)
令和2年	大規模事業評価 (事業期間の変更)
令和7年	大規模事業評価 (事業期間、総事業費の変更)

Ⅲ 事業の進捗状況等③



(2) 事業計画の変更の有無及び内容（中項目評価）

- ・施工区間や主要な工事内容の変更はなし。
- ・事業費：13,748百万円 ⇒ 15,955百万円
 - ・労務費、物価の上昇に伴う事業費の増大
 - ・希少野生動植物保全のための環境調査費の追加
- ・事業完了年度：令和19年度 ⇒ 令和29年度に延伸

項目	変更前	変更後		理由
木賊川河道改修	5,148百万円	6,178百万円	+1,030百万円	労務費、物価上昇による増
第1遊水地	2,416百万円	2,629百万円	+213百万円	労務費、物価上昇による増
第2遊水地	3,106百万円	3,380百万円	+274百万円	労務費、物価上昇による増
分水路	2,406百万円	2,406百万円	0百万円	
諸葛川改修	672百万円	672百万円	0百万円	
環境調査	0百万円	690百万円	+690百万円	追加による増
計	13,748百万円	15,955百万円	+2,207百万円	

・変更内容が施工区間の変更や主要な工事内容の変更ではなく、主に社会的要因（労務費、物価上昇による増）に伴う事業期間及び事業費に関する変更であることから「b」とした。

「事業計画の変更の有無及び内容」の中項目評価	a ・ b ・ c
------------------------	-----------

事業の進捗状況等(大項目評価)

・中項目評価が「b」、「b」であることから、大項目評価を「BB」とした

「事業の進捗状況等」の大項目評価	AA・A・BB・B・C
------------------	-------------

IV 事業に関する社会経済情勢等の変化①

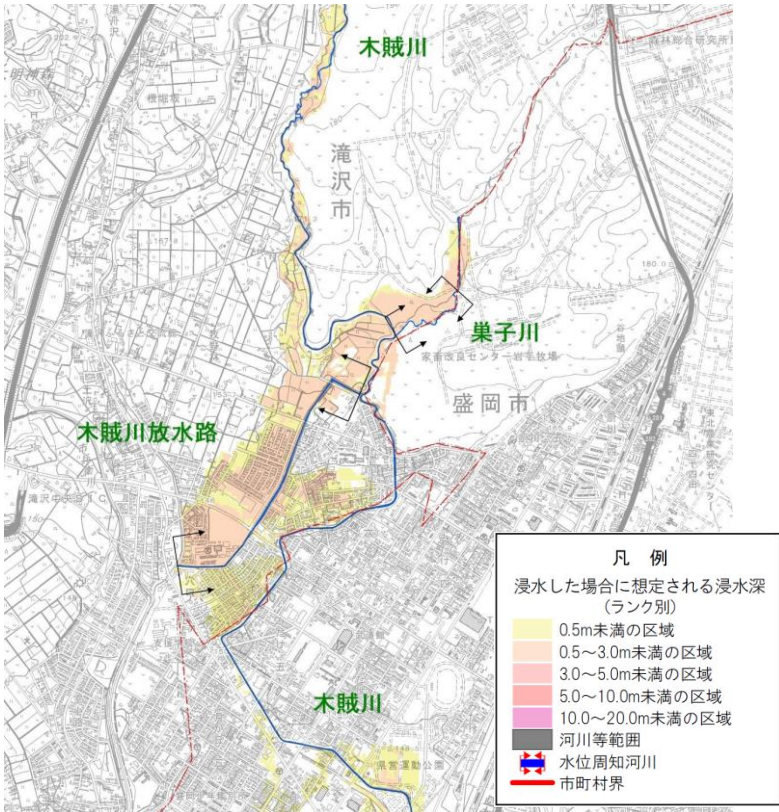
ア 全国の状況	・ 自然災害により尊い人命や家屋等の財産が甚大な被害を受けている。 ・ ハード対策を進めるとともに、ソフト施策の充実により、住民の水害に対する意識啓発に努めていく。
イ 本県内の状況	・ 大規模な浸水被害が県内各地で発生しており、治水事業に対する関心が依然として高い。 ・ 近年洪水被害が発生した河川等について重点的に整備しており、段階的な整備により治水安全度の向上を図ることとしている。 ・ 河川に係るハード対策とソフト施策を一体的に進めている。
ウ 施工地域における状況	・ 当事業区間は、平成14年、17年、19年、22年と洪水被害を受けており、地域住民の治水事業に対する関心も非常に高く、地元自治会や盛岡市、滝沢市などからも早期改修について知事への要望が出されている。 ・ ソフト対策として、県では令和2年度に危機管理型水位計、令和5年度に簡易型監視カメラを整備し、ホームページで公開しているほか、令和4年3月には当該河川の想定最大規模の洪水浸水想定区域図を公表することで、地域住民の円滑な避難を促している。

IV 事業に関する社会経済情勢等の変化②

(1) 事業に関する社会経済情勢（中項目評価）

・本事業のあり方についての議論や見直しの検討なし ⇒「a」とした

「事業計画に関する社会経済情勢」の中項目評価	a	・	b	・	c
------------------------	---	---	---	---	---



IV 事業に関する社会経済情勢等の変化③

事業に関する評価指標の推移(中項目評価)

・各評価指標の評点の合計が、前回評価時の90%以上 ⇒「a」とした

評価指標		配点	事業着手時 評点	前回再評価 時評点(A)	今回再評価 時評点(B)	増減 (B)-(A)	備考
必要性	想定氾濫被害額、防護人口、 公共施設・弱者施設、輸送施設	30点	30点	30点	30点		
重要性	総合計画上の位置付け	5点	5点	5点	5点		
緊急性	過去10年間の水害被害実績、回数 他事業関連の有無、流下能力比	15点	5点	9点	7点	-2点	前回 H22洪水被害
効率性	費用便益比 (B/C)	40点	25点	40点	40点		前回 B/C : 16.5 今回 B/C : 14.9
熟度	地元要望、地元協力	10点	5点	5点	5点		
計		100点	70点	89点	87点	-2点	今回評価/前回評価 98%

◆水害被害実績の減少理由
今回再評価(R7)においては、近年で洪水被害の大きかった平成22年の水害被害実績が対象とならないため、減少したもの。

Ⅳ 事業に関する社会経済情勢等の変化④

費用便益比(B/C)の変化

(単位：百万円)

区 分		事業着手時	前回 再評価時	今回 再評価時
		(基準年：昭和61年度)	(基準年：令和 2 年度)	(基準年：令和 6 年度)
費用項目	①建設費	12,520	14,032	19,796
	②維持管理費	1,466	1,689	2,184
	③総費用 (C) ①+②	13,986	15,721	21,980
便益項目	④被害軽減の便益	37,422	258,313	326,250
	⑤残存価値	656	392	340
	⑥総便益 (B) ④+⑤	38,078	258,705	326,590
費用便益比 (B/C) ⑥/③		2.7	16.5	14.9

○B/C変化の理由

- ・ 費用項目の増は、労務費、物価の上昇に伴う増加と環境調査費の追加によるもの。
- ・ 便益項目の増は、前回再評価以後に改定された治水経済調査マニュアル(案)(R6.4月)に基づき算出した結果によるもの。

【参考】 残事業B/C=15.7

自然環境の状況及び環境配慮事項(中項目評価)

状況	・ 岩手県自然環境保全指針による保全区分:A・C・E ・ 希少野生動植物の有無:あり
対応	・ 環境検討委員会の意見を踏まえ、事業実施における周辺環境への影響は可能な限り低減させることとしている。 ・ 木賊川希少野生動植物検討会を設置し、検討会や現地調査を開催し、保全対策等について有識者から意見いただきながら事業の進捗を図っている。

・自然環境保全指針に沿って積極的に対応 ⇒「a」とした

「自然環境等の状況及び環境配慮事項」の中項目評価	a · b · c
--------------------------	-----------

社会経済情勢等の変化(大項目評価)

・中項目評価が「a」、「a」、「a」であることから、大項目評価を「AA」とした

「社会経済情勢等の変化」の大項目評価	AA · A · B · C
--------------------	----------------

V コスト縮減対策の実施状況及び今後の可能性

(1) コスト縮減対策の実施状況及び今後の可能性

- ・ 遊水地配置設計において、遊水地部の掘削土約20万m³を減らす計画へ見直し、残土運搬処理費用等のコスト縮減を図った。

縮減額 C=600百万円

- ・ 今後行う工事においても、コスト縮減のための取組を推進していく。

(2) 代替案立案の可能性

①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果

- ・ 「河川改修」案のみでは、約130戸の家屋移転が生じることとなり、地域社会へ与える影響が大きく、また、経済性でも劣るため、現計画の「河川改修＋遊水地＋分水路」案が適当であると判断している。

②今後における代替案立案の可能性

- ・ 現時点で予想される社会・自然環境等の大きな変化はないため、代替案立案の可能性はない。

VI 総合評価

着手 年度	完了予定 年度	事業費 (百万円)	投資 事業費 (百万円)	進捗率 (%)	(1)事業進捗状況			(2)社会経済情勢				参考	
						進捗状況	計画変更		社会経済	評価指標	自然環境	評点	B/C
S 61	R 29	15,955	6,524	40.9	BB	b	b	AA	a	a	a	87	14.9

○「事業の進捗状況等」 大項目評価: BB

・事業期間や事業費を変更するものの、**施工区間**や**主要な工事内容**に変更はないことから、今後も事業を推進し、治水安全度の向上を図っていく。

○「社会経済情勢等の変化」 大項目評価: AA

・社会経済情勢、評価指標、自然環境等の状況に**大きな変化は見られない**。



以上のことから、総合評価を「事業継続」とした。

大規模公共事業再評価調書の概要

(一級河川^{きたかみ}北上川(上流) 広域河川改修事業)

担当部課：県土整備部河川課

1 事業概要 (河川名：一級河川北上川水系北上川、所在市町村：岩手町)

- 事業目的：盛岡北圏域の北上川本川は、岩手町御堂に源を発し、上流部で北上高地から発する丹藤川、奥羽山脈から発する松川、赤川等の支川を合わせて南に縦貫し、四十四田ダムへ流入する幹川流路延長 31.4 kmの一級河川である。北上川沼宮内地区では、断面が狭小で流下能力が不足しているため、平成 22 年 7 月の豪雨では家屋 29 戸の浸水被害が発生し、国道 4 号も冠水により通行止めになる等甚大な被害が発生している。このため、河積の拡大を図るとともに、沿川の状況や土地利用等を考慮し、「遊水地＋河川改修」により、洪水被害を軽減することを目的としている。
- 事業内容：計画延長 L=4,600m、築堤 V=59,000 m³ 掘削 V=34,000 m³、築堤 A=27,700 m²
- 事業期間：H23 年度～R18 年度（前回評価時：H23 年度～R11 年度）
- 総事業費：10,991 百万円（令和 7 年度までの投資額 6,863.8 百万円、進捗率 62.4%）

2 事業の進捗状況等

- 下流の五日市橋から新町橋下流までの整備が完了し、一定の効果が発現しているほか、現在は田頭橋下流の整備に着手しており、早期の整備効果発現を目指しているところである。
- 当事業区間の治水安全度は 1/20（20 年に 1 度程度の確率で発生すると想定されている降雨に対応）として、河道を整備することとしている。

3 社会経済情勢等の変化

- 本県では、令和 6 年 8 月の米内川（盛岡市）、令和 4 年 8 月の馬淵川（一戸町）や、令和元年 10 月の小屋畑川・沢川（久慈市）、平成 28 年 8 月の小本川（岩泉町）、平成 25 年 7 月の砂鉄川（一関市）、8 月の岩崎川（矢巾町）及び雫石川（雫石町）など、近年大規模な浸水被害が各地で発生しており、治水対策事業に対する関心は依然として高く、効率的・効果的な事業の推進を図る必要がある。
- 当該区間は、平成 22 年 7 月に甚大な浸水被害を受けており、地域住民の治水事業に対する関心も非常に高く、地元自治会や岩手町からも早期改修について強い要望がある。
- ソフト対策として、平成 30 年度に危機管理型水位計、令和 2 年度に簡易型監視カメラを整備し、ホームページで公開しているほか、平成 30 年 9 月に北上川を水位周知河川に指定し、一定の水位を超えた際は水防管理者に河川水位を周知し、必要に応じて報道機関の協力を求めて一般に周知するなどの対策を講じている。また、平成 30 年 9 月に当該河川の想定最大規模の浸水想定区域をホームページで公開し、地域住民の円滑な避難を促している。

4 コスト縮減対策及び代替案

- 川原木地区の河道縦断計画の見直しに伴い、岩盤掘削の削減と、現況護岸活用による護岸工削減によってコスト縮減の見込みがある（縮減見込額：C=約 200 百万円）。
- 代替案の「放水路」案や「ダム」案は、流域の地形条件や土地利用上から困難であり、現計画の「河川改修＋遊水地」による治水対策が妥当と判断している。

5 総合評価

- 北上川（上流）沿川には、家屋や資産が集中しており洪水氾濫が起きた際には甚大な被害が発生することから、引き続き遊水地、河川改修を進め、治水対策の着実な推進を図っていく必要がある。

- 「事業の進捗状況等」については、事業期間や事業費を変更するものの、施工区間や主要な工事内容に変更はないことから、今後も事業を推進し、治水安全度の向上を図っていく。
- 「社会経済情勢等の変化」については、近年も県内各地で大規模な浸水被害が発生しており、治水事業に対する関心度は依然として高いこと。また、「評価指標」、「自然環境等の状況」に関しては、特に大きな変化は見られないところである。
- 以上のことから、「事業継続」と評価したものである。

大規模公共事業 再評価調査

令和 7 年 5 月 29 日作成

事業名	広域河川改修事業			補助	担当部課名		県土整備部河川課																																					
路線名等	いつきゅうかせん きたかみがわすいけい きたかみがわ じょうりゅう 一級河川 北上川 水系 北上川 (上流)			地区名	ぬまくない 沼宮内		市町村	いわてまち 岩手町																																				
事業概要	〔事業根拠法令等：河川法第 9 条〕																																											
	(1) 事業目的 ○解決すべき課題 盛岡北圏域の北上川本川は、岩手町御堂に源を発し、上流部で北上高地から発する丹藤川、奥羽山脈から発する松川、赤川等の支川を合わせて南に縦貫し、四十四田ダムへ流入する幹川流路延長31.4kmの一級河川である。 北上川沼宮内地区では、断面が狭小で流下能力が不足しているため、平成22年7月の豪雨では家屋29戸の浸水被害が発生し、国道4号も冠水により通行止めになる等甚大な被害が発生した。このため、地元から早期改修を要望されている。 ○整備によって得られる効果 河川改修工事を行うことにより、平成22年7月に発生した洪水被害と同等規模の降雨に対応することが可能となる。																																											
	(2) 事業内容 計画延長 L=4,600m、築堤 V=59,000m ³ 、掘削 V=34,000m ³ 、護岸 A=27,700m ²																																											
	(3) 整備目標等 治水安全度：1/20 〔治水基準点：事業起点部〕																																											
	事業着手	H23	事業計画期	H23	～	R18 今回再評価時全体計画期間 R11 前回再評価時全体計画期間 R11 当初全体計画期間	用地着手	H23	工事着手	H23																																		
事業費	当初計画 総事業費 (H22) (うち用地費)	前回 再評価時 総事業費 (R2) (うち用地費)	今回 再評価時 総事業費 (R7) A (うち用地費)	事業費の状況 〔百万円〕																																								
				H23～R5 B	R6 C	R7 D	投資事業費 E=B+C+D	財 源	進捗率 F=E/A																																			
								国庫 県																																				
	4,500.0 (287.0)	8,300.0 (373.0)	10,990.9 (1071.1)	6,218.8 (460.6)	119.0 (0.0)	526.0 (39.3)	6,863.8 (499.9)	3,431.9 3,431.9	62.4%																																			
事業の進捗状況等	(1) 事業の進捗状況 ア 整備効果の発現状況 ・下流の五日市橋から新町橋下流までの整備が完了し、一定の効果が発現しているほか、現在は田頭橋下流の整備に着手しており、早期の整備効果発現を目指しているところである。 イ 未着工及び工事遅延等の理由並びに解決の見通し ①理由：事業期間の延伸は、県内に多発する洪水被害への対応等のため、他河川との予算調整配分が必要となり、事業期間の見直しを行ったもの。 ②解決の見通し（難易度）：今後も予算確保に努めるとともに、工事実施に当たってはコスト縮減などに取り組んでいく。 ③解決までの対応及び期間：確実な工事進捗を図るとともに、リアルタイムの水位情報の公開、ホットラインによる市町村への水位情報の伝達のほか、想定しうる最大規模の洪水浸水想定区域図を公表するなど、ソフト施策による取組を図っている。 ○中項目評価は、県内に多発する洪水被害への対応など、本事業の進捗を阻害する要因はあるものの、一定の期間等を要することにより解決できる見込みであり、竣工の見通しがあることから「b」とした。																																											
	中項目評価 a . b . c																																											
	(2) 事業計画の変更の有無及び内容 ①事業期間の延伸 (H23～R11→H23～R18) ②事業費 (8,300百万円→10,991百万円)																																											
	<table><tr><th>変更前 (R2)</th><th colspan="3">変更後 (R7)</th><th>備考</th></tr><tr><td>横断施設 (IGR)</td><td>1,885百万円</td><td>2,496百万円</td><td>+611百万円</td><td>労務費、物価上昇による増</td></tr><tr><td>橋梁工</td><td>1,763百万円</td><td>2,335百万円</td><td>+572百万円</td><td>労務費、物価上昇による増</td></tr><tr><td>護岸工</td><td>1,569百万円</td><td>2,078百万円</td><td>+509百万円</td><td>労務費、物価上昇による増</td></tr><tr><td>土工</td><td>1,241百万円</td><td>1,644百万円</td><td>+403百万円</td><td>労務費、物価上昇による増</td></tr><tr><td>その他工種</td><td>1,841百万円</td><td>2,438百万円</td><td>403百万円</td><td>労務費、物価上昇による増</td></tr><tr><td>合計</td><td>8,300百万円</td><td>10,991百万円</td><td>+2,691百万円</td><td></td></tr></table>									変更前 (R2)	変更後 (R7)			備考	横断施設 (IGR)	1,885百万円	2,496百万円	+611百万円	労務費、物価上昇による増	橋梁工	1,763百万円	2,335百万円	+572百万円	労務費、物価上昇による増	護岸工	1,569百万円	2,078百万円	+509百万円	労務費、物価上昇による増	土工	1,241百万円	1,644百万円	+403百万円	労務費、物価上昇による増	その他工種	1,841百万円	2,438百万円	403百万円	労務費、物価上昇による増	合計	8,300百万円	10,991百万円	+2,691百万円	
	変更前 (R2)	変更後 (R7)			備考																																							
横断施設 (IGR)	1,885百万円	2,496百万円	+611百万円	労務費、物価上昇による増																																								
橋梁工	1,763百万円	2,335百万円	+572百万円	労務費、物価上昇による増																																								
護岸工	1,569百万円	2,078百万円	+509百万円	労務費、物価上昇による増																																								
土工	1,241百万円	1,644百万円	+403百万円	労務費、物価上昇による増																																								
その他工種	1,841百万円	2,438百万円	403百万円	労務費、物価上昇による増																																								
合計	8,300百万円	10,991百万円	+2,691百万円																																									
○中項目評価は、変更内容が施工区間の変更や主要な工事内容の変更ではなく、主に社会的要因（労務費、物価上昇による増）に伴う事業期間及び事業費に関する変更であることから「b」とした。																																												
中項目評価 a . b . c																																												
○中項目評価が「b」、「b」であることから、大項目は「BB」とした。																																												
評 価				AA . A BB . B . C																																								

社会 経 済 情 勢 等 の 変 化	(1) 事業に関する社会経済情勢						
	ア 全国の状況						
	・西日本を中心に被害をもたらした平成30年6、7月の集中豪雨や岩手県を含む東日本、北日本に被害をもたらした令和元年10月の台風第19号、九州地方に大きな被害をもたらした令和2年7月豪雨、九州、中国地方を中心に被害をもたらした令和3年7月、8月の豪雨、東北、北陸を中心に被害をもたらした令和4年8月3日からの豪雨、九州南部を中心に被害をもたらした令和4年9月の台風第14号、東海地方を中心に被害をもたらした台風第15号、令和6年7月に山形県および秋田県に被害をもたらした前線の影響による大雨など、毎年、自然災害により尊い人命や家屋等の財産が甚大な被害を受けていることから、今後も着実にハード整備を進めるとともに、安全な避難等のための洪水情報等の提供の充実などソフト施策の充実を図り、災害時に避難が行われるよう住民の意識啓発に努めていく必要がある。						
	イ 本県内の状況						
	・近年、本県では、令和6年8月の米内川（盛岡市）、令和4年8月の馬淵川（一戸町）や、令和元年10月の小屋畑川・沢川（久慈市）、平成28年8月の小本川（岩泉町）、平成25年7月の砂鉄川（一関市）、8月の岩崎川（矢巾町）及び雫石川（雫石町）など、各地で大規模な浸水被害が発生しており、治水事業に対する関心度は依然として高く、効率的・効果的な事業の進捗に努める必要がある。 ・県では、近年洪水被害が発生した河川や背後地に資産の集中している河川について重点的に整備を進めることとしており、過去の被災流量相当の洪水被害から地域を守ることを当面の目標として、段階的な整備により治水安全度の向上を図ることとしている。 ・河川改修などのハード整備を進めているとともに、住民の迅速かつ円滑な避難を促すため、ソフト施策として水位計や河川監視カメラを設置のうえ、ホームページやメール等により洪水情報を提供しているほか、洪水浸水想定区域図の作成、市町村への洪水ハザードマップの作成支援を行っている。						
	ウ 施工地域における状況						
	・当事業区間は、平成22年7月に甚大な浸水被害を受けており、地域住民の治水事業に対する関心も非常に高く、地元自治会や岩手町からも早期改修について知事への要望が出されている。ソフト対策として、県では平成30年度に危機管理型水位計、令和2年度に簡易型監視カメラを整備し、ホームページで公開しているほか、平成30年9月に北上川を水位周知河川に指定し、一定の水位を超えた際は水防管理者に河川水位を周知し、必要に応じて報道機関の協力を求めて一般に周知するなどの対策を講じている。また、平成30年9月に当該河川の想定最大規模の浸水想定区域をホームページで公開し、地域住民の円滑な避難を促している。						
	○中項目評価は、全国又は本県において、政策や事業のあり方についての議論や見直しの検討がないため「a」とした。						
	中項目評価 a . b . c						
	(2) 事業に関する評価指標の推移						
評価指標		配点	事業着手時 (H22) 評点	前回再評価時 (R2) 評点 (A)	今回再評価時 (R7) 評点 (B)	増減 (B)-(A)	備 考
必要性	想定氾濫被害額	15	15 (33億円)	15 (54億円)	15 (57億円)	0	
	防護人口	5	4 (822人)	4 (601人)	4 (569人)	0	
	公共施設、弱者施設	5	5 (あり)	5 (あり)	5 (あり)	0	岩手町勤労青少年ホーム
	輸送施設	5	5 (あり)	5 (あり)	5 (あり)	0	国道4号、I G R
重要性	総合計画上の位置付け	5	5 (あり)	5 (あり)	5 (あり)	0	指標：河川整備率
緊急性	過去10年間の水害被害実績	5	5 (2674百万円)	5 (1021百万円)	2 (51百万円)	-3	※ 1
	過去10年間の被災回数	3	2 (2回)	1 (1回)	3 (4回)	2	※ 2 H29、R2、R4、R6
	他事業連携の有無	5	5 (あり)	5 (あり)	5 (あり)	0	横沢川河川等災害関連事業
	流下能力比	2	2 (50%未満)	2 (50%未満)	2 (50%未満)	0	25%
効率性	費用便益比 (B/C)	40	20 (1.7)	20 (1.4)	20 (1.1)	0	
熟度	地元の要望	5	5 (あり)	5 (あり)	5 (あり)	0	
	地元の協力	5	5 (あり)	5 (あり)	5 (あり)	0	
計		100	78	77	76	-1	(再々評価時/再評価時) 99%
※ 1：H22洪水被害が対象から外れたことによるもの。 ※ 2：水害統計調査に基づく実績によるもの。							

社会
経済
情勢
等
の
変
化

○ 費用便益分析

費用便益分析手法:治水経済調査マニュアル(案)令和6年4月 国土交通省 水管理・国土保全局

(単位:百万円)

区 分		事業着手時 (基準年: H22)	前回再評価時 (基準年: R2)	今回再評価時 (基準年: R7)	備考
費用項目	建設費	3537.0	8863.0	13592.0	※1
	維持管理費	405.0	957.0	1397.4	※1
総費用(C)		3,942.0	9,820.0	14,989.4	
便益項目	被害額減の便益	6,811.0	13,457.0	16,522.6	※2
	残存価値	21.0	60.0	64.0	
総便益(B)		6,832.0	13,517.0	16,586.6	
費用便益比(B/C)		1.7	1.4	1.1	

※1:「建設費」「維持管理費」の増は、全体事業費の増と基準年の変更による現在価値化に伴うもの。
※2:「被害軽減の便益」の増は、治水経済調査マニュアル(案)(令和6年4月)に基づき算出した結果によるもの。

○ 関連する開発プロジェクト等の状況

・横沢川河川等災害関連事業(岩手町、平成22年度～平成24年度)

・北上川災害対策等緊急事業(岩手県、平成22年度)

○中項目評価は、各評価指標の評点の合計が前回評価時の90%以上であることから「a」とした。

中項目評価

a

.

b

.

c

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

・岩手県自然環境保全指針による保全区分

D

・希少野生動植物生息の有無

なし

・埋蔵文化財包蔵地の有無

なし

・その他特記事項

イ 環境配慮事項及び環境等への配慮に要する事業費

・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況

付議している

①主な助言内容

・汚濁水を川に流さないように措置すること。

・人工物を極力減らし、河川の生息空間の確保に努めること。

・遊水地を生物保全場所として利用できないか検討すること。

②主な対応状況

・濁水防止のため必要に応じて沈砂池を設けながら排水を行う。

・護岸を植生可能な護岸ブロックにより施工することにより、周辺景観との調和に配慮している。

・遊水地の利用については岩手町と協議をし検討を進めている。

○中項目評価は、自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全区分に沿って積極的な対応をしていることから「a」とした。

中項目評価

a

.

b

.

c

○中項目評価が「a」「a」「a」であることから、大項目評価は「AA」とした。

評 価

AA

.

A

.

B

.

C

106

コスト削減対策及び代替案立案の可能性

(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性

・川原木地区の河道縦断計画の見直しに伴い、岩盤掘削の削減と、現況護岸活用による護岸工削減によってコスト削減の見込みがある。

削減見込額 C=約200百万円

(2) 代替案立案の可能性

①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果

・代替案として考えられる放水路やダムによる治水手法は、流域の地形条件や土地利用上から困難であり、「河川改修+遊水地」による治水対策が妥当と判断している。

②今後における代替案立案の可能性

・現時点で予想される社会・自然環境等の大きな変化はないため、代替案立案の可能性はない。

(1) 総合評価

総合評価
(対応方針案)

事業継続

要 検 討

中 止

(事業継続、見直し継続、休止、中止)

(事業名) 広域河川改修事業 北上川 (上流)

着手 年度	完了予 定年度	事業費 (百万円)	投資 事業費 (百万円)	進捗率 (%)		(1) 事業進捗状況			(2) 社会経済情勢			参考	
						進捗状況	計画変更		社会経済	評価指標	自然環境	評点	B/C
H23	R18	10,991	6,864	62.4%	BB	b	b	AA	a	a	a	76	1.1

○総合評価に係るコメント

・北上川 (上流) 沿川は、家屋や資産が集中しており洪水氾濫が起きた際には甚大な被害が発生することから、引き続き流下能力が不足している区間の改修を実施し、治水対策の着実な推進を図っていく必要がある。

・「事業の進捗状況等」については、事業期間や事業費を変更するものの、施工区間や主要な工事内容に変更はないことから、今後も事業を推進し、治水安全度の向上を図っていく。

・「社会経済情勢等の変化」については、近年も県内各地で大規模な浸水被害が発生しており、治水事業に対する関心度は依然として高いこと、また、「評価指標」、「自然環境等の状況」に関しては、特に大きな変化は見られないこと。

・以上のことから、「事業継続」と評価したものである。

総合評価

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

大規模公共事業 再評価調書 (付表)

事業名	広域河川改修事業	補助・単独	担当部課名	県土整備部河川課	
路線名等	一級河川北上川水系 ^{きた かみ かわ しょうりゅう} 北上川(上流)	地区名	ぬまぐない 沼宮内	市町村	岩手町

1 現在までの事業の経緯等

平成22年度 国庫補助による事業採択

平成23年度 広域河川改修事業着手

平成24年度 一級河川北上川水系河川整備基本方針策定(H24.11.14変更)

平成27年度 一級河川北上川水系(盛岡北圏内)河川整備基本方針策定(H27.9.29)

令和2年度 大規模公共事業再評価

2 事業を取り巻く社会経済情勢等の変化の具体的説明

近年の社会経済情勢から、国、県予算ともに治水対策事業費は縮減傾向にあるが、北上川では過去に上流部未改修区間で浸水被害が発生していることから、地元から事業の推進についての強い要望が出されている。

(近年の浸水被害)

- ・平成22年7月17日 床下浸水14戸、床上浸水15戸
- ・令和4年7月26日～令和4年8月7日 床下浸水1戸

(要望の状況) ※期日は近年のものを記載している。

- ・岩手町(令和5年6月22日、令和6年6月17日)

3 住民意見の状況とこれに対する対応

本計画については、事業着手に伴い開催した次の懇談会の場で説明を行っており、それに対して住民より意見をいただいている。

◇北上川川づくり懇談会 1回(平成23年2月10日)

<主な質問内容>

1. 河床を掘削するようだが自然環境などへの影響について配慮してほしい。

[回答]

1. 安全と環境をうまく合わせながら考えていく。

◇北上川川づくり懇談会 2回(平成23年5月20日)

<主な質問内容>

1. 横沢川と北上川の合流部は過去にも溢れそうになったことが何度もあり、改善して欲しい。また田頭橋川に斜になっているので溢れやすい。改善して欲しい。

[回答]

1. 今回工事でどちらも改善する予定である。

懇談会では、その他に維持管理等の要望もあったが、北上川の改修事業計画に対する反対意見等は無かった。

4 費用便益分析の詳細（算定方法、算出根拠等）

算出方法：別添

算出根拠：治水経済調査マニュアル（案）令和6年4月 国土交通省 水管理・国土保全局

（単位：百万円）

区 分		事業着手時 (基準年：H22)	前回再評価時 (基準年：R2)	今回再評価時 (基準年：R7)	残事業B/C
費用項目	①建設費	3537.0	8863.0	13592.0	3,562.6
	②維持管理費	405.0	957.0	1397.4	396.5
	③総費用 (C) ①+②	3,942.0	9,820.0	14,989.4	3,959.1
便益項目	④被害軽減の便益	6,811.0	13,457.0	16,522.6	4,685.8
	⑤残存価値	21.0	60.0	64.0	24.0
	⑥総便益 (B) ④+⑤	6,832.0	13,517.0	16,586.6	4,709.8
費用便益比 (B/C) ⑥/③		1.7	1.4	1.1	1.2

①建設費：施設整備に要する費用（河川改修費）を整備期間、評価期間で現在価値化して合計したものである。

基準年以前の費用は、物価変動を考慮した実質価値に換算した後に現在価値化している。

②維持管理費：治水経済調査マニュアル（案）より、事業費の0.5%を維持管理費とする。

④被害軽減の便益：施設整備によって想定される年平均被害軽減額を現在価値化して合計したものである。

⑤残存価値：評価対象期間終了時点における施設等の価値。構造物は価値を10%とし、構造物以外（堤防・用地など）は減価しないものとしている。

5 環境対策の具体的内容

希少野生動植物委員会（平成30年5月10日、令和元年6月28日）

意見内容

○水質汚濁防止等の対策

○希少種を確認した場合の移植、保護

○魚類等の生息環境の復元

6 代替案（見直し案）の検討内容

①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果

・代替案として考えられる放水路やダムによる治水手法は、流域の地形条件や土地利用上から困難であり、現計画の「河川改修+遊水地」による治水対策が妥当と判断している。

②今後における代替案立案の可能性

・現時点で予想される社会・自然環境等の大きな変化はないため、代替案立案の可能性はない。

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

費用対効果計算書 全体事業 (令和7年度評価)

水系名：北上川水系

河川名：北上川 (16第4級連続～尾島郡境)

単位：百万円

期間	年度	便 益		費 用					
		年平均被害軽減期待額b	年便益	建設費				維持管理費	
				費用	現在価値	治水事業費総額	テフルーテ換算	費用	現在価値
整備期間 (S)	-15	H22	0	0	0.0	0.0	78.1	0.0	0.0
	-14	H23	0	0	857.0	1,855.0	94.8	80.0	0.0
	-13	H24	51	84	396.4	827.7	94.5	79.7	4.3
	-12	H25	74	119	551.1	1,083.5	96.5	81.4	6.3
	-11	H26	107	164	548.9	1,004.3	99.7	84.1	9.0
	-10	H27	139	206	349.6	613.2	100.0	84.4	11.8
	-9	H28	160	227	966.8	1,620.9	100.6	84.9	13.5
	-8	H29	217	297	562.4	886.4	102.9	86.8	18.3
	-7	H30	250	329	120.9	177.1	106.5	89.9	21.2
	-6	R1	257	326	573.0	788.9	108.9	91.9	21.8
	-5	R2	291	354	295.5	390.9	109.0	92.0	24.6
	-4	R3	309	361	150.7	184.8	113.0	95.4	26.1
	-3	R4	318	357	303.2	341.0	118.5	100.0	26.9
	-2	R5	335	363	132.4	143.2	118.5	100.0	28.4
	-1	R6	343	357	108.2	112.5	118.5	100.0	29.0
	0	R7	350	350	481.7	481.7	118.5	100.0	29.6
	1	R8	378	364	386.1	371.2		32.0	30.8
	2	R9	401	371	394.8	365.1		33.9	31.4
	3	R10	424	377	392.6	349.0		35.9	31.9
	4	R11	448	383	379.0	323.9		37.9	32.4
	5	R12	470	386	382.5	314.4		39.8	32.7
	6	R13	493	389	369.5	292.0		41.7	32.9
	7	R14	514	391	370.5	281.6		43.5	33.1
	8	R15	536	392	331.6	242.3		45.4	33.1
	9	R16	556	391	327.7	230.3		47.0	33.0
	10	R17	575	389	234.8	158.6		48.7	32.9
	11	R18	589	383	234.8	152.5		49.8	32.4
	12	R19	603	377				51.0	31.9
	13	R20	603	362				51.0	30.6
	14	R21	603	348				51.0	29.5
	15	R22	603	335				51.0	28.3
	16	R23	603	322				51.0	27.2
	17	R24	603	310				51.0	26.2
	18	R25	603	298				51.0	25.2
	19	R26	603	286				51.0	24.2
	20	R27	603	275				51.0	23.3
	21	R28	603	265				51.0	22.4
	22	R29	603	254				51.0	21.5
	23	R30	603	245				51.0	20.7
	24	R31	603	235				51.0	19.9
	25	R32	603	226				51.0	19.1
	26	R33	603	218				51.0	18.4
	27	R34	603	209				51.0	17.7
	28	R35	603	201				51.0	17.0
	29	R36	603	193				51.0	16.4
	30	R37	603	186				51.0	15.7
	31	R38	603	179				51.0	15.1
	32	R39	603	172				51.0	14.5
	33	R40	603	165				51.0	14.0
	34	R41	603	159				51.0	13.4
	35	R42	603	153				51.0	12.9
	36	R43	603	147				51.0	12.4
	37	R44	603	141				51.0	12.0
	38	R45	603	136				51.0	11.5
	39	R46	603	131				51.0	11.0
	40	R47	603	126				51.0	10.6
	41	R48	603	121				51.0	10.2
	42	R49	603	116				51.0	9.8
	43	R50	603	112				51.0	9.4
	44	R51	603	107				51.0	9.1
	45	R52	603	103				51.0	8.7
	46	R53	603	99				51.0	8.4
	47	R54	603	95				51.0	8.1
	48	R55	603	92				51.0	7.8
	49	R56	603	88				51.0	7.5
	50	R57	603	85				51.0	7.2
	51	R58	603	82				51.0	6.9
	52	R59	603	78				51.0	6.6
	53	R60	603	75				51.0	6.4
	54	R61	603	73				51.0	6.1
	55	R62	603	70				51.0	5.9
	56	R63	603	67				51.0	5.7
	57	R64	603	65				51.0	5.5
	58	R65	603	62				51.0	5.2
	59	R66	603	60				51.0	5.0
	60	R67	603	57				51.0	4.8
	61	R68	603	55				51.0	4.7
合計		38,735	16,523	10,202	13,592			1,397	

年平均被害軽減期待額b 603 百万円

便益 16,523 百万円 = (R)

残存価値 64 百万円 = (S)

築堤・掘削 23 百万円 = (築堤・掘削の総費用) / (1+0.04)^{s-50} = 454 / (1+0.04)⁷⁶ s: 整備期間護岸等構造物 22 百万円 = (護岸等構造物の総費用) × 0.1 / (1+0.04)^{s-50} = 4422 × 0.1 / (1+0.04)⁷⁶ s: 整備期間用地費 19 百万円 = (用地費の総費用) / (1+0.04)^{s-50} = 382 / (1+0.04)⁷⁶ s: 整備期間

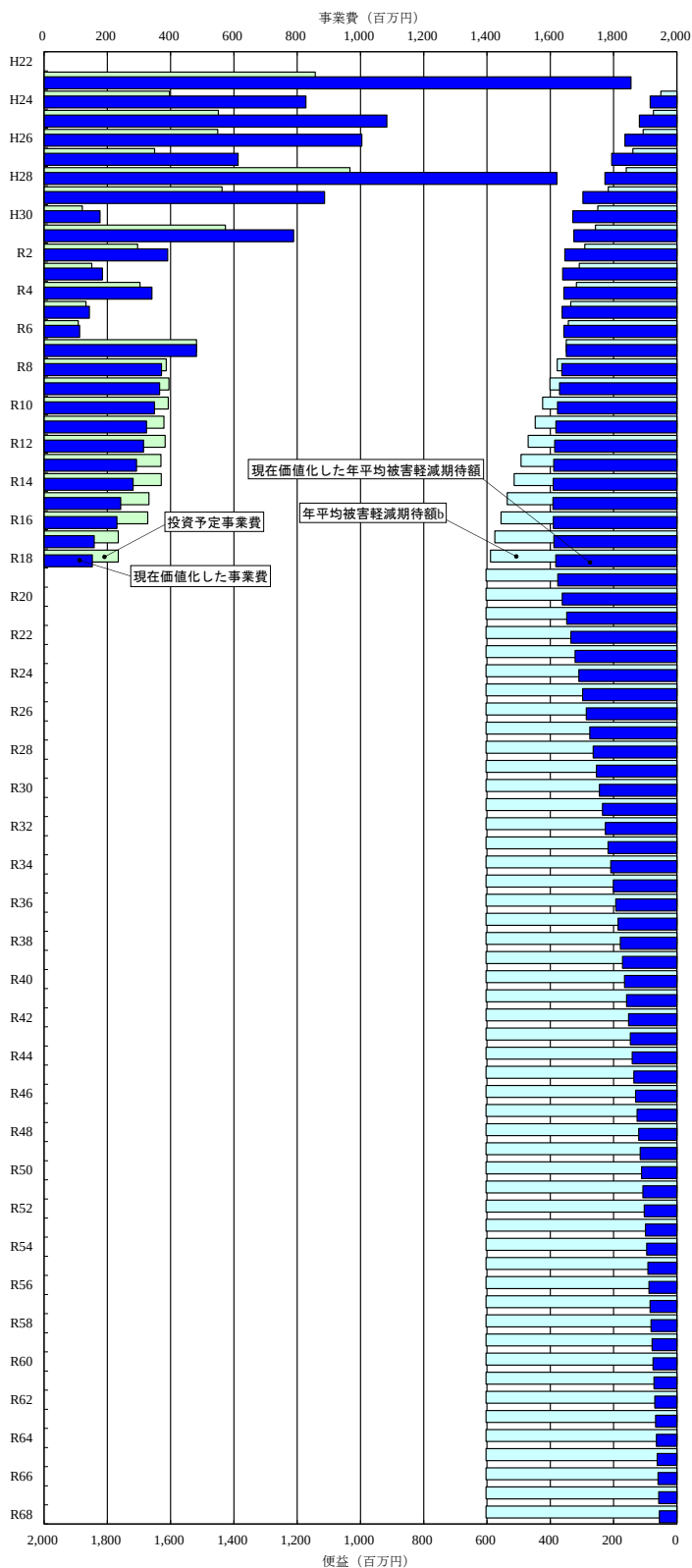
総便益B 16,587 百万円 = (T) = (R) + (S)

建設費 13,592 百万円 = (O)

維持管理費 1,397 百万円 = (P)

総事業費C 14,989 百万円 = (Q) = (O) + (P)

B/C = 1.11 = (U)

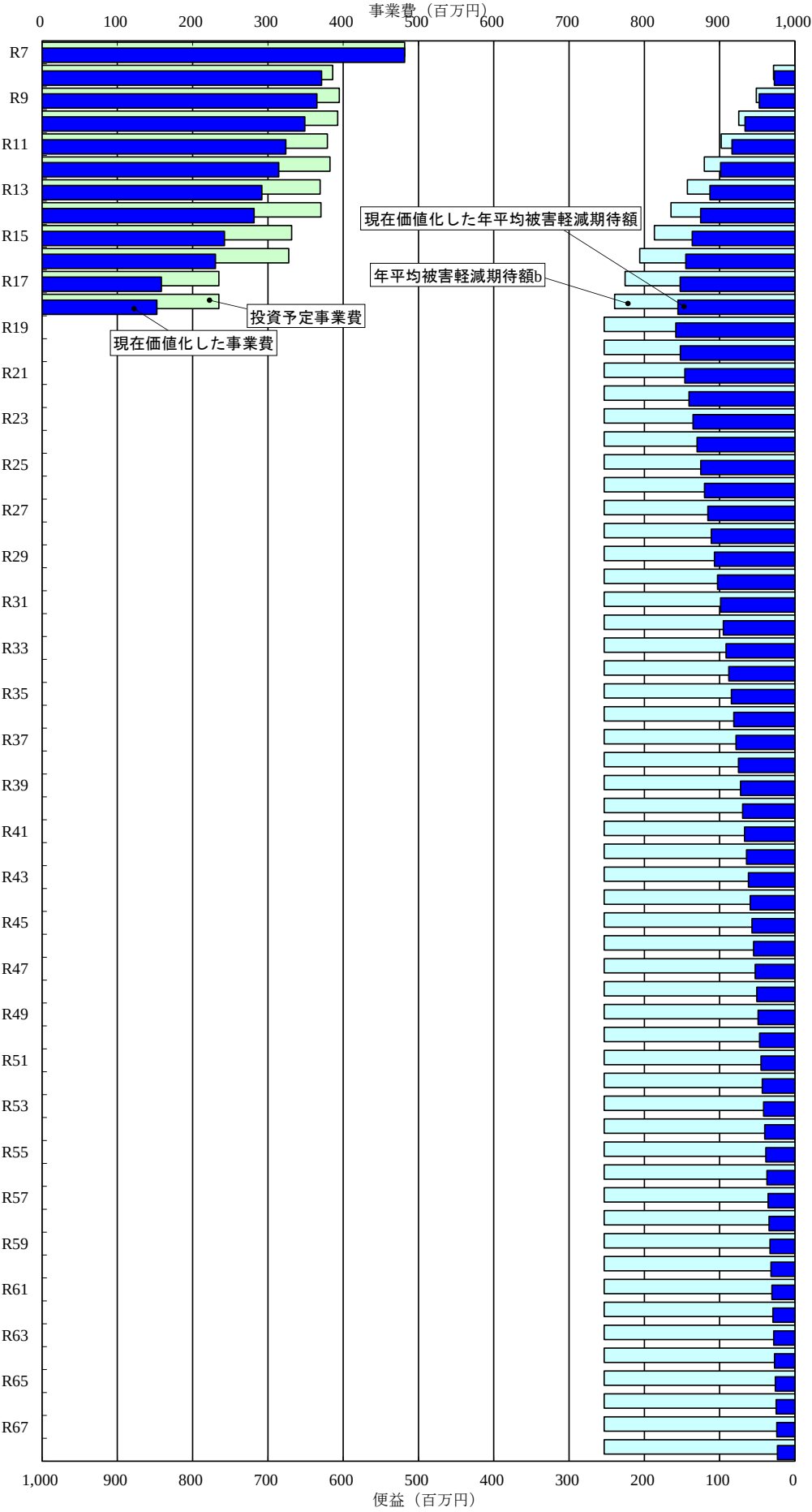


費用対効果計算書 残事業 （令和7年度評価）

水系名：北上川水系 河川名：北上川（10R第4鉄道橋～尾呂部橋） 単位：百万円

期間	年度t		便 益		費 用					
			年平均被害軽減期待額b	年便益	建設費				維持管理費	
					費用	現在価値	治水事業費指数	デフレーター換算	費用	現在価値
施設完成後の評価期間 50年	0	R7	0	0	481.7	481.7	118.5	100.0	0.0	0.0
	1	R8	28	27	386.1	371.2			2.4	2.3
	2	R9	51	47	394.8	365.1			4.3	4.0
	3	R10	75	66	392.6	349.0			6.3	5.6
	4	R11	98	84	379.0	323.9			8.3	7.1
	5	R12	120	99	382.5	314.4			10.2	8.4
	6	R13	143	113	369.5	292.0			12.1	9.6
	7	R14	165	125	370.5	281.6			13.9	10.6
	8	R15	187	136	331.6	242.3			15.8	11.5
	9	R16	206	145	327.7	230.3			17.4	12.3
	10	R17	226	152	234.8	158.6			19.1	12.9
	11	R18	239	156	234.8	152.5			20.3	13.2
	12	R19	253	158					21.4	13.4
	13	R20	253	152					21.4	12.9
	14	R21	253	146					21.4	12.4
	15	R22	253	141					21.4	11.9
	16	R23	253	135					21.4	11.4
	17	R24	253	130					21.4	11.0
	18	R25	253	125					21.4	10.6
	19	R26	253	120					21.4	10.2
	20	R27	253	116					21.4	9.8
	21	R28	253	111					21.4	9.4
	22	R29	253	107					21.4	9.0
	23	R30	253	103					21.4	8.7
	24	R31	253	99					21.4	8.4
	25	R32	253	95					21.4	8.0
	26	R33	253	91					21.4	7.7
	27	R34	253	88					21.4	7.4
	28	R35	253	85					21.4	7.1
	29	R36	253	81					21.4	6.9
	30	R37	253	78					21.4	6.6
	31	R38	253	75					21.4	6.4
	32	R39	253	72					21.4	6.1
	33	R40	253	69					21.4	5.9
	34	R41	253	67					21.4	5.6
	35	R42	253	64					21.4	5.4
	36	R43	253	62					21.4	5.2
	37	R44	253	59					21.4	5.0
	38	R45	253	57					21.4	4.8
	39	R46	253	55					21.4	4.6
	40	R47	253	53					21.4	4.5
	41	R48	253	51					21.4	4.3
	42	R49	253	49					21.4	4.1
	43	R50	253	47					21.4	4.0
	44	R51	253	45					21.4	3.8
	45	R52	253	43					21.4	3.7
	46	R53	253	42					21.4	3.5
	47	R54	253	40					21.4	3.4
	48	R55	253	39					21.4	3.3
	49	R56	253	37					21.4	3.1
	50	R57	253	36					21.4	3.0
	51	R58	253	34					21.4	2.9
	52	R59	253	33					21.4	2.8
	53	R60	253	32					21.4	2.7
	54	R61	253	31					21.4	2.6
	55	R62	253	29					21.4	2.5
	56	R63	253	28					21.4	2.4
	57	R64	253	27					21.4	2.3
	58	R65	253	26					21.4	2.2
	59	R66	253	25					21.4	2.1
	60	R67	253	24					21.4	2.0
61	R68	253	23					21.4	2.0	
合計			14,204	4,686	4,286	3,563				397

年平均被害軽減期待額b			253 百万円					便益 (百万円)		
便益		4,686 百万円	= (R)	建設費		3,563 百万円	= (O)			
残存価値		24 百万円	= (S)	維持管理費		397 百万円	= (P)			
築堤・掘削		13 百万円	= (築堤・掘削の総費用) / (1+0.04) ^{s+50} = 144 / (1+0.04) ⁶² s : 整備期間							
護岸等構造物		9 百万円	= (護岸等構造物の総費用) × 0.1 / (1+0.04) ^{s+50} = 1042 × 0.1 / (1+0.04) ⁶² s : 整備期間							
用地費		2 百万円	= (用地費の総費用) / (1+0.04) ^{s+50} = 19 / (1+0.04) ⁶² s : 整備期間							
総便益B		4,710 百万円	= (T) = (R) + (S)	総事業費C		3,959 百万円	= (Q) = (O) + (P)	B/C=	1.19 = (U)	



大規模公共事業 再評価の概要

一級河川北上川(上流)広域河川改修事業

令和7年6月16日
岩手県県土整備部 河川課

本日の説明内容

大規模公共事業 再評価調書への記載内容について説明

I 事業概要

II 事業目的

III 事業の進捗状況等

⇒ 大項目評価①

IV 事業に関する社会経済情勢等の変化

⇒ 大項目評価②

V コスト縮減対策及び代替案立案の可能性

VI 総合評価

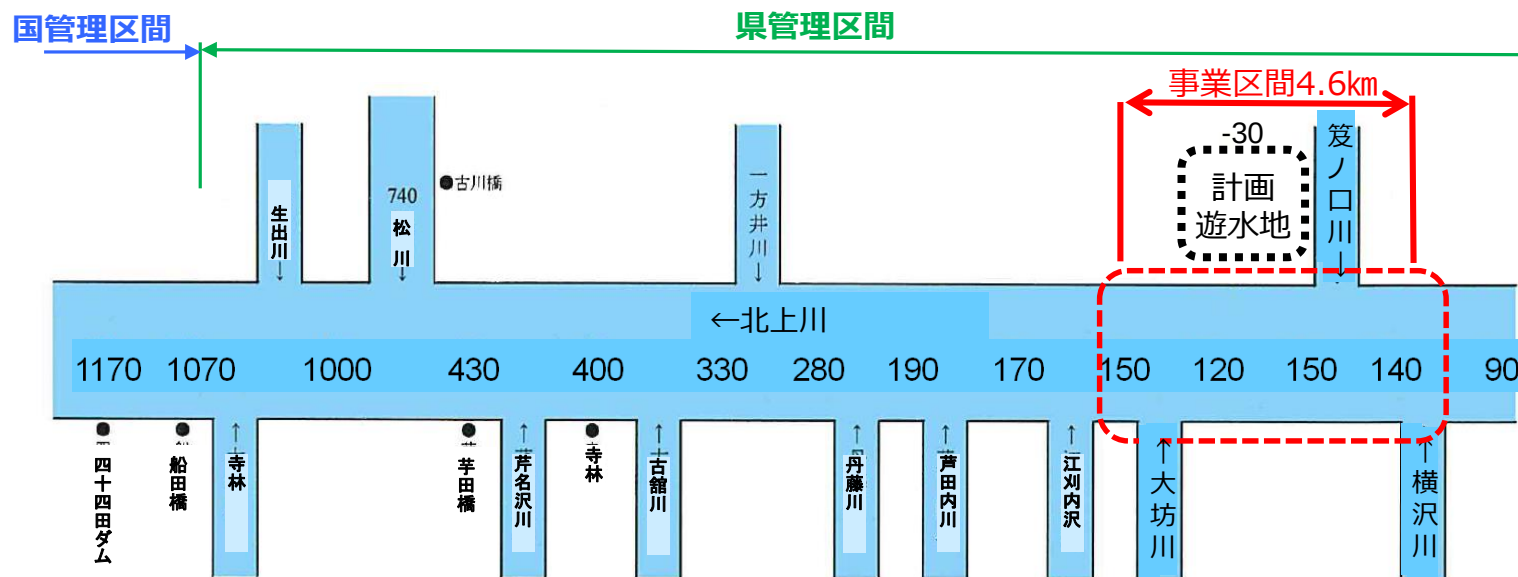
I 事業概要①

- 河川名：一級河川 北上川
- 計画延長：L＝4,600m
- 整備目標等
治水安全度：1/20（H22.7月洪水対応）
- 事業計画期間
当初計画（H23） H23～R11
前回再評価時（R2） H23～R11
今回再評価時（R7） H23～R18
- 総事業費
当初計画（H23） C＝ 4,500.0百万円
前回再評価時（R2） C＝ 8,300.0百万円
今回再評価時（R7） C＝10,990.9百万円
- 事業費の状況
投資事業費（H23～R7） C＝6,863.8百万円
進捗率 F＝62.4%



I 事業概要②

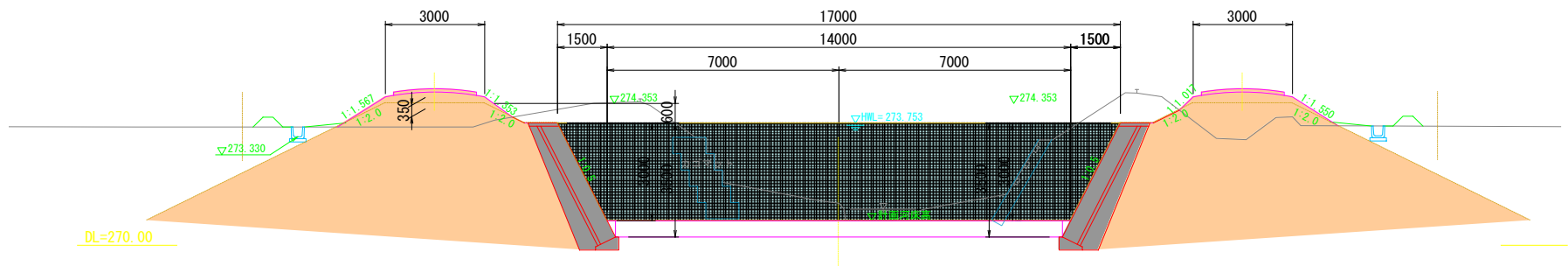
流量配分図



I 事業概要③

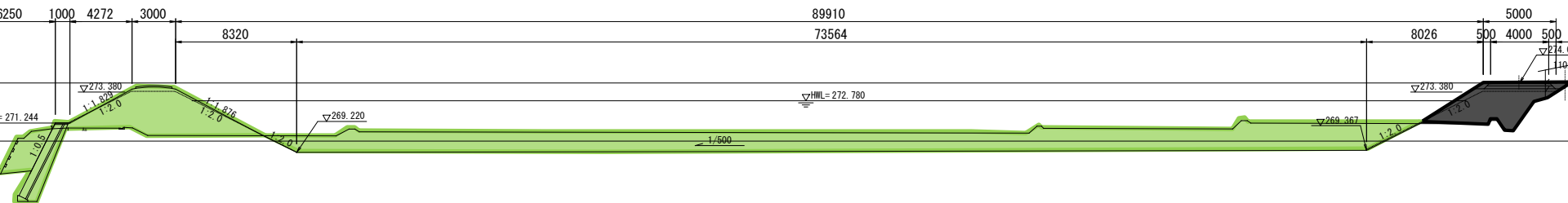
河川改修断面

北上川標準断面

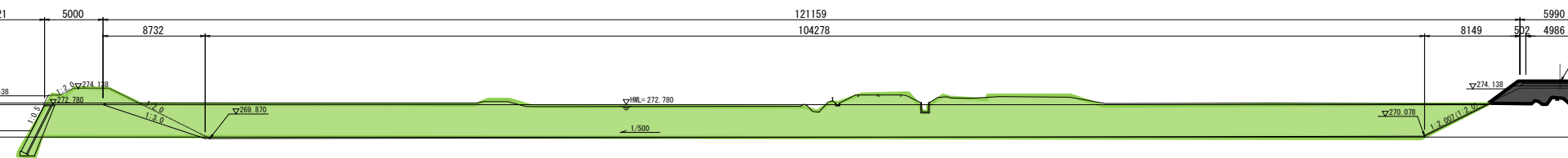


I 事業概要⑤

遊水地横断図 吐口工付近



遊水地横断図 越流堤付近



Ⅱ 事業目的

○北上川の現状

北上川沼宮内地区では、断面が狭小で流下能力が不足しているため、平成22年7月の豪雨では家屋29戸の浸水被害が発生し、国道4号も冠水により通行止めになる等甚大な被害が発生した。 ⇒ 治水安全度の向上が課題である。

【洪水被害の状況 H22.7洪水】



田頭橋(上流)の出水状況



五日市地区の出水状況

○整備によって得られる効果

近年で最も浸水被害の著しい平成22年7月洪水同等規模の洪水を安全に流下させ、家屋等の浸水被害の軽減を図る。

Ⅲ 事業の進捗状況等①

○事業の経緯

平成22年7月 大規模な浸水被害が発生

平成22年 公共事業事前評価

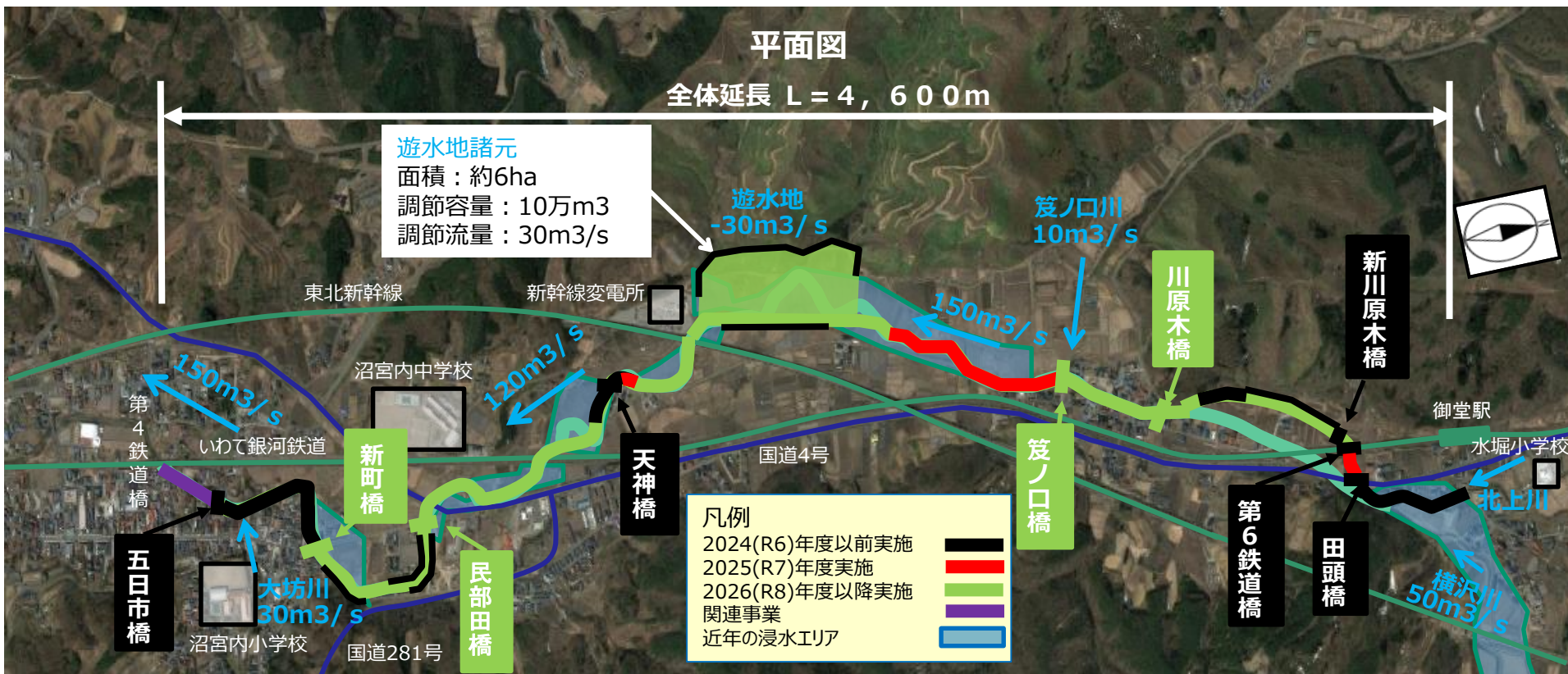
平成23年 広域河川改修事業着手

平成27年9月 河川整備計画策定

令和2年 大規模事業再評価
(総事業費の増(公共から大規模に移行))

令和7年 大規模事業再評価

Ⅲ 事業の進捗状況等②



Ⅲ 事業の進捗状況等③

○事業の進捗状況

浸水被害のネックとなっている橋梁の架け替え工事を進めており、増水時の流木等による浸水被害対策に期待できる。また、下流側の住宅地付近の改修は完了しており、流下能力が向上していることから、洪水対策が期待できる。



旧五日市橋撤去工事の状況



護岸・橋梁の整備状況

事業の進捗状況(中項目評価)

・県内に多発する洪水被害への対応など、本事業の進捗を阻害する要因はあるものの、一定の期間等を要することにより解決できる見込みであり、竣工の見通しがあることから、「b」とした。

「事業の進捗状況」の中項目評価

a ・ **b** ・ c

Ⅲ 事業の進捗状況等④

○事業計画の変更の有無及び内容

前回再評価時(R2)

今回再評価時(R7)

総事業費 8,300百万



10,990.9百万円

事業完了年度 R11年度



R18年度

事業費内訳
(参考)

変更前 (R2)		変更後 (R7)		備考
横断施設 (IGR)	1,885百万円	2,496百万円	+611百万円	労務費、物価上昇による増
橋梁工	1,763百万円	2,335百万円	+572百万円	労務費、物価上昇による増
護岸工	1,569百万円	2,078百万円	+509百万円	労務費、物価上昇による増
土工	1,241百万円	1,644百万円	+403百万円	労務費、物価上昇による増
その他工種	1,841百万円	2,438百万円	403百万円	労務費、物価上昇による増
合計	8,300百万円	10,991百万円	+2,691百万円	

事業計画の変更の有無及び内容(中項目評価)

・変更内容が施工区間の変更や主要な工事内容の変更ではなく、社会的要因(労務費、物価上昇による増)に伴う事業期間及び事業費に関する変更であることから「b」とした。

「事業の進捗状況」の中項目評価

a ・ **b** ・ c

Ⅲ 事業の進捗状況等⑤

事業の進捗状況等(大項目評価)

- ・中項目評価が「事業の進捗状況」が「b」、「事業計画の変更の有無」が「b」であることから、大項目評価を「BB」とした

「事業の進捗状況等」の大項目評価	AA ・ A ・ BB ・ B ・ C
------------------	----------------------------

Ⅳ 事業に関する社会経済情勢等の変化①

ア 全国の状況	・自然災害により尊い人命や家屋等の財産が甚大な被害を受けている。 ・<u>ハード対策を進めるとともに、ソフト施策の充実により、住民の水害に対する意識啓発に努めていく。</u>
イ 本県内の状況	・大規模な浸水被害が県内各地で発生しており、<u>治水事業に対する関心が依然として高い。</u> ・近年洪水被害が発生した河川等について重点的に整備しており、<u>段階的な整備により治水安全度の向上を図ることとしている。</u> ・河川に係る<u>ハード対策とソフト施策を一体的に進めている。</u>
ウ 施工地域における状況	・当事業区間は、<u>平成22年7月の大雨で甚大な浸水被害を受けていることから、地元自治会や岩手町から早期改修について知事への要望が出されている。</u> ・ソフト施策としては、県では平成30年度に<u>簡易型河川監視カメラ、令和2年度に危機管理型水位計を整備しホームページで公開しているほか、平成30年9月に水位周知河川に指定し、水位情報を周知するなどの対策を講じている。</u>また、令和30年9月に<u>想定最大規模の浸水想定区域をホームページで公開し、地域住民の円滑な避難を促している。</u>

IV 事業に関する社会経済情勢等の変化②

事業に関する社会経済情勢(中項目評価)

- ・本事業のあり方についての議論や見直しの検討はないことから「a」とした。

「事業計画に関する社会経済情勢」の中項目評価

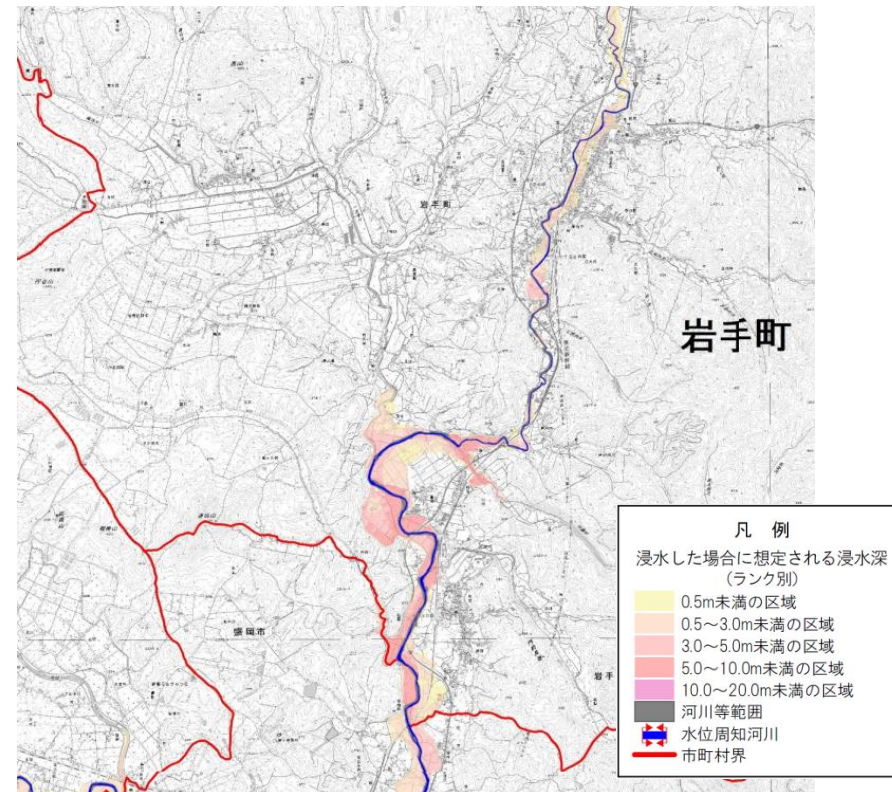
a · b · c

【ソフト施策】



河川監視カメラの運用開始(R2)

127



洪水浸水想定区域の指定(H30..9)

15

IV 事業に関する社会経済情勢等の変化③

事業に関する評価指標の推移(中項目評価)

・各評価指標の評点の合計が前回再評価時の**90%以上**であることから「a」とした

評価指標		配点	事業着手時 評点	前回再評価 時評点(A)	今回再評価 時評点(B)	増減 (B)－(A)	備考
必要性	想定氾濫被害額、防護人口、 公共施設・弱者施設、輸送施設	30点	29点	29点	29点		
重要性	総合計画等の位置付け	5点	5点	5点	5点		
緊急性	過去10年間の水害被害実績、過去10年間の被災回数、他事業関連の有無、流下能力比	15点	14点	13点	12点	-1点	
効率性	費用便益比 (B/C)	40点	20点	20点	20点		前回 B/C: 1.4 今回 B/C: 1.1
熟度	地元の要望、地元の協力	10点	10点	10点	10点		
計		100点	78点	77点	76点	-1点	今回評価/前回評価 99%

前回再評価時(R2)

過去10年間の
水害被害実績
評点5
(10億円以上)



今回再評価時(R7)

評点2
(5千万円以上1億円未満)

過去10年間の
被災回数
評点1
(1回)



評点3
(3回以上)

「事業計画に関する評価指標の推移」の中項目評価

a ・ b ・ c

Ⅳ 事業に関する社会経済情勢等の変化④

【過去10年間の水害被害実績】

- ・前回再評価(R2)時点に比べ、今回再評価(R7)時点の方が水害被害実績が少なかったことによるもの。

前回再評価(R2)時点と今回再評価(R7)時点の比較

事業評価	過去10年間	水害被害実績
前回再評価(R2)	H22～H31	10.2億円
今回再評価(R7)	H27～R6	0.5億円

◆水害被害実績の減少理由

今回再評価(R7)においては、近年で洪水被害の大きかった平成22年7月の水害被害実績が対象とならないため、減少したもの。

IV 事業に関する社会経済情勢等の変化⑤

費用便益比(B/C)の変化

区 分		前回再評価時	今回再評価時
費用	建設費	8,863.0	13,592.0
	維持管理費	957.0	1,397.4
	総費用(C)	9,820.0	14,989.4
便益	被害軽減の便益	13,457.0	16,522.6
	残存価値	60.0	64.0
	総便益(B)	13,517.0	16,586.6
費用便益比(B/C)		1.4	1.1

○B/C変化の理由

- ・費用項目の増は、全体事業費の増と基準年の変更による現在価値化によるもの。
- ・便益項目の増は、前回再評価以後に改定された治水経済調査マニュアル(案)(R6.4月)に基づき算出した結果によるもの。

【参考】 残事業B/C=1.2

IV 事業に関する社会経済情勢等の変化⑥

自然環境の状況及び環境配慮事項(中項目評価)

状況	・岩手県自然環境保全指針による保全区分：D ・希少野生動植物の有無：なし ・埋蔵文化財包蔵地：なし
助言	・汚濁水を川に流さないように措置すること ・人工物を極力減らし、河川の生息空間の確保に努めること ・遊水地を生物保全場所として利用できないか検討すること
対応	・濁水防止のため必要に応じて沈砂池を設けながら排水を行う ・護岸を植生可能な護岸ブロックにより施工することにより、周辺環境との調和に配慮する ・遊水地の利用については岩手町と協議し検討を進めている

・自然環境保全指針の「優れた自然」の保全区分毎の保全区分に沿って積極的な対応をしていることから「a」とした

「自然環境等の状況及び環境配慮事項」の中項目評価 **a** ・ b ・ c

社会経済情勢等の変化(大項目評価)

・中項目評価が「a」、「a」、「a」であることから、大項目評価を「AA」とした

「社会経済情勢等の変化」の大項目評価 **AA** ・ A ・ BB ・ B ・ C

V コスト縮減対策及び代替案立案の可能性

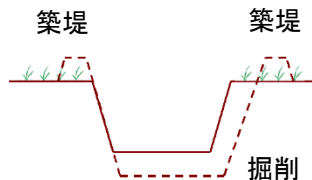
○コスト縮減対策の実施状況

- ・河道縦断計画の見直しを行い、岩盤掘削の削減と現況護岸活用による護岸工の削減によりコスト縮減の見込みがある。

縮減見込額 C＝約200百万円。

○代替案立案の可能性

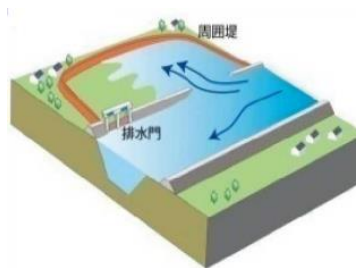
- ・放水路案や治水ダム案が考えられるが、流域の地形条件や土地利用上から困難であり、現在の「河川改修＋遊水地」による治水対策が妥当であると判断したものである。
- ・今後においても、現時点で予想される社会・自然環境等の大きな変化はないため、代替案立案の可能性はないものと判断している。



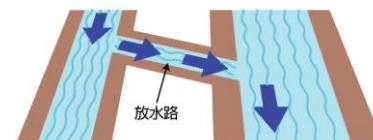
河川改修案



治水ダム案



遊水地案



放水路案

VI 総合評価

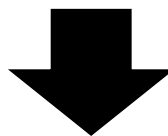
着手 年度	完了予定 年度	事業費 (百万円)	投資 事業費 (百万円)	進捗率 (%)	(1)事業進捗状況			(2)社会経済情勢				参考	
						進捗状況	計画変更		社会経済	評価指標	自然環境	評点	B/C
H23	R18	10,991	6,864	62.4	BB	b	b	AA	a	a	a	76	1.1

○「事業の進捗状況等」 大項目評価：BB

・事業期間や事業費を変更するものの、**施工区間や主要な工事内容に変更はない**ことから、今後も事業を推進し、治水安全度の向上を図っていく。

○「社会経済情勢等の変化」 大項目評価：AA

・社会経済情勢、評価指標、自然環境等の状況に**大きな変化は見られない**。



以上のことから、総合評価を「事業継続」とした。

(参考) : 治水経済調査マニュアル (案) の改訂内容

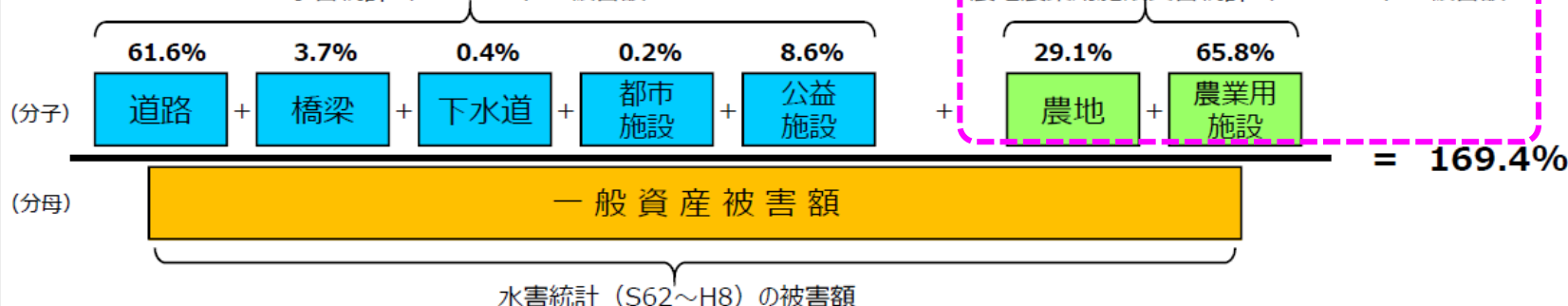
(参考) 公共土木施設等被害の算出方法

治水経済調査マニュアル (案)
平成17年4月

公共土木施設等被害比率 =

水害統計 (S62~H8) の被害額

農地農業用施設は必ずしも一般資産の
集積とは関連していないと考えられる

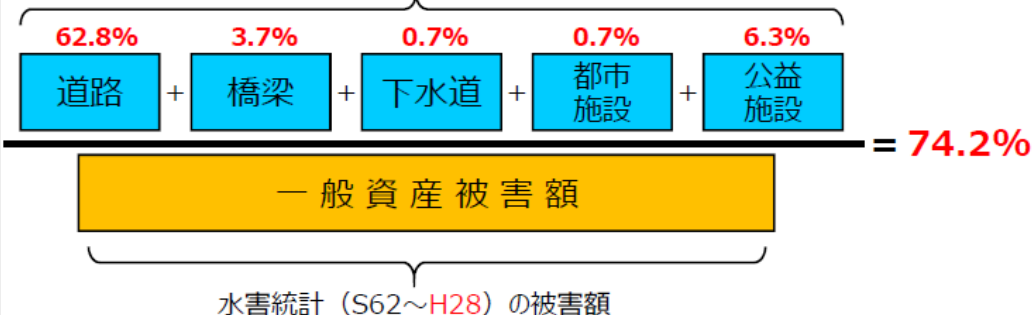


施設ごとに一般資産被害額に対する比率を設定し各施設の被害額を算定

治水経済調査マニュアル (案)
令和2年4月

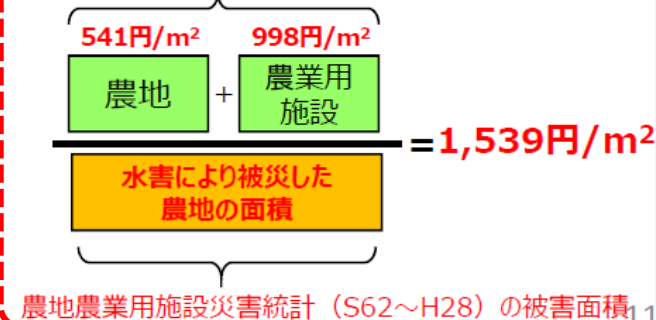
公共土木・公益施設被害比率 =

水害統計 (S62~H28) の被害額



農地・農業用施設の
単位面積当たり被害額 =

農地農業用施設災害統計 (S62~H28) の被害額



農地等の面積に単位面積当たり被害額を乗じて算出

大規模公共事業再評価調書の概要

(二級河川^{けせん}気仙川広域河川改修事業)

担当部課：県土整備部河川課

1 事業概要 (河川名：二級河川気仙川、 所在市町村：陸前高田市、住田町)

○事業目的： 気仙川流域は、その源を岩手県気仙郡住田町の高清水に発し、住田町世田米川口地区で大股川と合流した後、住田町世田米の市街地を貫流するとともに、矢作川等の支川を合わせ、陸前高田市街地を貫流し、陸前高田市気仙町砂盛地区において広田湾に注ぐ二級河川である。その流域は住田町、陸前高田市にまたがり、幹川流路延長約 44km、流域面積約 520 km²を有し、気仙地域における社会、経済の基盤をなしている。

気仙川の治水対策は、ダム及び河川改修にて進めることとしていたが、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災津波により、河口部での土地利用状況などが著しく変化したことから、改めて気仙川全体の合理的な治水対策を検討した結果、河川改修による治水対策が総合的に優位となったことから、平成 26 年度に県の対応方針として津付ダム建設事業の中止を決定した。平成 25 年 7 月豪雨においても住田町の一部で浸水被害が発生するなど、気仙川流域における治水対策の必要性は変わるものではなく、浸水被害の防止を早期に図る必要がある。

そのため、本事業にて河川改修を行い、浸水被害を軽減することにより、安全で安心できる地域づくりに寄与するものである。

○事業内容：計画延長 L=12,800m

築堤工 V=102,800 m³、掘削工 V=121,000 m³、護岸工 A=10,600 m²、橋梁工 N=2 基

○事業期間：H27 年度～R17 年度（前回評価時：H27 年度～R12 年度）

○総事業費：7,089.2 百万円（R7 年度までの投資額 5,131.8 百万円、進捗率 72.4%）

2 事業の進捗状況等

- 当事業の陸前高田市区については、竹駒駅（詔石橋）から広田湾までの整備が概ね完了しており、整備効果が発現している。住田町分については、要配慮者施設箇所（特養ホーム）及び人家連担部の整備が概ね完了し、川向、火石地区の治水能力の向上が図られているほか、現在は昭和橋の架け替え工事に着手しており、早期の整備効果発現を目指しているところである。
- 当事業区間の治水安全度は 1/30（30 年に 1 度程度の確率で発生すると想定されている降雨に対応）として、河道を整備することとしている。

3 社会経済情勢等の変化

- 本県では、令和 6 年 8 月の米内川（盛岡市）、令和 4 年 8 月の馬淵川（一戸町）や、令和元年 10 月の小屋畑川・沢川（久慈市）、平成 28 年 8 月の小本川（岩泉町）、平成 25 年 7 月の砂鉄川（一関市）、8 月の岩崎川（矢巾町）及び雫石川（雫石町）など、近年大規模な浸水被害が各地で発生しており、治水対策事業に対する関心は依然として高く、効率的・効果的な事業の推進を図る必要がある。
- 当事業区間は、平成 11 年 7 月、平成 14 年 7 月、平成 25 年 7 月、平成 28 年 8 月等の大雨により甚大な浸水被害を受けていることから、地域住民の治水事業に対する関心も非常に高く、地元の陸前高田市、住田町から早期改修について知事への要望が出されている。
- ソフト対策として、県では平成 30 年度に危機管理型水位計、令和 2 年度に簡易型監視カメラを整備し、ホームページで公開しているほか、平成 17 年 6 月に気仙川を水位周知河川に指定し、一定の水位を超えた際は水防管理者に河川水位を周知し、必要に応じて報道機関の協力を求めて一般に周知するなどの対策を講じている。また、平成 30 年 10 月に当該河川の想定最大規模の浸水想定区域をホームページで公開し、地域住民の円滑な避難を促している。

4 コスト縮減対策及び代替案

- 護岸工において、地下水による湧水の流入が著しい区間にあつては、現場条件に対応すべく工法の見直しを行い、仮設工にかかるコストの縮減を図った（縮減額：C=約 83 百万円）。
- ダム及び河川改修事業の中止に伴い、新たな治水対策として、河川改修による治水対策が妥当と判断している。

5 総合評価

- 気仙川沿川には、家屋や資産が集中しており洪水氾濫が起きた際には甚大な被害が発生することから、引き続き流下能力が不足している区間の改修を実施し、治水対策の着実な推進を図っていく必要がある。
- 「事業の進捗状況等」については、事業期間や事業費を変更するものの、施工区間や主要な工事内容に変更はないことから、今後も事業を推進し、治水安全度の向上を図っていく。
- 「社会経済情勢等の変化」については、近年も県内各地で大規模な浸水被害が発生しており、治水事業に対する関心度は依然として高いこと。また「評価指標」、「自然環境等の状況」に関しては、特に大きな変化は見られないところである。
- 以上のことから、「事業継続」と評価したものである。

事業名	広域河川改修事業		補助	単独	担当部課名	県土整備部河川課				
路線名等	二級河川気仙川水系気仙川 ^{けせんがわ}	地区名	たけこま 竹駒	むかいかわぐち 向川口	市町村	陸前高田市、住田町				
事業概要	〔事業根拠法令等：河川法第10条〕									
	(1) 事業目的									
	○解決すべき課題 気仙川流域は、その源を岩手県気仙郡住田町の高清水に発し、住田町世田米川口地区で大股川と合流した後、住田町世田米の市街地を貫流するとともに、矢作川等の支川を合わせ、陸前高田市街地を貫流し、陸前高田市気仙町砂盛地区において広田湾に注ぐ二級河川である。その流域は住田町、陸前高田市にまたがり、幹川流路延長約44km、流域面積約520km ² を有し、気仙地域における社会、経済の基盤をなしている。 気仙川の治水対策は、ダム及び河川改修にて進めることとしていたが、平成23年3月11日の東日本大震災津波により、河口部での土地利用状況などが著しく変化したこと、改めて気仙川全体の合理的な治水対策を検討した結果、河川改修による治水対策が総合的に優位となったことから、平成26年度に県の対応方針として津付ダム建設事業の中止を決定した。平成25年7月豪雨においても住田町の一部で浸水被害が発生するなど、気仙川流域における治水対策の必要性は変わるものではなく、浸水被害の防止を早期に図る必要がある。 ○整備によって得られる効果 河川改修を実施することで、30年に1度の確率による降雨で発生すると考えられる洪水被害の解消が図られる。									
	(2) 事業内容 計画延長 L=12,800m 築堤工 V=102,800m ³ 、掘削工 V=121,000m ³ 、護岸工 A=10,600m ² 、橋梁工 N=2基									
	(3) 整備目標等 治水安全度： 1/30 (将来1/70) (治水基準点：陸前高田市島部)									
	事業着手	H27年度	事業計画期間	H27 ~ R12	今回再評価時全体計画期間 前回再評価時全体計画期間 (当初全体計画期間)		用地着手	H27年度	工事着手	H27年度
	事業費	当初計画総事業費 (H27)	前回再評価時総事業費 (R2)	今回再評価時総事業費 (R7)	事業費の状況 [百万円]					
		(うち用地費)	(うち用地費)	(うち用地費)	H27年～ R5年	R6	R7	投資事業費 E=B+C+D	財源	進捗率 F=E/A
		3,000.0 (424.0)	4,950.0 (596.6)	7,089.2 (805.0)	4,341.4 (316.5)	427.4 (0.0)	363.0 (0.0)	5,131.8 (316.5)	国庫 2,565.9 県 2,565.9	72.4%
	事業の進捗状況等	(1) 事業の進捗状況								
ア 整備効果の発現状況 ・ 陸前高田市 竹駒駅（詔石橋）から広田湾までの整備が概ね完了しており、整備効果が発現している。 ・ 住田町 要配慮者施設箇所（特養ホーム）及び人家連担部の整備が概ね完了し、川向、火石地区の治水能力の向上が図られているほか、現在は昭和橋の架け替え工事に着手しており、早期の整備効果発現を目指しているところである。										
イ 未着工及び工事遅延等の理由及び解決の見通し ①理由：事業期間の延伸は、県内に多発する洪水被害への対応等のため、他河川との予算調整配分が必要となり、事業期間の見直しを行ったもの。 ②解決の見通し（難易度）：今後も予算確保に努めるとともに、工事実施に当たってはコスト縮減などに取り組んでいく。 ③解決までの対応及び期間：確実な工事進捗を図るとともに、リアルタイムの水位情報の公開、ホットラインによる市町村への水位情報の伝達のほか、想定しうる最大規模の洪水浸水想定区域図を公表するなど、ソフト施策による取組を図っている。										
○中項目評価は、県内に多発する洪水被害への対応など、本事業の進捗を阻害する要因はあるものの、一定の期間等を要することにより解決できる見込みであり、竣工の見通しがあることから「b」とした。										
中項目評価		a . (b) . c								
(2) 事業計画の変更の有無及び内容										
①事業期間の延伸 (H27～R12→H27～R17)										
②事業費 (4,950百万円→7,089百万円)										
変更前 (R2)		変更後 (R7)		備考						
築堤工		1,071百万円	1,446百万円	+375百万円	労務費、物価上昇による増					
掘削工	1,308百万円	2,172百万円	+864百万円	労務費、物価上昇による増+502 残土処理地変更による増+362						
護岸工	1,090百万円	1,472百万円	+382百万円	労務費、物価上昇による増						
橋梁工	884百万円	1,193百万円	+309百万円	労務費、物価上昇による増						
用地補償費	597百万円	805百万円	209百万円	労務費、物価上昇による増						
合計	4,950百万円	7,089百万円	+2,139百万円							
○中項目評価は、変更内容が施工区間の変更や主要な工事内容の変更ではなく、主に社会的要因（労務費、物価上昇による増）に伴う事業期間及び事業費に関する変更であることから、「b」とした。										
中項目評価		a . (b) . c								
○中項目評価が「b」、「b」であることから、大項目評価は「BB」とした。										
評価		AA . A . (BB) . B . C								

社会
経
済
情
勢
等
の
変
化

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況

・西日本を中心に被害をもたらした平成30年6、7月の集中豪雨や岩手県を含む東日本、北日本に被害をもたらした令和元年10月の台風第19号、九州地方に大きな被害をもたらした令和2年7月豪雨、九州、中国地方を中心に被害をもたらした令和3年7月、8月の豪雨、東北、北陸を中心に被害をもたらした令和4年8月3日からの豪雨、九州南部を中心に被害をもたらした令和4年9月の台風第14号、東海地方を中心に被害をもたらした台風第15号、令和6年7月に山形県および秋田県に被害をもたらした前線の影響による大雨など、毎年、自然災害により尊い人命や家屋等の財産が甚大な被害を受けていることから、今後も着実にハード整備を進めるとともに、安全な避難等のための洪水情報等の提供の充実などソフト施策の充実を図り、災害時に避難が行われるよう住民の意識啓発に努めていく必要がある。

イ 本県内の状況

・近年、本県では、令和6年8月の米内川（盛岡市）、令和4年8月の馬淵川（一戸町）や、令和元年10月の小屋畑川・沢川（久慈市）、平成28年8月の小本川（岩泉町）、平成25年7月の砂鉄川（一関市）、8月の岩崎川（矢巾町）及び雫石川（雫石町）など、各地で大規模な浸水被害が発生しており、治水事業に対する関心度は依然として高く、効率的・効果的な事業の進捗に努める必要がある。

・県では、近年洪水被害が発生した河川や背後地に資産の集中している河川について重点的に整備を進めることとしており、過去の被災流量相当の洪水被害から地域を守ることを当面の目標として、段階的な整備により治水安全度の向上を図ることとしている。

・河川改修などのハード整備を進めているとともに、住民の迅速かつ円滑な避難を促すため、ソフト施策として水位計や河川監視カメラを設置のうえ、ホームページやメール等により洪水情報を提供しているほか、洪水浸水想定区域図の作成、市町村への洪水ハザードマップの作成支援を行っている。

ウ 施工地区における状況

・当該事業区間は、平成11年7月、平成14年7月、平成25年7月、平成28年8月等の大雨により甚大な浸水被害を受けていることから、地域住民の治水事業に対する関心も非常に高く、地元の陸前高田市、住田町から早期改修について知事への要望が出されている。ソフト対策として、県では平成30年度に危機管理型水位計、令和2年度に簡易型監視カメラを整備し、ホームページで公開しているほか、平成17年6月に気仙川を水位周知河川に指定し、一定の水位を超えた際は水防管理者に河川水位を周知し、必要に応じて報道機関の協力を求めて一般に周知するなどの対策を講じている。また、平成30年10月に当該河川の想定最大規模の浸水想定区域をホームページで公開し、地域住民の円滑な避難を促している。

○中項目評価は、全国または本県において、河川改修事業のあり方についての議論や見直しの検討はないことから、「a」とした。

中項目評価

a

b

c

(2) 事業に関する評価指標の推移

評価指標	配点	事業着手時 H27 評 点	前回再評価時 R2 評 点 (A)	今回再評価時 R7 評 点 (B)	増 減 (B)-(A)	備 考
必要性	想定氾濫被害額	15 (74億円)	15 (116億円)	15 (120億円)	0	
	防護人口	5 (7,603人)	5 (4,406人)	5 (3,095人)	0	
	公共施設・弱者施設	5 (有)	5 (有)	5 (有)	0	特養ホーム
	輸送施設	5 (有)	5 (有)	5 (有)	0	国道107号、340号
重要性	総合計画上の位置づけ	5 (有)	5 (有)	5 (有)	0	河川整備率
緊急性	過去10年間の水害被害実績	5 (1.4億円)	3 (2.8億円)	3 (1.3億円)	0	※
	過去10年間の被災回数	3 (2回)	2 (2回)	1 (1回)	-1	※ H28台風10号
	他事業関連の有無	5 (有)	5 (有)	5 (有)	0	(国) 340号山谷工区、気仙川水門等
	流下能力比	2 (53.4%)	1 (53.4%)	1 (53.4%)	0	
効率性	費用便益費(B/C)	40 (1.4)	20 (1.3)	20 (1.1)	0	
熟度	地元の要望	5 (有)	5 (有)	5 (有)	0	
	地元の協力	5 (有)	5 (有)	5 (有)	0	
計	100	76	76	75	-1	(今回評価時/前回評価時) 99%

※：H25洪水被害が対象から外れたことによるもの。

社会経済情勢等の変化

区 分		事業着手時 (基準年：H25)	前回再評価時 (基準年：R2)	今回再評価時 (基準年：R7)	備考
費用項目	①建設費	2,238	4,851	7,626	※1
	②維持管理費	116	153	186	※1
	③総費用(C)①+②	2,354	5,004	7,812	
便益項目	④被害額の便益	3,341	6,301	8,645	※2
	⑤残存価値	67	124	267	
	⑥総便益(B)④+⑤	3,408	6,424	8,912	
費用便益比(B/C) ⑥/③		1.4	1.3	1.1	

一般国道340号山谷（復興支援道路）H24～H30年度
河川等災害復旧事業（高田海岸堤防、気仙川水門）H24～R2年度
社会資本整備総合交付金事業（河川堤防沿いの避難路（気仙川河口部～今泉大橋））H26～R2年度

中項目評価 (a) . b . c

ア 動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分

- | | |
|-----|---|
| 全区分 | B |
| あり | |
| あり | |

・振興局公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会への付議状況	付議している
----------------------------------	--------

- ①主な助言内容
- ・施工区域内に確認された希少野生植物について、生育に適した場所に移植を行うこと。
 - ・泥が川に入り込まないようにすること。
 - ・工事にあたっては、地元の権利者（漁協）との調整を行うこと。
- ②対応状況
- ・希少野生植物移植先に関して、専門家の助言を基に移植を行い順調に生育していることを確認している。
 - ・泥が直接川に流入しないよう沈砂池や遮水壁を設置した。
 - ・施工方法や工程等について、地元の権利者（漁協）と調整している。

中項目評価 (a) . b . c

評 価	(AA) ・ A ・ B ・ C
-----	------------------

コスト削減対策及び代替案立案の可能性

(1) コスト削減対策の実施状況及び今後の可能性

・護岸工において、地下水による湧水の流入が著しい区間にあっては、現場条件に対応すべく工法の見直しを行い、仮設工にかかるコストの削減を図った。 削減額 C＝約83百万円

(2) 代替案立案の可能性

①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果

ダム及び河川改修事業の中止に伴い、新たな治水対策として、河川改修による治水対策が妥当と判断している。

②今後における代替案立案の可能性

現時点で予想される社会・自然環境等の大きな変化はないため、代替案立案の可能性はない。

(1) 総合評価

総合評価
(対応方針案)

事業継続

要 検 討

中 止

(事業継続、見直し継続、休止、中止)

(事業名) 広域河川改修事業 気仙川

着手年度	完了予定年度	事業費 (百万円)	投資 事業費 (百万円)	進捗率 (%)	(1) 事業進捗状況		(2) 社会経済情勢			参考			
					進捗状況	計画変更	社会経済	評価指標	自然環境	評点	B/C		
H27	R17	7,089	5,132	72.4%	BB	b	b	AA	a	a	a	75	1.1

○総合評価に係るコメント

・気仙川沿川には、家屋や資産が集中しており洪水氾濫が起きた際には甚大な被害が発生することから、引き続き流下能力が不足している区間の改修を実施し、治水対策の着実な推進を図っていく必要がある。

・「事業の進捗状況等」については、事業期間や事業費を変更するものの、施工区間や主要な工事内容に変更はないことから、今後も事業を推進し、治水安全度の向上を図っていく。

・「社会経済情勢等の変化」については、近年も県内各地で大規模な浸水被害が発生しており、治水事業に対する関心度は依然として高いこと。また「評価指標」、「自然環境等の状況」に関しては、特に大きな変化は見られないこと。

・以上のことから、「事業継続」と評価したものである。

総合評価

※評価対象事業の位置図、計画平面図、標準横断図等を添付のこと。

大規模公共事業 再評価調書 (付表)

事業名	広域河川改修事業		補助・単独	担当部課名	県土整備部河川課	
路線名等	二級河川気仙川水系 ^{けせんがわ} 気仙川	地区名	たけこま 竹駒	むかいかわぐち 向川口	市町村	陸前高田市、住田町

1 現在までの事業の経緯等

平成25年度 津付ダム建設事業の中止について、大規模事業評価専門委員会へ諮問、審議
平成26年度 大規模事業評価専門委員会より答申（津付ダム建設事業の中止決定）
平成27年度 広域河川改修事業着手
令和2年度 公共事業再評価

2 事業を取り巻く社会経済情勢等の変化の具体的説明

・当該事業区間は、平成11年、平成14年、平成25年、平成28年と浸水被害を受けていることから、地域住民の治水事業に対する関心も非常に高く、地元の陸前高田市、住田町から早期改修について知事への要望が行われている。
・一方、財政的には治水事業の予算は縮減されてきている。

(近年の浸水被害)

平成11年7月降雨 床下浸水180棟、床上浸水35棟
平成14年7月台風第6号 床下浸水296棟、床上浸水48棟
平成25年7月降雨 床下浸水38棟、床上浸水3棟
平成28年8月台風第10号 床下浸水3棟

(要望の状況) ※期日は近年のものを記載している。
○陸前高田市（令和5年7月6日）
○住田町（令和5年7月6日）
○陸前高田市（令和6年7月11日）
○住田町（令和6年7月11日）

3 住民意見の状況とこれに対する対応

本計画については、ダム及び河川改修事業の中止により、代替案となる新たな治水対策の策定に伴い、次の説明会を行っており、それに対して住民より質問や意見をいただいている。

◇気仙川・大股川の新たな治水対策に係る説明会 2回（平成26年8月21日、8月22日）

＜主な質問・意見＞

1. 河道内に堆積した土砂撤去は、定期・定量的な対応をお願いしたい。

[回答]

1. 通常の河川パトロール及びボール等の設置による堆積状況の確認を行い、適切に対応していく。

◇気仙川河川改修計画説明会 3回（平成27年6月29日、6月30日、7月1日）

＜主な質問・意見＞

1. 地域の町並みに配慮した河川改修を進めて欲しい。
2. 鮎釣りが盛んな河川であるため、自然環境や景観に配慮した改修をお願いしたい。

[回答]

1. 今後の詳細設計等において、町並みに配慮した検討を行っていく。
2. 漁協はじめ関係者の意見を聞きながら対応していく。

説明会では、その他に維持管理等の要望もあったが、気仙川の改修事業計画に対する反対意見等は無かった。

4 費用便益分析の詳細（算定方法、算出根拠等）

費用便益分析手法：治水経済調査マニュアル(案)(R6年4月) 国土交通省水管理・国土保全局 (単位：百万円)

区 分	事業着手時 (基準年：H27)	前回再評価時 (基準年：R2)	今回再評価時 (基準年：R7)	
				残事業B/C
費用項目	①建設費	2,238	4,851	7,626
	②維持管理費	116	153	186
	③総費用(C) ①+②	2,354	5,004	7,812
便益項目	④被害軽減の便益	3,341	6,301	8,645
	⑤残存価値	67	124	267
	⑥総便益(B) ④+⑤	3,408	6,425	8,912
費用便益比(B/C) ⑥/⑦		1.4	1.3	1.1
				1.9

①建設費：施設整備に要する費用（河川改修費）を整備期間、評価期間で現在価値化して合計したものである。基準年以前の費用は、物価変動を考慮した実質価値に換算した後に現在価値化している。

②維持管理費：毎年定期的に支出される除草等の費用で、5百万円/年を現在価値化して計上している。

④被害軽減の便益：施設整備によって想定される年平均被害軽減額を現在価値化して合計したものである。

⑤残存価値：評価対象期間終了時点における施設等の価値。構造物は価値を10%とし、構造物以外（堤防・用地など）は減価しないものとしている。

5 環境対策の具体的内容

希少野生動植物委員会（令和4年7月12日、令和7年2月26日）

○施工区域内に希少野生植物を確認した場合の移植対応。

○水質汚濁防止等の対策。

○地元の権利者（漁協）との調整。

6 代替案（見直し案）の検討内容

①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果

ダム及び河川改修事業の中止に伴い、新たな治水対策として、河川改修による治水対策が妥当と判断している。

②今後における代替案立案の可能性

現時点で予想される社会・自然環境等の大きな変化はないため、代替案立案の可能性はない。

費用対効果計算書（令和7年度評価 事業全体）

水系名：気仙川水系 河川名：気仙川 単位：百万円

期間	年度c		便益		費 用					
			年平均被害軽減期待額b	年便益	建設費				維持管理費	
					費用	現在価値	治水事業費指数	デフレーター換算	費用	現在価値
整備期間（S）	-11	H26	0	0	0.0	0.0	99.7	118.9	0.0	0.0
	-10	H27	0	0	194.0	340.2	100.0	118.5	5.0	8.8
	-9	H28	10	14	47.6	79.8	100.6	117.8	5.0	8.4
	-8	H29	13	17	187.8	296.0	102.9	115.2	5.0	7.9
	-7	H30	22	30	667.1	976.7	106.5	111.3	5.0	7.3
	-6	R1	57	72	376.1	517.8	108.9	108.8	5.0	6.9
	-5	R2	77	94	979.6	1,295.8	109.0	108.7	5.0	6.6
	-4	R3	128	150	608.0	746.0	113.0	104.9	5.0	6.1
	-3	R4	160	180	554.8	624.1	118.5	100.0	5.0	5.6
	-2	R5	189	204	377.8	408.6	118.5	100.0	5.0	5.4
	-1	R6	209	217	388.5	404.1	118.5	100.0	5.0	5.2
	0	R7	229	229	330.0	330.0	118.5	100.0	5.0	5.0
	1	R8	246	237	519.1	499.1			5.0	4.8
	2	R9	273	253	338.2	312.7			5.0	4.6
	3	R10	291	259	235.5	209.3			5.0	4.4
	4	R11	303	259	235.5	201.3			5.0	4.3
	5	R12	315	259	234.0	192.3			5.0	4.1
	6	R13	328	259	54.5	43.1			5.0	4.0
	7	R14	330	251	54.5	41.5			5.0	3.8
	8	R15	333	244	54.5	39.9			5.0	3.7
	9	R16	336	236	54.5	38.3			5.0	3.5
	10	R17	339	229	43.5	29.4			5.0	3.4
施設完成後の評価期間 50年	11	R18	341	222					5.0	3.3
	12	R19	341	213					5.0	3.1
	13	R20	341	205					5.0	3.0
	14	R21	341	197					5.0	2.9
	15	R22	341	190					5.0	2.8
	16	R23	341	182					5.0	2.7
	17	R24	341	175					5.0	2.6
	18	R25	341	168					5.0	2.5
	19	R26	341	162					5.0	2.4
	20	R27	341	156					5.0	2.3
	21	R28	341	150					5.0	2.2
	22	R29	341	144					5.0	2.1
	23	R30	341	138					5.0	2.0
	24	R31	341	133					5.0	2.0
	25	R32	341	128					5.0	1.9
	26	R33	341	123					5.0	1.8
	27	R34	341	118					5.0	1.7
	28	R35	341	114					5.0	1.7
	29	R36	341	109					5.0	1.6
	30	R37	341	105					5.0	1.5
	31	R38	341	101					5.0	1.5
	32	R39	341	97					5.0	1.4
	33	R40	341	94					5.0	1.4
	34	R41	341	90					5.0	1.3
	35	R42	341	86					5.0	1.3
	36	R43	341	83					5.0	1.2
	37	R44	341	80					5.0	1.2
	38	R45	341	77					5.0	1.1
	39	R46	341	74					5.0	1.1
	40	R47	341	71					5.0	1.0
	41	R48	341	68					5.0	1.0
	42	R49	341	66					5.0	1.0
	43	R50	341	63					5.0	0.9
	44	R51	341	61					5.0	0.9
	45	R52	341	58					5.0	0.9
	46	R53	341	56					5.0	0.8
	47	R54	341	54					5.0	0.8
	48	R55	341	52					5.0	0.8
	49	R56	341	50					5.0	0.7
	50	R57	341	48					5.0	0.7
	51	R58	341	46					5.0	0.7
	52	R59	341	44					5.0	0.7
	53	R60	341	43					5.0	0.6
	54	R61	341	41					5.0	0.6
	55	R62	341	39					5.0	0.6
	56	R63	341	38					5.0	0.6
	57	R64	341	37					5.0	0.5
	58	R65	341	35					5.0	0.5
	59	R66	341	34					5.0	0.5
	60	R67	341	32					5.0	0.5
合計			21,254	8,645	6,535	7,626			355	186

年平均被害軽減期待額b 341 百万円

便益 8,645 百万円 = (R)

残存価値 267 百万円 = (S)

築堤・掘削 202 百万円 = (築堤・掘削の総費用) / (1+0. 04) ^{s+50} = 3401/ (1+0. 04) ⁷² s：整備期間

護岸等構造物 17 百万円 = (護岸等構造物の総費用) × 0. 1/ (1+0. 04) ^{s+50} = 2883×0. 1/ (1+0. 04) ⁷² s：整備期間

用地費 48 百万円 = (用地費の総費用) / (1+0. 04) ^{s+50} = 805/ (1+0. 04) ⁷² s：整備期間

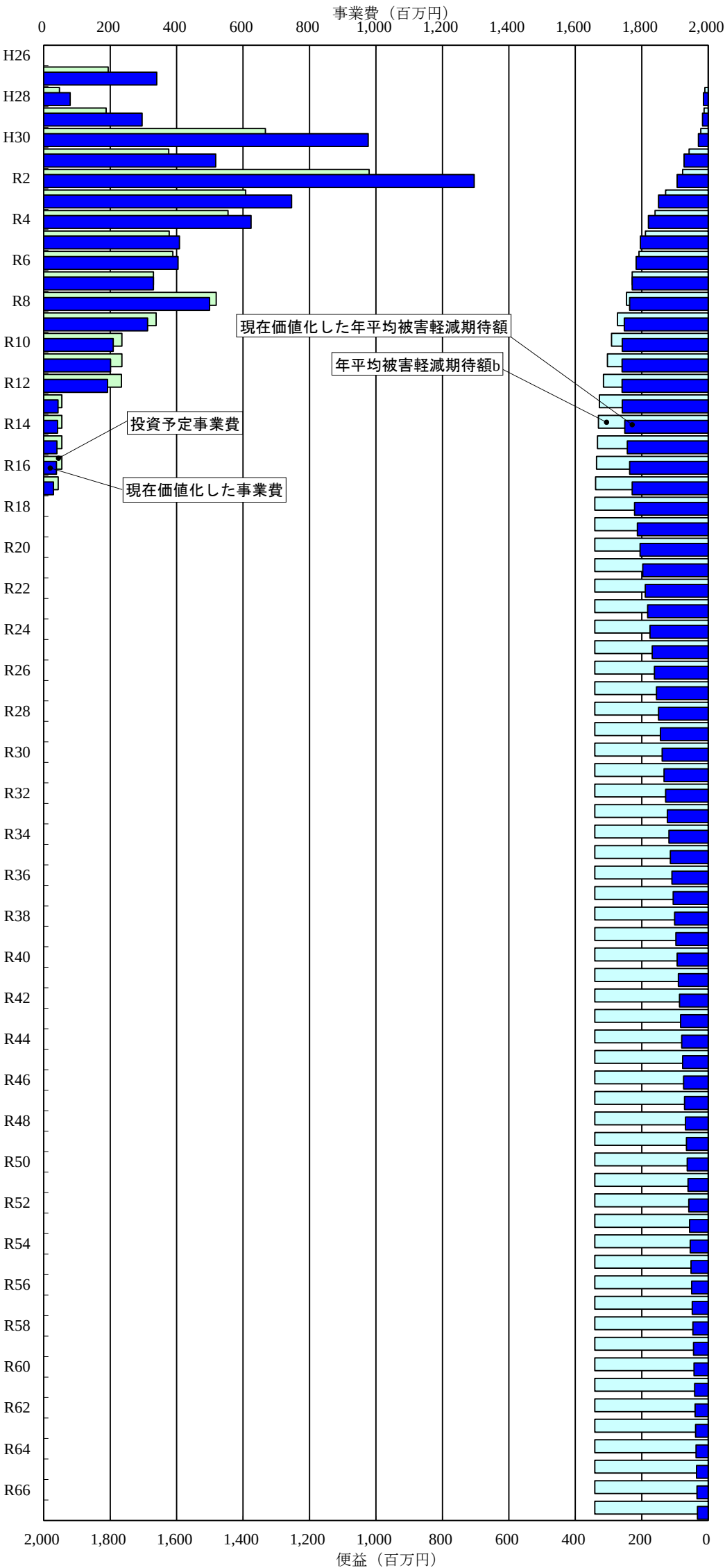
総便益B 8,912 百万円 = (T) = (R) + (S)

建設費 7,626 百万円 = (O)

維持管理費 186 百万円 = (P)

総事業費C 7,812 百万円 = (Q) = (O) + (P)

B／C= 1.14 = (U)

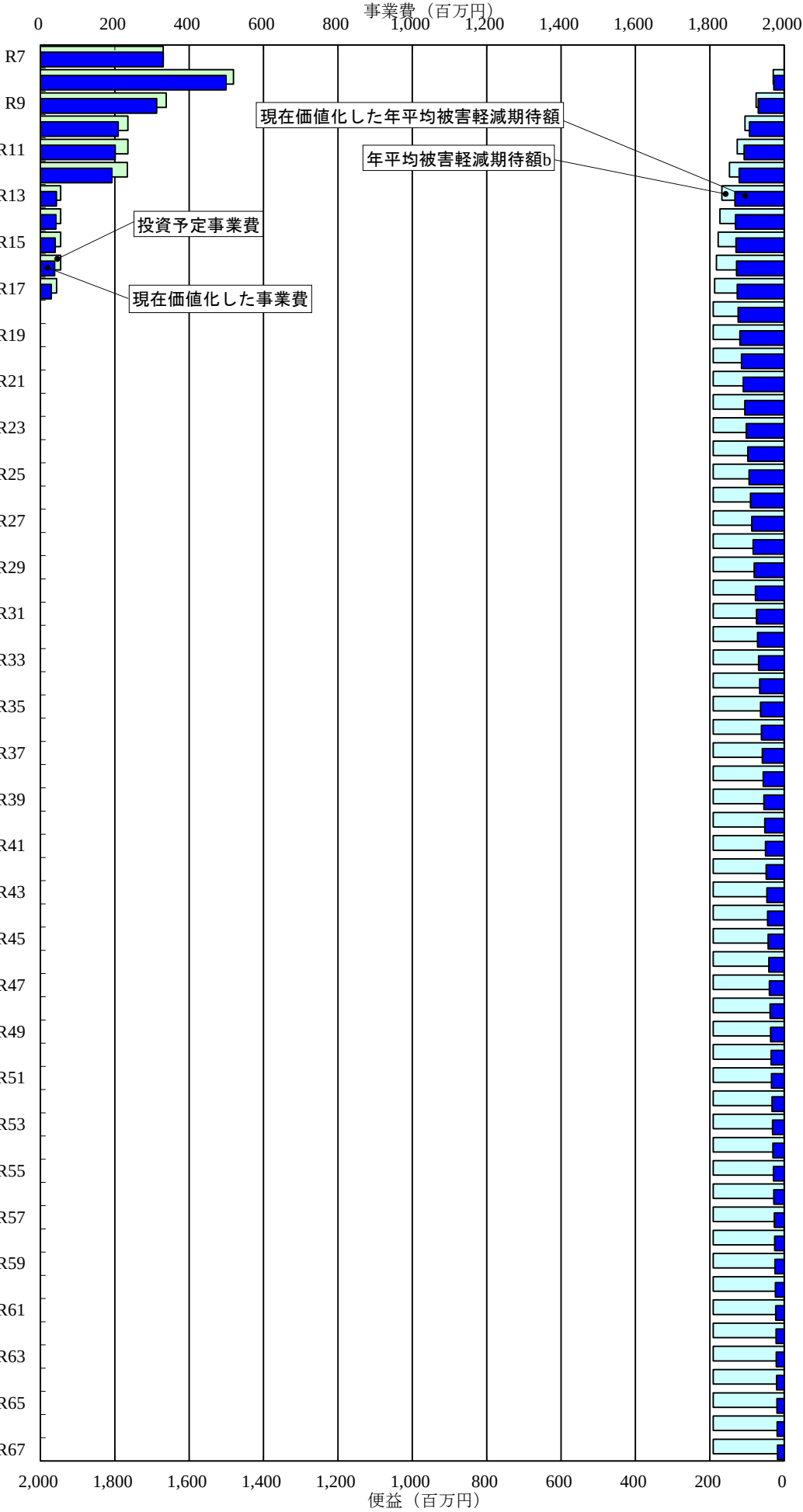


費用対効果計算書（令和7年度評価 残事業）

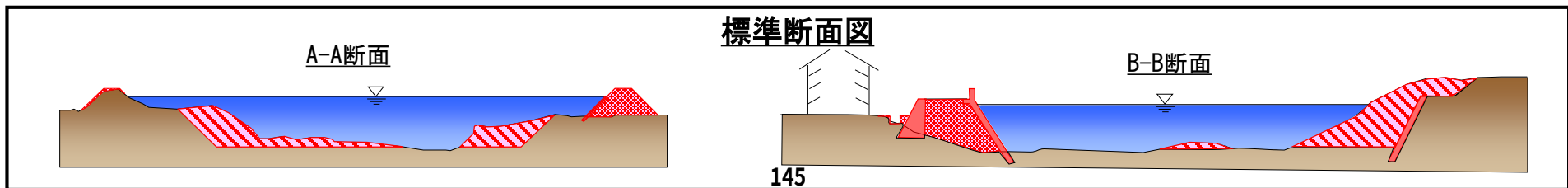
水系名：気仙川水系 河川名：気仙川 単位：百万円

期間	年度t		便 益		費 用						
			年平均被害軽減期待額b	年 便 益	建設費				維持管理費		
					費用	現在価値	治水事業費指数	デフレーター換算	費用	現在価値	
整備期間（S）	0	R7	0	0	330.0	330.0	118.5	100.0	5.0	5.0	
	1	R8	29	28	519.1	499.1			5.0	4.8	
	2	R9	75	70	338.2	312.7			5.0	4.6	
	3	R10	105	94	235.5	209.3			5.0	4.4	
	4	R11	126	108	235.5	201.3			5.0	4.3	
	5	R12	147	121	234.0	192.3			5.0	4.1	
	6	R13	168	133	54.5	43.1			5.0	4.0	
	7	R14	173	131	54.5	41.5			5.0	3.8	
	8	R15	177	130	54.5	39.9			5.0	3.7	
	9	R16	182	128	54.5	38.3			5.0	3.5	
施設完成後の評価期間 50年	10	R17	187	126	43.5	29.4			5.0	3.4	
	11	R18	191	124					5.0	3.3	
	12	R19	191	119					5.0	3.1	
	13	R20	191	115					5.0	3.0	
	14	R21	191	110					5.0	2.9	
	15	R22	191	106					5.0	2.8	
	16	R23	191	102					5.0	2.7	
	17	R24	191	98					5.0	2.6	
	18	R25	191	94					5.0	2.5	
	19	R26	191	91					5.0	2.4	
	20	R27	191	87					5.0	2.3	
	21	R28	191	84					5.0	2.2	
	22	R29	191	81					5.0	2.1	
	23	R30	191	77					5.0	2.0	
	24	R31	191	75					5.0	2.0	
	25	R32	191	72					5.0	1.9	
	26	R33	191	69					5.0	1.8	
	27	R34	191	66					5.0	1.7	
	28	R35	191	64					5.0	1.7	
	29	R36	191	61					5.0	1.6	
	30	R37	191	59					5.0	1.5	
	31	R38	191	57					5.0	1.5	
	32	R39	191	54					5.0	1.4	
	33	R40	191	52					5.0	1.4	
	34	R41	191	50					5.0	1.3	
	35	R42	191	48					5.0	1.3	
	36	R43	191	47					5.0	1.2	
	37	R44	191	45					5.0	1.2	
	38	R45	191	43					5.0	1.1	
	39	R46	191	41					5.0	1.1	
	40	R47	191	40					5.0	1.0	
	41	R48	191	38					5.0	1.0	
	42	R49	191	37					5.0	1.0	
	43	R50	191	35					5.0	0.9	
	44	R51	191	34					5.0	0.9	
	45	R52	191	33					5.0	0.9	
	46	R53	191	31					5.0	0.8	
	47	R54	191	30					5.0	0.8	
	48	R55	191	29					5.0	0.8	
	49	R56	191	28					5.0	0.7	
	50	R57	191	27					5.0	0.7	
	51	R58	191	26					5.0	0.7	
	52	R59	191	25					5.0	0.7	
	53	R60	191	24					5.0	0.6	
	54	R61	191	23					5.0	0.6	
	55	R62	191	22					5.0	0.6	
	56	R63	191	21					5.0	0.6	
	57	R64	191	20					5.0	0.5	
	58	R65	191	20					5.0	0.5	
	59	R66	191	19					5.0	0.5	
	60	R67	191	18					5.0	0.5	
	合計			10,920	3,840	2,154	1,937			305	118

年平均被害軽減期待額b		191 百万円		
便益	3,840 百万円	= (R)	建設費	1,937 百万円 = (O)
残存価値	103 百万円	= (S)	維持管理費	118 百万円 = (P)
築堤・掘削	46 百万円	= (築堤・掘削の総費用) / (1+0.04) ^{s+50} = 508 / (1+0.04) ⁶¹ s : 整備期間		
護岸等構造物	12 百万円	= (護岸等構造物の総費用) × 0.1 / (1+0.04) ^{s+50} = 1324 × 0.1 / (1+0.04) ⁶¹ s : 整備期間		
用地費	45 百万円	= (用地費の総費用) / (1+0.04) ^{s+50} = 489 / (1+0.04) ⁶¹ s : 整備期間		
総便益B	3,943 百万円	= (T) = (R) + (S)	総事業費C	2,055 百万円 = (Q) = (O) + (P)
			B／C = 1.92 = (U)	



二級河川気仙川広域河川改修事業 計画概要図



大規模公共事業 再評価の概要

二級河川気仙川広域河川改修事業

令和7年6月16日

岩手県県土整備部河川課

大規模公共事業 再評価調書への記載内容について説明

I 事業概要

II 事業目的

III 事業の進捗状況等

⇒ 大項目評価①

IV 事業に関する社会経済情勢等の変化

⇒ 大項目評価②

V コスト縮減対策及び代替案立案の可能性

VI 総合評価

I 事業概要①

○河川名 : 二級河川気仙川

○事業内容 : 計画延長 $L=12,800\text{m}$

築堤工 $V=102,800\text{m}^3$

掘削工 $V=121,000\text{m}^3$

護岸工 $A=10,600\text{m}^2$

橋梁工 $N=2\text{基}$

○整備目標等 : 治水安全度 $1/30$ (将来 $1/70$)

○事業計画期間: 当初計画(H27) $H27\sim R12$

前回再評価時(R2) $H27\sim R12$

今回再評価時(R7) $H27\sim R17$

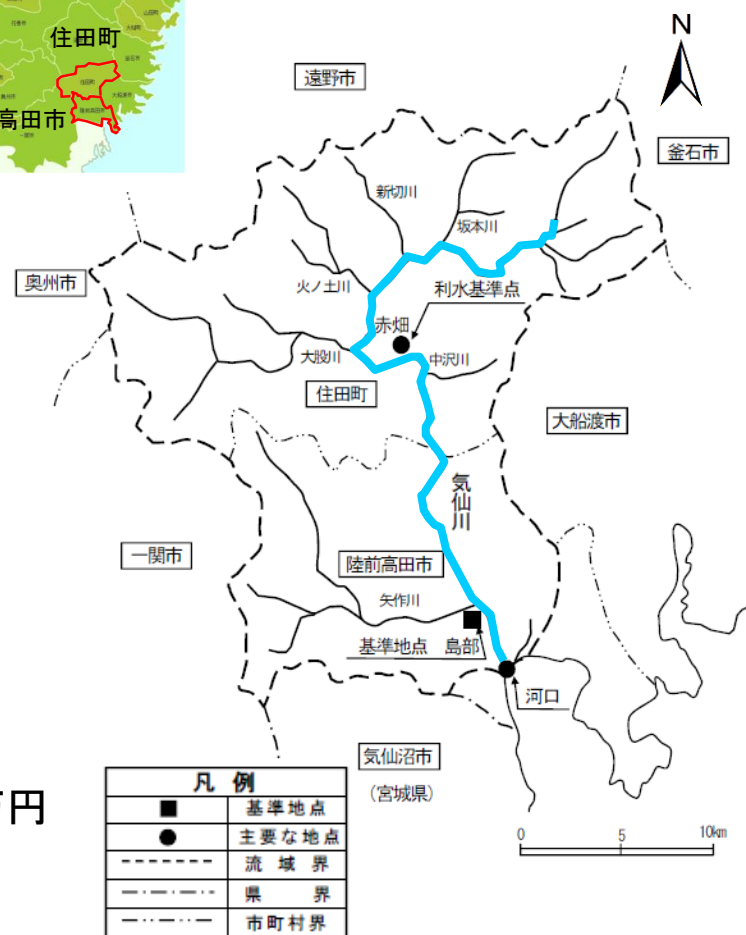
○総事業費 : 当初計画(H27) $C=3,000.0\text{百万円}$

前回再評価時(R2) $C=4,950.0\text{百万円}$

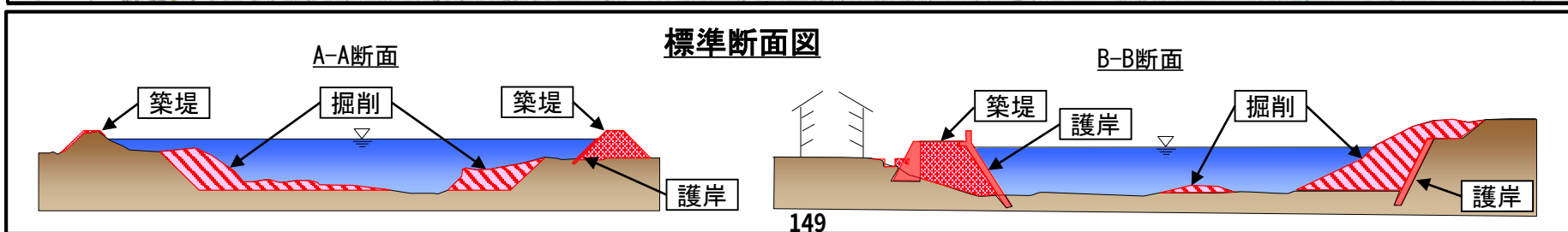
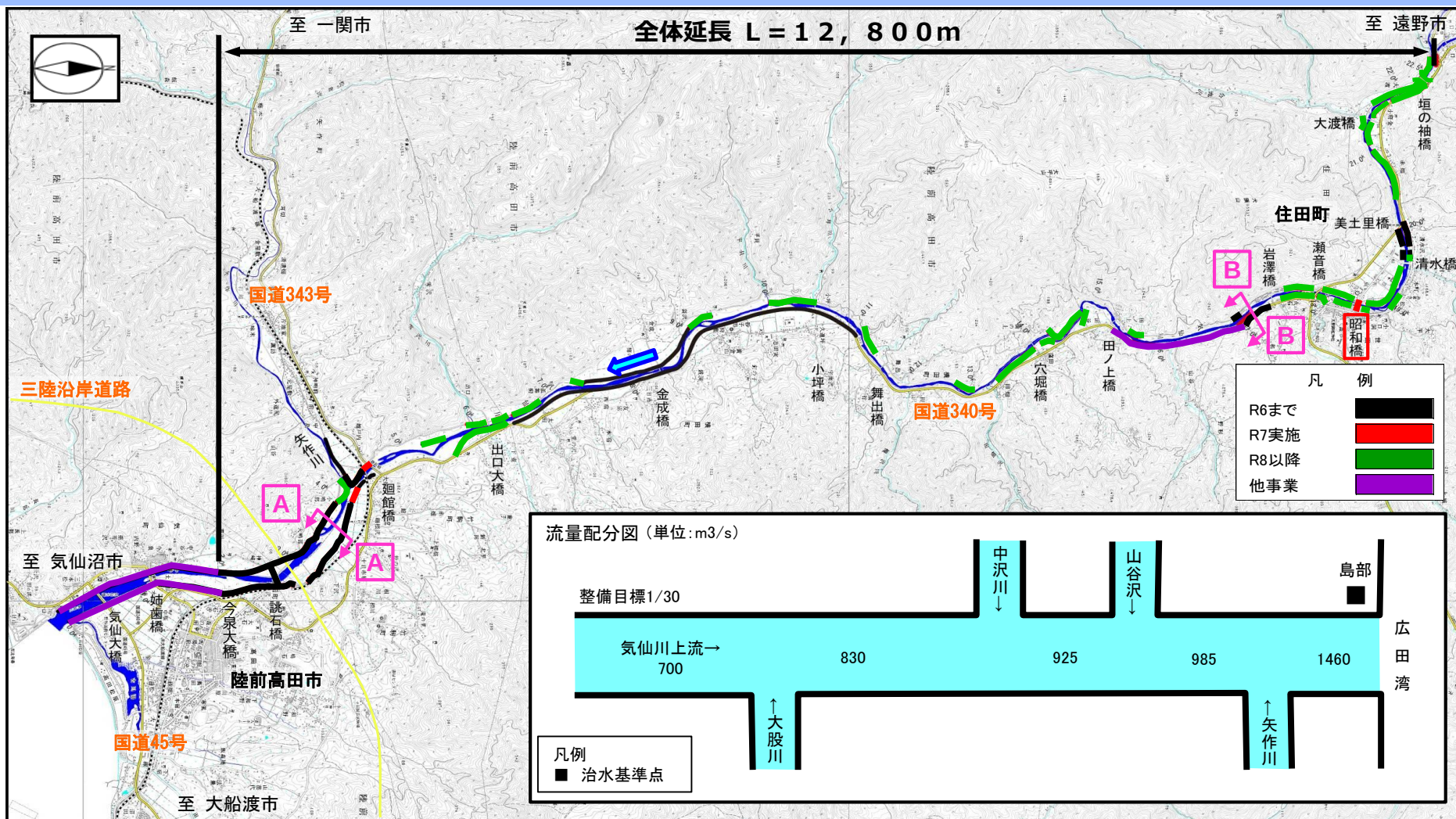
今回再評価時(R7) $C=7,089.2\text{百万円}$

○事業費の状況: 投資事業費(H27~R7) $C=5,131.8\text{百万円}$

進捗率 $F=72.4\%$



I 事業概要②



Ⅱ 事業目的

○気仙川の現状

気仙川の治水対策は、ダム及び河川改修により進めることとしていたが、平成23年3月に発生した東日本大震災津波により、河口部である陸前高田市の土地利用状況などが著しく変化したことに伴い、改めて気仙川全体の合理的な治水対策の検討を行った。

検討の結果、河川改修による治水対策が総合的に優位となったことから、平成25年、岩手県政策評価委員会にダム建設の「中止」を諮問し、平成26年7月において県として「中止」を正式決定したものである。

当該河川においては、近年では平成11年7月、平成14年7月、平成25年7月、平成28年8月等の大雨や台風に伴う浸水被害が発生しており、地域住民の治水事業に対する関心は高く、河川改修による早期の効果発現が求められている。

【洪水時の状況】



○整備によって得られる効果

河川改修を実施することで、概ね30年に1度の確率による降雨で発生すると考えられる洪水被害の解消が図られる。

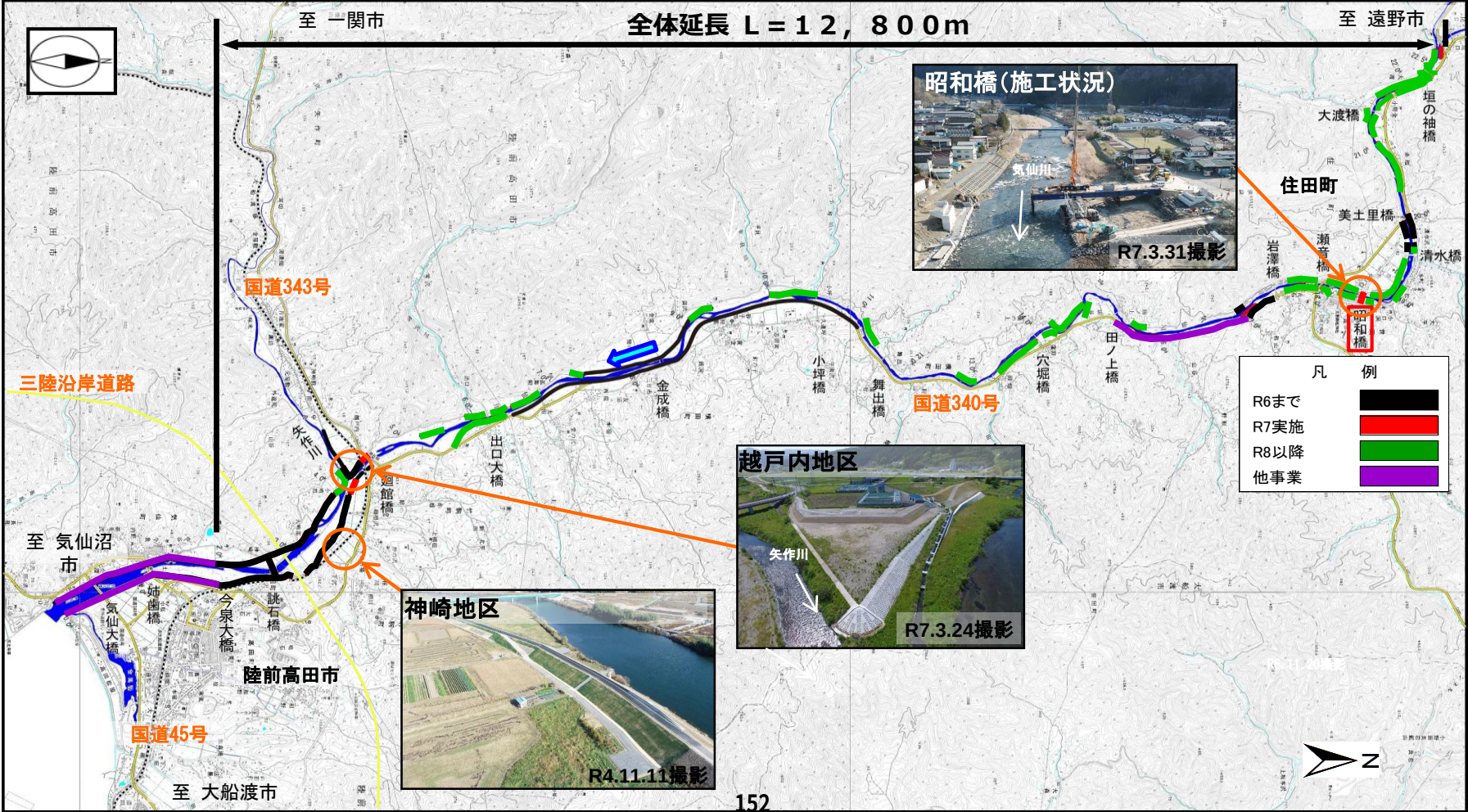
○事業の経緯

平成25年	津付ダム建設事業の中止について、岩手県政策評価委員会へ諮問、審議
平成25年7月	浸水被害が発生
平成26年7月	公共事業事前評価
平成27年	広域河川改修事業着手
平成28年8月	浸水被害が発生
令和2年	公共事業再評価 (総事業費の増)
令和7年	大規模事業再評価 (随時再評価:事業費の増(公共から大規模に移行))

(1) 事業の進捗状況

・県内に多発する洪水被害への対応など、本事業の進捗を阻害する要因はあるものの、一定の期間等を要することにより解決できる見込みであり、竣工の見通しがある⇒「b」とした

「事業計画の進捗状況」の中項目評価	a ・ b ・ c
-------------------	------------------



Ⅲ 事業の進捗状況等③

(2) 事業計画の変更の有無及び内容

・施工区間や主要な工事内容の変更は無し。

前回再評価時(R2)			今回再評価時(R7)
総事業費	4,950百万円	➡	7,089.2百万円
事業完了年度	R12年度	➡	R17年度

項目	変更前 (百万円)	変更後 (百万円)	増減 (百万円)	備考
築堤工	1,071	1,446	+375	労務費、資材単価上昇に伴う増
掘削工	1,308	2,172	+864	労務費、資材単価上昇に伴う増+502 残土処理地変更による増+362
護岸工	1,090	1,472	+382	労務費、資材単価上昇に伴う増
橋梁工	884	1,193	+309	労務費、資材単価上昇に伴う増
用地補償費	597	805	+209	労務費、資材単価上昇に伴う増
合計	4,950	7,089	+2,139	

・変更内容が施工区間の変更や主要な工事内容の変更ではなく、主に社会的要因(労務費や資材単価の上昇による増)に伴う事業期間及び事業費に関する変更⇒「b」とした。

「事業計画の変更の有無及び内容」の中項目評価	a ・ b ・ c
------------------------	------------------

Ⅲ 事業の進捗状況等④

事業の進捗状況等(大項目評価)

・中項目評価が「事業の進捗状況」が「b」、「事業計画の変更の有無」が「b」であることから、大項目評価を「BB」とした

「事業の進捗状況等」の大項目評価	AA ・ A ・ BB ・ B ・ C
------------------	----------------------------

Ⅳ 事業に関する社会経済情勢等の変化①

(1) 事業に関する社会経済情勢

ア 全国の状況	・自然災害により尊い人命や家屋等の財産が甚大な被害を受けている。 ・ハード対策を進めるとともに、<u>ソフト施策の充実</u>により、住民の水害に対する意識啓発に努めていく。
イ 本県内の状況	・大規模な浸水被害が県内各地で発生しており、<u>治水事業に対する関心</u>が依然として高い。 ・近年洪水被害が発生した河川等について重点的に整備しており、<u>段階的な整備により治水安全度の向上を図ること</u>としている。 ・河川に係る<u>ハード対策とソフト施策を一体的に進めている</u>。
ウ 施工地域における状況	・当事業区間は、<u>平成25年7月等の大雨で甚大な浸水被害を受けていることから、陸前高田市及び住田町から早期改修について、知事への要望が出されている</u>。 ・ソフト施策としては、県では平成30年度に<u>危機管理型水位計</u>、令和2年度に<u>簡易型河川監視カメラ</u>を整備し、ホームページで公開しているほか、平成17年6月に<u>水位周知河川</u>に指定し、水位情報を周知するなどの対策を講じている。また、平成30年10月に<u>想定最大規模の浸水想定区域</u>をホームページで公開し、地域住民の円滑な避難を促している。

(1) 事業に関する社会経済情勢

・本事業のあり方についての議論や見直しの検討はないことから「a」とした。

「事業計画に関する社会経済情勢」の中項目評価 **a** ・ b ・ c

【ソフト施策】

岩手県 河川情報システム(職員用)

※は職員専用メニューです。

用語集>> リンク集>> 更新

トップ 観測位置図 水位 雨量 ダム諸星 水防警報 カメラ画像 職員メニュー 障害報告

カメラ画像 (4/16) ページ切替: < 前ページ 次ページ > 観測所: 館

表示間隔: 1時間 10分 時刻切替: < 戻る 進む > 観測時刻: 2025年05月20日 09時00分 時刻指定

所在地 陸前高田市竹駒町字大畑 6 6 - 3 設置位置>>

2025/05/20 08:58:41

館

平常時の画像

2018/05/06 11:14:51

館

水位[m] 現在の水位は、0.96 mです。

7.50

0.00

9:00 5/19 21:00 9:00 5/20

堤防高

0.96

(m)

0.96

(m)

3.60

(m)

3.20

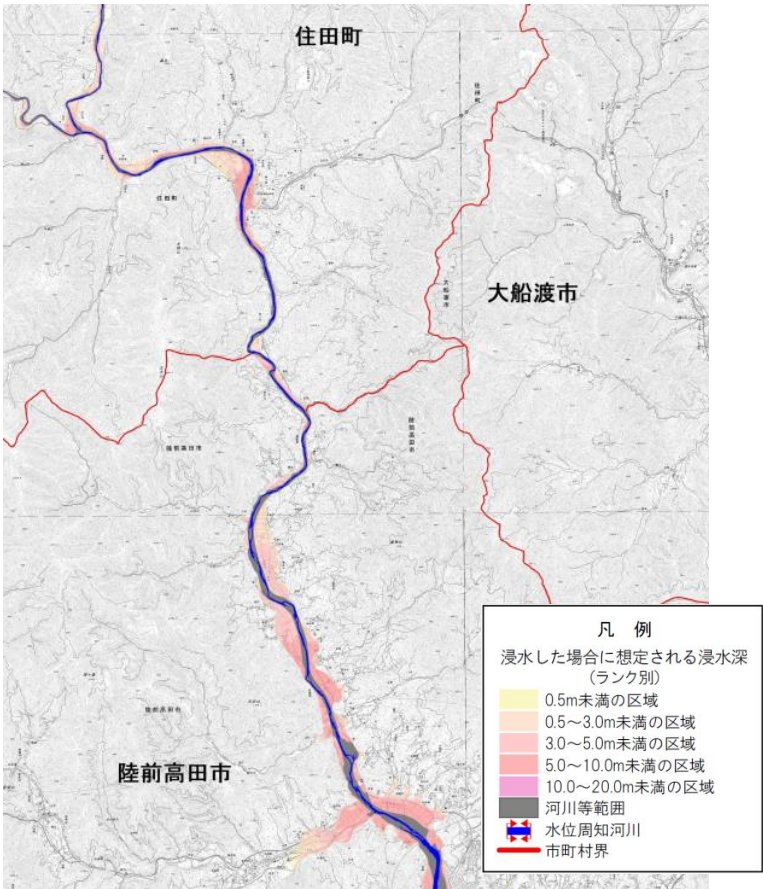
(m)

3.20

(m)

2.90

(m)



河川監視カメラの運用開始(R2)

洪水浸水想定区域の指定(H30.10)

(2) 事業に関する評価指標の推移

評価指数		配点	事業着手時 評点	前回再評価 時評点(A)	今回再評価 時評点(B)	増減 (B)－(A)	備考
必要性	想定氾濫被害額、防護人口、 公共施設・弱者施設、輸送施設	30点	30点	30点	30点	0点	
重要性	総合計画上の位置付け	5点	5点	5点	5点	0点	
緊急性	過去10年間の水害被害実績、回数 他事業関連の有無、流下能力比	15点	11点	11点	10点	-1点	
効率性	費用便益比 (B/C)	40点	20点	20点	20点	0点	前回 B/C :1.3 今回 B/C :1.1
熟度	地元要望、地元協力	10点	10点	10点	10点	0点	
計		100点	76点	76点	75点	-1点	今回評価/前回評価 99%

【過去10年間の被災回数】

- 評価時点の過去10年間の被災回数を集計。
- 平成25年7月豪雨に伴う浸水被害が対象から外れたことにより、減点となるもの。

・各評価指標の評点の合計が、前回評価時の90%以上 ⇒「a」とした。

「事業計画に関する評価指標の推移」の中項目評価

(a) ・ b ・ c

IV 事業に関する社会経済情勢等の変化④

費用便益比（B/C）の変化

（単位：百万円）

区 分		事業着手時	前回再評価時	今回再評価時
		（基準年：H25）	（基準年：R2）	（基準年：R7）
費用項目	建設費	2,238	4,851	7,626
	維持管理費	116	153	186
	総費用(C)	2,354	5,004	7,812
便益項目	被害額の便益	3,341	6,301	8,645
	残存価値	67	124	267
	総便益(B)	3,408	6,424	8,912
費用便益比(B/C)		1.4	1.3	1.1

○B/C変化の理由

- ・ 費用項目の増は、労務費、物価の上昇に伴う全体事業費の増と基準年の変更による現在価値化に伴うもの。
- ・ 便益項目の増は、前回再評価以後に改定された治水経済調査マニュアル(案)(R6.4月)に基づき算出した結果によるもの。

【参考】 残事業B/C=1.9

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

状況	・岩手県自然環境保全指針による保全区分:B ・希少野生動植物の有無 :あり ・埋蔵文化財包蔵地の有無:あり
対応	・希少野生植物移植先に関して、専門家の助言を基に移植を行い順調に生育していることを確認している。 ・泥が直接川に流入しないよう沈砂池や遮水壁を設置した。 ・施工方法や工程等について、地元の権利者(漁協)と調整している。

・自然環境保全指針に沿って積極的に対応 ⇒「a」とした。

「自然環境等の状況及び環境配慮事項」の中項目評価	a ・ b ・ c
--------------------------	------------------

社会経済情勢等の変化(大項目評価)

・中項目評価が「a」、「a」、「a」であることから、大項目評価を「AA」とした

「社会経済情勢等の変化」の大項目評価	AA ・ A ・ B ・ C
--------------------	-----------------------

(1) コスト縮減対策の実施状況及び今後の可能性

- ・ 護岸工において、地下水による湧水の流入が著しい区間にあつては、現場条件に対応すべく工法の見直しを行い、仮設工にかかるコストの縮減を図った。

縮減額 C＝約83百万円

(2) 代替案立案の可能性

①代替案として考えられる他の事業手法・工法の比較検討結果

ダム及び河川改修事業の中止に伴い、新たな治水対策として、河川改修による治水対策が妥当と判断している。

②今後における代替案立案の可能性

現時点で予想される社会・自然環境等の大きな変化はないため、代替案立案の可能性はない。

着手 年度	完了予定 年度	事業費 (百万円)	投資 事業費 (百万円)	進捗率 (%)	(1)事業進捗状況			(2)社会経済情勢				参考	
						進捗状況	計画変更		社会経済	評価指標	自然環境	評点	B/C
H27	R17	7,089	5,132	72.4	BB	b	b	AA	a	a	a	75	1.1

○「事業の進捗状況等」 大項目評価：BB

・事業期間や事業費を変更するものの、**施工区間や主要な工事内容に変更はないこと**から、今後も事業を推進し、治水安全度の向上を図っていく。

○「社会経済情勢等の変化」 大項目評価：AA

・社会経済情勢、評価指標、自然環境等の状況に**大きな変化は見られない**。



以上のことから、総合評価を「事業継続」とした。

令和7年度第2回岩手県大規模事業評価専門委員会 現地調査行程(案)

○開催日: 令和7年7月14日(月)

○対象事業

① 中山の園整備事業(滝沢市、一戸町)

○行程

		移動時間		移動時間		移動時間		移動時間	
始		0:10		1:10		0:25			
県庁		盛岡駅		一戸町		一戸町			
正面玄関前		(西口バス ターミナル付近)		現地調査		昼食			
出発				中山の園		(店名)			
発		発		発		発			
9:45		10:00		12:10		13:20			
移動時間		移動時間		移動時間		移動時間			
0:05		1:10		0:20		0:10			
着		着		着		着			
13:25		15:05		16:05		16:20			
一戸町		滝沢市		盛岡駅		県庁			
現地調査		現地調査		(西口バス ターミナル付近)		正面玄関前			
一戸病院		みたけの杜				帰庁			
発		発		発		終			
13:55		15:45		16:10					

◎時間は現時点での目安であり、交通状況等により変更になる場合があります。